東日本大震災
茨城県内図書館被災記録集

茨城県図書館協会

**********目　次**********

Ⅰ　東日本大震災茨城県内被災状況一覧――――――――――――― 1

Ⅱ　茨城県内図書館被災状況一覧――――――――――――――――― 4

Ⅲ　各館記録
　公共図書館
　　茨城県立図書館――――――――――――――――――― 6
　　水戸市立中央図書館――――――――――――――――― 16
　　水戸市立東部図書館――――――――――――――――― 18
　　水戸市立西部図書館――――――――――――――――― 20
　　水戸市立見和図書館――――――――――――――――― 22
　　水戸市立常澄図書館――――――――――――――――― 24
　　水戸市立内原図書館――――――――――――――――― 26
　　日立市立記念図書館――――――――――――――――― 27
　　日立市立多賀図書館――――――――――――――――― 28
　　日立市立十王図書館――――――――――――――――― 30
　　土浦市立図書館――――――――――――――――――― 32
　　古河市古河図書館――――――――――――――――― 34
　　古河市三和図書館――――――――――――――――― 35
　　石岡市立中央図書館――――――――――――――――― 36
　　ゆうき図書館――――――――――――――――――― 39
　　龍ケ崎市立中央図書館――――――――――――――― 41
　　下妻市立図書館――――――――――――――――――― 43
　　常総市立図書館――――――――――――――――――― 44
　　常陸太田市立図書館――――――――――――――――― 45
　　高萩市立図書館――――――――――――――――――― 47
　　北茨城市立図書館――――――――――――――――――― 49
　　笠間市立笠間図書館――――――――――――――――― 51
　　笠間市立友部図書館――――――――――――――――― 53
　　笠間市立岩間図書館――――――――――――――――― 56
　　取手市立取手図書館――――――――――――――――― 58
　　取手市立ふじしろ図書館――――――――――――――― 61
　　牛久市立中央図書館――――――――――――――――― 62
　　つくば市立中央図書館――――――――――――――――― 64
　　ひたちなか市立中央図書館――――――――――――――― 66
　　ひたちなか市立那珂湊図書館――――――――――――― 69
　　ひたちなか市立佐野図書館――――――――――――――― 71
　　鹿嶋市立中央図書館――――――――――――――――― 73
　　潮来市立図書館――――――――――――――――――― 74
　　守谷中央図書館――――――――――――――――――― 77
　　常陸大宮市立図書情報館――――――――――――――― 80
　　那珂市立図書館――――――――――――――――――― 82
　　筑西市立中央図書館――――――――――――――――― 84
　　筑西市立明野図書館――――――――――――――――― 85
　　坂東市立岩井図書館――――――――――――――――― 87
　　坂東市立猿島図書館――――――――――――――――― 88
　　稲敷市立図書館――――――――――――――――――― 90
　　かすみがうら市立図書館――――――――――――――― 93
　　神栖市立中央図書館――――――――――――――――― 94
　　神栖市立うずも図書館――――――――――――――――― 96
　　行方市立図書館――――――――――――――――――― 98
　　鉾田市立図書館――――――――――――――――――― 99
　　つくばみらい市立図書館――――――――――――――― 100
　　小美玉市小川図書館――――――――――――――――― 101
　　小美玉市玉里図書館――――――――――――――――― 102
　　茨城町立図書館――――――――――――――――――― 104

城里町立桂図書館―――――――――――――― 106
東海村立図書館―――――――――――――― 107
阿見町立図書館―――――――――――――― 108
八千代町立図書館―――――――――――――― 110
利根町図書館―――――――――――――― 111
公民館
小美玉市美野里公民館―――――――――――― 112
大洗町中央公民館―――――――――――――― 113
大子町立中央公民館別館図書館プチソフィア―― 115
美浦村中央公民館―――――――――――――― 116
河内町中央公民館―――――――――――――― 117
常総市地域交流センター――――――――――― 118
桜川市岩瀬中央公民館―――――――――――― 119
真壁伝承館真壁図書館―――――――――――― 120
桜川市大和中央公民館―――――――――――― 121
五霞町中央公民館―――――――――――――― 122
境町中央公民館―――――――――――――― 123
大学等図書館
茨城大学図書館本館―――――――――――― 124
茨城大学図書館工学部分館―――――――――― 126
茨城大学図書館農学部分館―――――――――― 128
茨城女子短期大学図書館―――――――――― 129
茨城キリスト教大学図書館―――――――――― 131
常磐大学情報メディアセンター――――――― 133
水戸短期大学図書館―――――――――――― 135
筑波大学附属図書館―――――――――――― 137
鯉淵学園農業栄養専門学校図書館――――――― 142
茨城工業高等専門学校図書館―――――――― 143
筑波学院大学附属図書館―――――――――― 144
茨城県立医療大学附属図書館―――――――― 146
つくば国際大学図書館―――――――――――― 148
筑波技術大学附属図書館―――――――――― 149
流通経済大学図書館―――――――――――― 150
私立図書館
笠間稲荷図書館―――――――――――――― 151
その他の機関―施設
常陽史料館―――――――――――――――― 152
茨城県教育図書館・情報センター――――――― 153
茨城県立点字図書館―――――――――――― 154

Ⅳ　記録掲載館住所――――――――――――――― 156

あとがき～刊行にあたって～ ――――――――――――― 158

Ⅰ　東日本大震災　茨城県状況

（1）2011 年 3 月 11 日茨城県内震度

平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震による各地の震度，地震・火山月報（防災編），（平成 23 年 4 月）より

2011 年 3 月 11 日 14:46　/　震央地：三陸沖　/ 深さ：24km　/　規模：M9.0

震度 （計測震度）	観測点
6 強	日立市助川小学校，日立市十王町友部，高萩市本町，笠間市中央，常陸大宮市北町，筑西市舟生，鉾田市当間，那珂市瓜連，小美玉市上玉里
6 弱	常陸太田市高柿町，高萩市安良川，笠間市石井，城里町石塚，城里町阿波山，つくば市苅間，鉾田市汲上，水戸市金町，水戸市中央，水戸市内原町，ひたちなか市南神敷台，ひたちなか市東石川，常陸大宮市山方，土浦市下高津，稲敷市役所，行方市山田，北茨城市磯原町，茨城町小堤，東海村東海，常陸大宮市野口，土浦市常名，取手市井野，美浦村受領，筑西市門井，鉾田市鉾田，水戸市千波町，那珂市福田，小美玉市堅倉，石岡市柿岡，石岡市石岡，つくば市天王台，鹿嶋市鉢形，潮来市辻，行方市玉造，日立市役所，小美玉市小川，鹿嶋市宮中，坂東市山，稲敷市結佐，かすみがうら市上土田，行方市麻生，桜川市岩瀬，桜川市真壁，鉾田市造谷，常総市新石下，つくばみらい市加藤，笠間市下郷，常陸大宮市中富町
5 強	大子町池田，常陸大宮市高部，常陸大宮市上小瀬，土浦市藤沢，石岡市八郷，下妻市鬼怒，取手市寺田，取手市藤代，河内町源清田，筑西市海老ヶ島，かすみがうら市大和田，桜川市羽田，結城市結城，阿見町中央，坂東市馬立，稲敷市江戸崎甲，稲敷市柴崎，筑西市下中山，神栖市溝口，つくばみらい市福田，常陸太田市町田町，常陸太田市町屋町，古河市仁連，龍ヶ崎市寺後，下妻市本城町，つくば市小茎，五霞町小福田，境町旭町，坂東市岩井，大洗町磯浜町，城里町徳蔵，古河市下大野，八千代町菅谷，守谷市大柏，坂東市役所，常陸太田市大中町，神栖市波崎，牛久市中央
5 弱	利根町布川，古河市長谷町

別図　「茨城県地図」参照

（２）茨城県内死者・行方不明者

茨城県 HP＞東日本大震災情報＞住宅被害・避難情報＞住宅被害情報（2012 年）3 月 16 日 17 時 00 分現在「茨城県災害対策本部情報班　第 135 報」，http://www.pref.ibaraki.jp/20110311eq/index4.html より

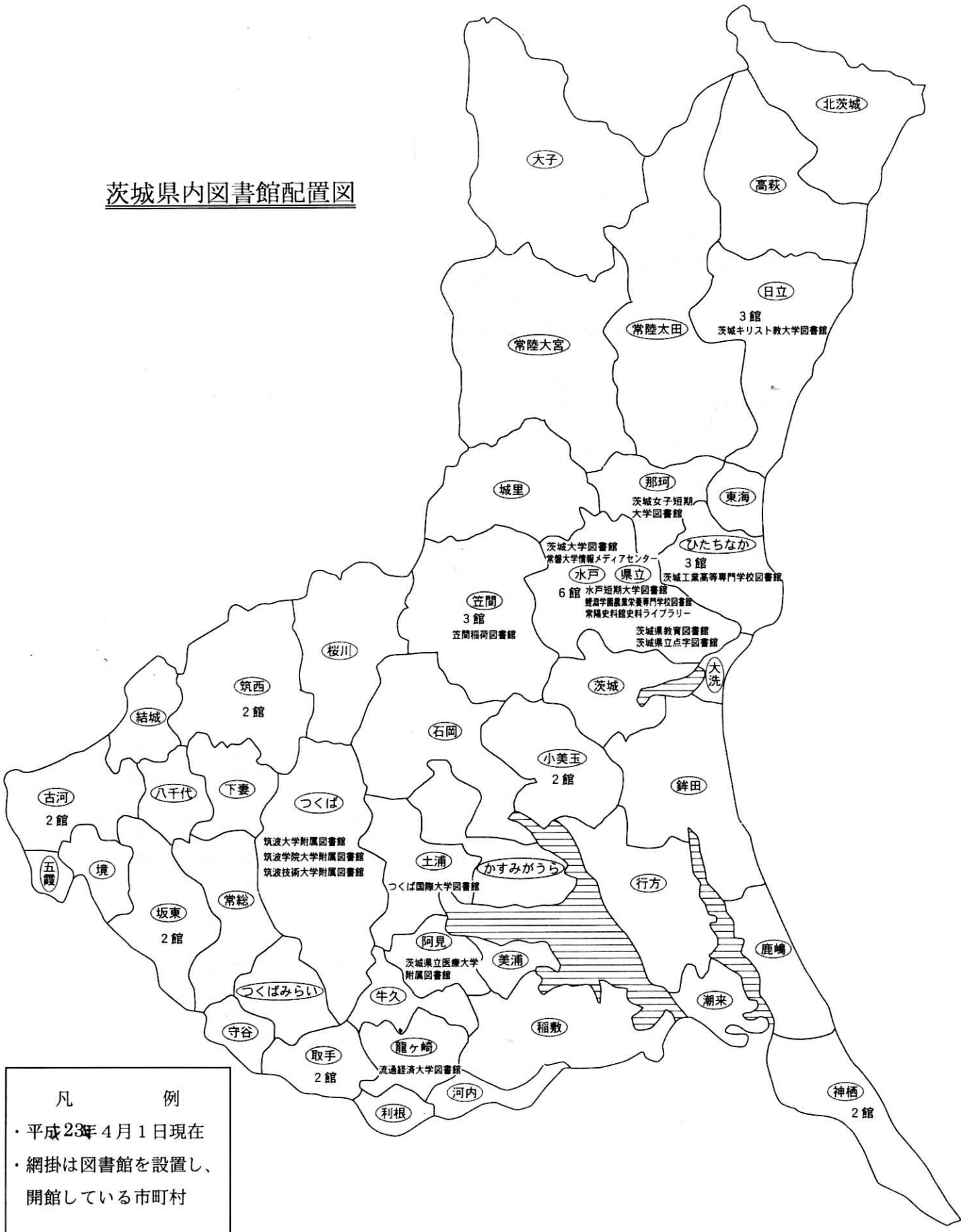
市町村	死者	行方不明
水戸市	2	
北茨城市	5	1
牛久市	1	
つくば市	1	
ひたちなか市	2	
鹿嶋市	1	
行方市	2	
大洗町	1	
東海村	4	
計	24	1

（３）他データ

①津波被害：茨城県津波浸水実績図，茨城県河川課，2011.9.30,
<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/doboku/01class/class06/kaigan/tunamisinnsui.html>

②住宅被害・避難：茨城県＞東日本大震災関連情報＞住宅被害・避難情報,
<http://www.pref.ibaraki.jp/20110311eq/index4.html>

茨城県内図書館配置図



凡　　例

・平成23年４月１日現在

・網掛は図書館を設置し、開館している市町村

・大学図書館等は会員のみ記載

Ⅱ　茨城県内図書館被災状況一覧

公共図書館	
茨城県立図書館	資料全体の４割（25万点）落下。警備員が頭部負傷。天井パネルの大規模な落下，壁崩落等被害甚大。復旧工事を経て9月10日に再開。
水戸市立中央図書館	資料全体の3割落下。3月29日から開館。参考資料室は4月8日から利用可。
水戸市立東部図書館	資料全体の7割落下。視聴覚室天井一部落下。4月20日から開館。
水戸市立西部図書館	資料全体の6割落下。中央部照明灯ポール倒壊。5月17日から仮開館。2012年2月に休館をして復旧工事を行い，2月16日から本開館。
水戸市立見和図書館	地盤沈下により玄関前床タイル亀裂。移動書庫歪み。3月29日から開館。
水戸市立常澄図書館	資料全体の9割落下。3月29日から開館。
水戸市立内原図書館	資料全体の8割落下。3月29日から開館。
日立市立記念図書館	入口天井ボードが落下及びガラス破損。5月16日から開館。
日立市立多賀図書館	2階から4階までの天井の一部落下。4月1日から1階ロビーに臨時カウンター設置。7月1日に全面再開。
日立市立十王図書館	書籍約3分の2（4万冊）落下。4月1日から2階部分を除き開館。5月1日2階供用開始。11月20日余震で施設に再度被害。
土浦市立図書館	資料は場所により1割～5割が落下。郷土資料室は被害大。3月18日から開館。だが郷土資料室は2012年1月現在でも利用者立ち入り禁止。
古河市古河図書館	落下した図書は閉架を併せても20冊弱ぐらい。3月20日から開館。
古河市三和図書館	一部の資料落下。3月20日から開館。
石岡市立中央図書館	開架は約7割、閉架は約3割の資料が落下。4月15日から開館。
ゆうき図書館	開架に配架された資料の8割程度が落下。4月1日から開館。
龍ケ崎市立中央図書館	開架資料の約6割が落下。3月18日から開館。
下妻市立図書館	図書資料が5割以上落下。4月1日から開館。
常総市立図書館	資料は開架で2割（約2万冊），閉架で1割（約3千冊）落下。18日から開館。
常陸太田市立図書館	館内書庫から約13万冊（蔵書の6割。（本館と金砂郷・水府・里美分室合わせて））落下。4月1日開館。
高萩市立図書館	資料は開架・閉架合わせて7割（約9万冊）落下。4月15日から開館。
北茨城市立図書館	津波により館周辺浸水。職員は暫く避難所対応。4月11日，12日余震で再び資料落下。水道破損して1,400冊の絵本水濡。4月19日開館。
笠間市立笠間図書館	開架・閉架とも資料の9割（約15万点）落下。3月26日暫定開館。3月29日通常開館。
笠間市立友部図書館	開架資料（12万点）のほとんどが棚から落下。4月1日から開館。
笠間市立岩間図書館	開架はおよそ半分（約3万冊）が落下。3月26日暫定開館。3月29日から通常開館。
取手市立取手図書館	1階一般開架フロアでは図書は約70％が落下。他では約50％が落下。3月26日より，図書館車庫仮設カウンターにより予約本の受渡しを開始。4月29日開館。
取手市立ふじしろ図書館	書架上半分の本ほとんど落下。3月23日から開館。
牛久市立中央図書館	蔵書面の被害あまりない。中央館は3月19日開館。
つくば市立中央図書館	開架図書資料3割落下。視聴覚資料6割落下。3月23日から再開。
ひたちなか市立中央図書館	壁面書架破損し大型本全て落下。復旧工事を経て6月14日再開。
ひたちなか市立那珂湊図書館	書架1カ所転倒。3月29日再開。
ひたちなか市立佐野図書館	6段書架棚板外れ上3段の本ほとんど落下。3月29日再開。
鹿嶋市立中央図書館	資料約2万冊落下。3月15日開館。大野分館が当初開館予定の4月1日から1ヶ月遅れて開
潮来市立図書館	図書等資料約9割飛散。4月11日に2階立入り禁止で再開。5月1日より2階開放。
守谷中央図書館	天井落下，書架破損など被害。落下天井板により利用者2名負傷。6月28日再開。
常陸大宮市立図書情報館	資料は開架・閉架併せて6割程度落下。天井大きく損傷し崩落の危険有。6月10日よりエントランス等一部で臨時開館を開始。全面再開は2012年夏頃予定。
那珂市立図書館	資料8割落下。復旧工事を経て9月30日に再開。
筑西市立中央図書館	図書15万冊が落下。3月29日から開館。
筑西市立明野図書館	開架・閉架併せて約10万冊の資料落下。3月29日から開館。
坂東市立岩井図書館	書架上段資料落下。CD本体落下破損。3月15日から開館。
坂東市立猿島図書館	書架の上部3分の1の資料落下。3月15日から開館。
稲敷市立図書館	開架書架で上段を中心に資料落下。5月10日から開館。
かすみがうら市立図書館	図書全体の1割ほど落下。AV資料ラックごと床に落下。3月18日から開館。
神栖市立中央図書館	地震発生時避難誘導中に職員が転倒し骨折。3月18日開館。
神栖市立うずも図書館	資料は1割弱落下。3月17日から開館。
行方市立図書館	資料は開架で6割（約4．5万冊）落下。4月1日から開館。
鉾田市立図書館	3割程度の本散乱。1階のみ使用で3月22日開館。4月2日，2階を含めた通常開館。
つくばみらい市立図書館	書架一部倒伏し大量の資料散乱。4月1日から開館。
小美玉市小川図書館	開架図書資料全部落下。CD600枚ほど落下。3月20日から開館。
小美玉市玉里図書館	開架1割弱（約3000冊），閉架1割弱（約1000冊）の資料落下。3月20日再開。

茨城町立図書館	館内木製書架転倒し図書約18,000冊落下。閉架スチール書架全数倒壊。5月17日に館内に図書を一時仮置きした状態で開館。
城里町立桂図書館	資料は開架で6割落下。3月30日から開館。隣接する町支庁舎被害甚大で使用不能となり，図書館2階仮庁舎となる。
東海村立図書館	地震発生時は増改築工事により休館中。7月リニューアルオープンの当初予定が遅れ，10月1日に開館。
阿見町立図書館	一般・児童の開架図書が約3割（42,000冊）落下。3月15日から開館。
八千代町立図書館	資料は開架で8割（約8万冊）が落下。3月25日から開館。
利根町図書館	資料は開架7割，閉架6割，約8万冊落下。3月16日から開館。
公民館	
小美玉市美野里公民館	ほとんどの本が棚から落ちる。5月1日からの再開。
大洗町中央公民館	津波で公民館1階及び外部の被害甚大。5月20日に開室。
大子町立中央公民館 別館図書館プチソフィア	3月15日から開館
美浦村中央公民館	5割程度の資料の落下。4月1日から開館。
河内町中央公民館	本の落下等無し。4月1日再開。
常総市地域交流センター	エレベーター，ステージ床面等被害。4月1日より再開。
桜川市岩瀬中央公民館	本の3割ぐらいが落下。5月6日再開。
真壁伝承館真壁図書館 （旧：桜川市真壁中央公民	真壁伝承館への移転作業の為，真壁庁舎で仮に開室中に被災。書架転倒し図書約40%落下。真壁伝承館への移転も遅れ，9月1日にリニューアルオープン。
桜川市大和中央公民館	被害軽微。5月6日から再開。
五霞町中央公民館	本棚転倒。3月16日から開館。
境町中央公民館	書架数カ所から図書落下。3月15日から再開。
大学図書館	
茨城大学図書館本館	約20万冊（5割）の図書落下。4月18日，書庫等一部利用制限して再開。
茨城大学図書館工学部分館	約10万冊の図書落下。4月11日開館。
茨城大学農学部分館	約6万冊の図書落下。4月4日開館。
茨城女子短期大学図書館	開架書架約半数落下。4月19日から開館。
茨城キリスト教大学図書館	図書・AV資料約4万点落下。別棟の閉架書庫の被害甚大。4月21日開館。
常磐大学 情報メディアセンター	図書は全体の約７割落下。大学の授業開始に合わせ4月26日より開館。
水戸短期大学図書館	開架資料は約3000冊強（全体の2割程度）落下。大学全体の工事等のため実際に利用できるようになったのは5月のGW明け。
筑波大学附属図書館	蔵書全体の6割（約150万冊）落下。各館で被害があるが特に体育・芸術図書館の被害甚大。3月29日に体育・芸術図書館以外で部分開館開始。
鯉淵学園農業 栄養専門学校図書館	ほとんどすべての資料が落下・散乱。4月7日始業式から昼間のみ開館開始。
茨城工業高等専門学校図書館	閲覧室窓ガラス破損。天井が数カ所で剥離・落下。5月9日から仮開館開始。
筑波学院大学附属図書館	配架図書約4割（約35000冊）が落下。配管漏水で多数資料水濡れ。6月1日から部分開
茨城県立医療大学附属図書館	図書のほとんど落下。配管漏水で約1千冊が水濡れ。1週間の閉館後に再開。
つくば国際大学図書館	図書等全体の3割程度落下。3月22日から通常開館。
筑波技術大学附属図書館	資料落下（聴覚＝約3000冊，視覚＝10000冊）。3月22日から開館。
流通経済大学図書館	10万冊を超える資料落下。4月25日の授業開始に合わせ4階（6階建ての内）までを一部開館。全館開館は2012年1月18日。
私立図書館	
笠間稲荷図書館	木造造棟で書架転倒，鉄筋造棟で側壁亀裂等被害。9月中に木造造棟等修復工事完了。
その他の機関・施設	
常陽史料館史料ライブラリー	書架転倒，展示ケースのガラス破損。5月10日から再開。
茨城県教育図書館 ・情報センター	4割の図書が落下。3月15日から開館。
茨城県立点字図書館	カセットテープ収納キャビネット転倒。3月14日から通暁業務再開。

茨城県立図書館

1　施設の概要

○所在市町村：水戸市
○延床面積：8700.60 ㎡
○建築年月：1970 年(当初は茨城県議会議事堂として使用。2001 年に図書館に改修)
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地下 1 階，地上 3 階
※上記の他，約 1.6㎞離れている三の丸 3 丁目に，主に団体用図書を保管する「三の丸書庫」がある。
○併設施設名：無し
○閲覧席数：440
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：873,326
（内，21.2 万冊程度が別棟の「三の丸書庫」所蔵）
○平成 22 年度開館日数：277
○平成 22 年度入館者数：544 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：2,960 千人
※建物は平成 15 年に日本図書館協会建築賞及びＢＥＬＣＡ賞（ベストリフォーム部門），東京建築賞（奨励賞）を受賞。

2　地震発生時の様子

当館では地震発生時には館内におよそ 300 人の利用者と 40 人の職員がいた。また当日金曜日は図書館の修理ボランティアの活動日であり，3 階のボランティア室では本の修理作業を，1 階おはなし室ではお話し会をしていた。

地震発生時は大きな揺れに驚きはしたが，いつものようにすぐに終わると思った。が，終わるどころか激しさを増して，いつまでも続く揺れが，館内にあらゆる異常事態を発生させた。

3 階では揺れが巨大になり，ロッカーなどが倒れる中，階下の閲覧スペースの様子を見に駆け下りる者や，3 階廊下から吹き抜けのエントランスホールを見下ろし避難指示を大声で叫ぶ者など混乱した状況であった。

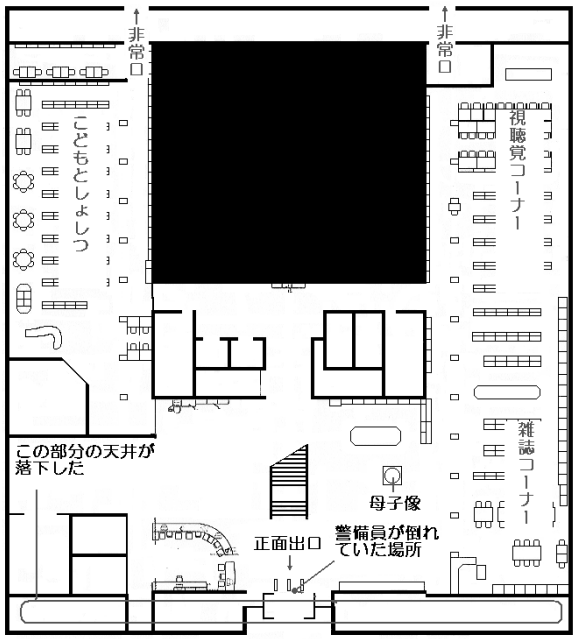
その内，火災警報が鳴り，「火事です！避難してください！」という自動アナウンスが館内全体に鳴りだした。「火元を確認しろ！」との叫び声があがった。

それと同時に，エントランスホール天井を端から端まで渡している天井パネルが見る間にひしゃげ，パネルと壁面のコンクリートもろとも，轟音とともに落下した。大部分の建材は壁から出っ張っている踊り場形状の部分に落下した。踊り場形状部分の直下は正面出口と総合カウンターで，かろうじて大惨事はまぬがれた。

が，その時，落下物の丁度真下の正面出口で，自動ドアを押さえながら，利用者の避難誘導をしていた警備員が昏倒して仰向けに倒れているのが見えた。

警備員は地震が起きたとき出口を確保する為に，自動ドアのスイッチを手動に切り替え，ドアを開けた。そして（後日，本人曰く「動揺していたのか」）ドアを支えながら続々と来る利用者を外に誘導していた。

3 階から職員が何かを大声で叫んでいるが，聞こえないまま，正面出口で誘導をしていた。天井からの落下があったのはその時で，何かが頭に当たり，警備員は意識を失った。警備員は避難中の利用者が外に運んでくれた。【図 1】



（図 1：図書館 1 階図面）

3 階で警備員が昏倒している姿を見た職員は一層声を大きくして「正面出口を使うな！」と叫んだ。それでも，揺れの最初の段階ではエントランスホールを抜け，正面出口から 100 人ぐらいが避難した。

3 階ボランティア室にいたボランティアは室内の棚やロッカー上の段ボールや重い修理道具のプレス機までもが次々と倒れてくる状態で身を守るために机の下に入り込んだ。そして避難の為に廊下に出たところで，エントランスホールの建材の落下を目撃した。この落下や廊下周辺の壁・天井が軋むことで白い粉が辺り一面に舞い上がり，火事と思うほど，そして絶え間ない揺れの中，這うように裏階段から下に降りた。裏階段を降りる間も揺れが続いている為，降りるのも非常に困難であった。感覚的には10分ぐらいかかった。

１階総合カウンターでは，地震発生時にはたまたま人が居ない状態であった。揺れが大きくなったので吹き抜けのエントランスホールに居た利用者たちを，脇のギャラリーやこどもとしょしつ，雑誌コーナーに避難させた。

雑誌コーナーでは，職員は利用者がエントランスホールに入り込まないように脇に立ってエントランスホール方面に出るのを阻止した。

利用者は，図書館裏側の視聴覚コーナー・こどもとしょしつ側の東側非常口に誘導した。(【図 1】の上部非常口】

こどもとしょしつでは，5～6 人のボランティアによるおはなし会が開かれている最中に地震に襲われた。事務室にいた児童サービス担当者はこどもとしょしつに急行し，子供をかばうなどしつつ，避難誘導をした。

2 階では職員は利用者に机に隠れるよう指示，本棚の間にいる人にはそこから出るように指示した。そして，書架奥の非常口を開け，利用者をそこから誘導・避難させた。職員は避難をする前に貴重品を持って出るように伝えた。

全館で避難をしている最中にも火災警報が鳴りっぱなしであった。職員は火元を確認に行ったが火災は発生していなかった。後日判明したが，揺れにより壁や天井から落下・剥落した建材の粉塵を煙と誤感知して警報が鳴ったものであった。

利用者全員の避難が終わった時点で，職員が残っている人がいないかを全館内で確認してから最後に避難をした。

全員館外へ避難し終えた所で，図書館前のロータリーに利用者・職員共々移動した。

外にいる間も何度も大きな揺れが 4 度ほど起きた。その度に図書館外壁が「バンッバンッ」と異音をあげて揺れた。

昏倒していた警備員は意識は回復したが動ける状態では無かった。救急車を呼ぼうにも携帯がつながらず，図書館隣の三の丸庁舎から車椅子を借りて警備員を近隣の水戸協同病院まで職員 2 名が付き添って運んだ。

しばらくすると，揺れが収まってきたので，三の丸庁舎広場に避難をしていた近隣の会社の方々からヘルメットを借用し，ヘルメットをかぶった職員十数名が館内に入り，利用者の荷物を運び出した。16 時頃のことである。館内は停電しており，懐中電灯が無かったため，日光が入らない部分は完全な闇の中であり，慎重に作業を進めた。外で利用者に荷物を渡し，やっと多くの利用者が帰路についた。

その後，職員の荷物を出すことができた時には既に日は暮れていた。

ここで翌日の集合を指示し，当日は解散となった。が，帰宅しようにも車は大渋滞で全く動かず，また，水戸駅が被災の為立ち入り禁止となってしまっており，帰れない職員も出た。そのような職員は図書館のすぐ隣の水戸市立三の丸小学校が避難場所になっていたので，そこで一夜を明かした。

地震があってからそれまで，地震の詳細な情報はまったくつかめていなかった。携帯電話も全く通じず，本庁への連絡等も全くできなかった。なので，職員の 1 人が解散後，館内から職場の自転車を出して，約 5.7km 離れている茨城県庁内の生涯学習課へ報告に向かった。

３　被害状況

施設被害

エントランスホールでは，天井から落下した鉄骨・コンクリートがあちこちに散乱していた。【写真 1,2】落下した一番大きなコンクリートは幅 60cm 程度あり，落下の衝撃で大理石の床に大きな傷ができた。

エントランスホールの西壁と，その天井部分の損傷が激しかった。天井ではパネルが落下したため鉄材が剥き出しになった。【写真 3】西壁にはコンクリートの剥落箇所が 2 箇所でき，更に大きなひび割れが生じた。

（写真１：エントランスホール）

（写真２：エントランスホール
左の踊り場形状部分に大部分が落下した）

（写真３：天井パネル落下跡
写真右上部分が剥き出しになった鉄材）

（写真４：天井パネル落下跡及び西壁）

エントランスホールに「母子像」という台座を含め全長 4m近い銅像があるが，これが台座から数 cm ずれていた。【写真 5】この銅像は 2012 年 3 月中に像部分を一旦台座から外して，更に強固に台座に固定し直した。

（写真５：母子像基部。全体像は写真 11）

2 階の視聴覚ホールでは東壁と，その天井部分が激しかった。エントランスホール同様に天井パネルが約 9.6m落下し，東壁のパネルが剥落した。更にスクリーンを覆う木製の電動開閉式パネル（1 枚約 600kg）が外れてしまった【写真 6】

（写真６：視聴覚ホール）

２ 階人文科学コーナー（館内南側）にあった，防煙たれ壁が１箇所崩壊し，直下（閲覧席等）にガラス片を散乱させた。

同じく２階の人文科学コーナー，郷土資料室（館内北側）の両翼共，最西側の大窓ガラス（H2.8m×W1.33m）が割れて，周辺にガラス片を散乱させた。【写真７】

（写真７：２階人文科学コーナー西側ガラス）

天井パネルの落下は館内の地階から３階のいたる所で発生した。【写真８】クラックが入った壁も館内の至る所で発生した。

（写真８：２階人文科学コーナー）

書架ではこどもとしょしつ内の床固定していない，回転式書架の転倒や，地下書庫の床固定していない書架の転倒があった。また２階開架書庫の高書架の天板が外れて落下した箇所があった。

また，地下積層書庫で書架を壁に固定しているボルトが外れている箇所が５つほどあった。

その他，分類番号表を貼りだしていた木製ボードの壁からの剥落【写真９】や，倉庫等のロッカーの転倒と中に保管している物の散乱等があった。

（写真９：自然科学コーナーの分類番号表ボード）

更に，詳細な被害調査の中で地下から屋上まで通空調の煙突内のれんが崩れていることや，屋根部分の鉄骨が折れているなど被害が判明した。

資料被害

館内は25万点（全体の約４割）程度が落下した。書架によっては８割以上が落下したとこともあった。

落下により表紙に傷が付いたり，ページが取れたりして約1,300冊の本の修理が必要になった。CD,DVD等もケースが割れるなどした。

人的被害

前章記述のとおり，警備員が頭部にあたった落下物により怪我を負い，脳挫傷と診断された。警備員以外の怪我人は出なかった。警備員は9月10日の再開時には復帰している。

システム被害

地震直後は停電のため，ネットワーク環境が全く使えなかったが，電気が来てから再立ち上げをしたところ，異常は全く無かった。

4　再開までの道のり

地震直後から休館状態となった。

12日は職員総出で，館内の被害状況を写真撮影するなどした。この時点で館内の被害が甚大でかなり長い期間再開できないことが予想された。エントランスホールは危険な状況であり，職員も立ち入り禁止とした。

館内にある公衆電話がもっとも良く繋がる通信手段であったので，これを使い，12日，13日に予定していた館内でのイベント等関係者に中止の連絡や，県内市町村図書館に被害状況を伺う電話をした。が，不通状態が多くスムーズな連絡はできなかった。

13日，関東電気保安協会点検後，12時10分に電気が復旧した。照明，FAXが使用可能になった。ただ，通電はしたがネットワークの再立ち上げをする業者が来ず，PCを使ってのweb情報の収集，ネットワークプリンターからの印刷ができなかった。県のHPに開館できない旨の情報を17時20分に掲載。

14日にトイレの使用ができるようになった。FAXを使って県外の図書館関係者から取り寄せた「savelibrary 東日本大震災による図書館の被害状況・被災情報」の茨城県の部分を県内市町村図書館にFAX送信した。また同じく，県外の図書館関係者からFAXで取り寄せたJRやバス会社の運行情報を隣の避難所に持って行った。

15日，この日から本格的な復旧が始まった。だが11名程の職員は交通手段が無いことなどから出勤できなかった。

15日朝にネットワーク環境が復活し，図書館システムに異常が無いことが確認され，PCを使った作業ができるようになった。図書館HPにも休館のお知らせを掲載した。

貸し出し中の資料の返却受付は，本来ならブックポストに投函してもらいたいところであるが，ブックポストのある正面出口側の壁が崩壊の危険を感じさせる程の被害であったため，正面出口の外部周辺は立ち入り禁止にし，利用者には裏の通用口に回っていただき，そこで受け取るようにした。貸出はしなかった。電話で問い合わせが有ったときは，通用口で受け取っている旨伝えたが，返却期限をすぎてしまっていても，急いで返す必要は無いことも伝えた。

15日は市町村図書館への相互貸借資料等を送る搬送便が出る日であったが，搬送の荷造り作業を行う部屋も散乱して，とても搬送ができる状況では無かった。搬送業者とは13日に連絡がついた＝図書館の電話やE-mailは使用できる状況に無かったので，個人のwebメールで連絡をとった＝が，先方も運搬できる状況では無かった。よって，15日の県立図書館から市町村図書館への搬送，その翌日の市町村図書館から県立図書館への搬送は取り止めることとなった。

市町村図書館の被害状況の聞き取りも通話がスムーズにできるようになり，多くの館の状況が解ってきた。が，北茨城市立，高萩市立とは連絡がつかず，震源に近い館であるため，心配をした。（後日，職員が被災者対応で館内にいなくて，電話に出られない状況であったことが判明した。）

落下した資料の戻し作業は15日から開始した。作業時はヘルメットをかぶるようにした。また，散乱した書類や，ロッカー等の片付けも開始した。

15日には県生涯学習課と営繕課が状況確認にきた。

また，既にこの頃は電力不足が懸念されている状況下であり，館内ではほとんどの場所で照明をつけずに業務を行っていた。

16日，聞き取り調査で得た県内図書館の被災状況を表にして，HPに「2011年3月11日発生の大地震における県内図書館被害状況」として載せた。この表は以

後状況が落ちつくまで，ほぼ毎日更新をした。

17 日，建設業者が入り現場調査を行った。

23 日，搬送便を地震前のスケジュール通りに運行をした。ただし，この時点でまだ再開できず，搬送便受取もできない館が数館あり，そのような館には搬送は見送った。

29 日，がれきの撤去が開始された。1 週間ほどかかった。

31 日，館長が定年退職。茨城県では震災対応のため定期人事異動を4月16日に延期する事とした。その為，４月 1 日から副館長が館長代理となり，2 週間ほど館長不在となった。

図書館サービス関係の再開状況は以下のとおり。

・4 月 2 日より，団体貸出（貸出文庫用図書）を再開。

・4 月上旬頃より，団体貸出（視聴覚資料・機材）を再開。

・10 日には落下資料の戻しが終了した。

・27 日，団体貸出（読書会用図書）の再開。

・5 月 17 日，相互貸借開始。電話・E-mail・FAX からのみでのレファレンス受付と当館資料の複写受付を再開。

・6 月 21 日から地震前に予約を受けていた資料の貸出を開始。利用者に電話連絡をして，貸出は通用口で 9 時から 17 時までの間，対応した。

・7 月 21 日から，障害者郵送貸出再開。

・8 月 16 日から，購入リクエスト資料の貸出を開始。利用者に電話連絡をして，貸出は通用口で 9 時から 17 時までの間，対応した。

上記の間もたびたび，おおきな余震が起こっており，壁のひび割れも拡がってきた。

落下破損で修理を要する図書約 1,300 冊に関して休館中の職員・当館修理ボランティアの手により修理を行った。修理ボランティアの活動は他のボランティアの活動に先駆け 6 月 24 日には再開をした。また，8 月 3 日には日本図書館協会の修理ボランティアも受け入れた。(7 章-(2)) 結果，9 割近くの図書が 9 月 10 日までに修理が終わった。

地震が起きなければ館内で開催する予定だった映画会等のイベントは全て中止となった。ただし，放送大学茨城学習センターとの共主催である「放送大学ライブラリー講演会」は会場を，放送大学茨城学習センターに代えて予定したスケジュールで毎月開催した。

復旧工事では 5 月 27 日（工期 7 月 26 日まで）に入札を行ったが不調となってしまい，6 月 17 日に再入札して工事業者が決定した。工期を8月16日までとして，工事が始まった。が，足場をかけて調べたら想像以上の被害であったことが判明し，追加工事を余儀なくされた。結果，工期が伸びて，工事検査完了したのは 9 月 6 日であった。復旧工事により天井パネル，壁面，防煙たれ壁は元通りに戻ったが，視聴覚ホールの電動開閉式パネルは取り外され，もっと簡易なタイプに付け替えられた。

そして，9 月 10 日土曜日に半年ぶりに全面再開をした。再開時は節電下であったが，開館時間を短くするなどの対応はしない通常開館であった。9 月 10 日の入館者数は 1,780 人で，前年度の 9 月第 2 土曜日の 74.7% である。その後も前年度を下回る入館者数が続いた。

9 月 13 日から 9 月 28 日の間，「茨城３．１１から復興へ」と題した，震災関係の展示を行う。

10 月 30 日に「いばらき読書フェスティバル 2011」を開催した。このイベントは毎年，図書館隣の三の丸庁舎広場で飲食・物産品販売等の出店を行い，にぎやかに行っていたが，2011 年は野外の出店はほとんど行わなかった。その理由は，震災で使えなくなった水戸市役所の仮庁舎の三の丸庁舎駐車場での建設が始まっており，駐車スペースが大幅に減ってしまったためである。

休館中，利用者からは再開時期のお問い合わせや，再開が遅れていることへのお叱りの言葉を多くいただいた。また，復旧状況について情報発信が無いことにもお叱りの言葉をいただいた。

再開時期のお問い合せに対しては 4，5 月前半頃は，修復工事の着工がはっきりせず「再開時期未定。7 月末には再開できるのではないか」と推測を交えた回答しかできなかった。6 月に工事着工が決まり 8 月後半

には再開できると確信し，図書館HPや利用者からの問い合わせにもそのように伝えた矢先，上述のとおり追加工事が発生し，再開時期がまた遅れてしまった。このことも御迷惑をおかけした。正式に9月10日再開と公表できたのは9月2日であった。

5　節電の状況

茨城県では各部署にピーク時の電力消費量を前年の20%削減するよう通達があり，図書館もその目標に達するよう努めた。具体的には以下のことを行った。

取組 (7月1日～9月30日の間)	節電 効果(%)
蛍光灯400本（約半数）間引	4.5
空調(地下閉架・集密書庫) 20分運転40分停止のサイクルで運転	12.6
空調(北側一般・視聴覚ﾎｰﾙ) 40分運転20分停止のサイクルで運転	
空調(南側一般・ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ) 40分運転20分停止のサイクルで運転	
視聴覚ﾎｰﾙ換気ﾌｧﾝ 40分運転20分停止のサイクルで運転	
排気送風機B1F機械室1 20分運転40分停止のサイクルで運転	
給排気送風機B1F機械室3 20分運転40分停止のサイクルで運転	
パッケージエアコン1F休憩室 設定温度1℃引き上げ(29℃)	0.2
パッケージエアコン3F事務室 設定温度1℃引き上げ(29℃)　※	
電気給湯器(飲用)停止	2.0
電気給湯器(雑湯用)停止	
職員用エレベータ停止	0.4
トイレ便座ヒーター停止	0.3

※事務室は昼間はほとんど照明はつけず，また相当暑くならない限りエアコンはいれなかった。

また冬場においても事務室では照明・空調は極力つけないなどの節電を行っている。

6　震災に関連した図書館活動

（1）県内図書館の被災状況のHP掲載・更新。

上述のとおり聞き取り調査で得た県内図書館の被災状況を表にして，HPに「2011年3月11日発生の大地震における県内図書館被害状況」として3月16日に載せた。その後，各館の再開状況は各館から連絡をしてもらい，その内容に従って，状況が落ち着くまではほぼ毎日更新した。この情報提供は市町村図書館から，「役に立った」との言葉をいただいた。

（2）道路沿い掲示版に震災関連情報の掲示

図書館から100m程離れた道路沿いに図書館専用の掲示板がある。平時は館内イベントチラシを貼りだしているが，3月16日頃より震災に関する情報の掲示を開始した。震災直後から1ヶ月程度は交通情報，放射線情報などを県HPから入手し貼りだした。交通状況が復旧し始めてからは，県や中小企業庁等の被災者・被災企業への支援事業情報を掲示した。9月10日の再開直前まで掲示し続けた。

（3）避難所への団体用資料等の貸出サービス

避難所を対象とした下記のサービスを開始した。

①「大人向け」「中高生向け」「小学生・幼児向け」の貸出セットを作成し，希望のあった所へ貸出。

②団体視聴用AVを希望のあった所へ貸出。

③スクリーン，プロジェクター等の機材を希望のあった所へ貸出。

上記のことを県や市町村の災害対策本部に連絡し，希望を募った。結果，福島県からの避難者を30名ほど受け入れていた茨城県教育研修センター（笠間市）が貸出の希望を出されたので，4月上旬に78冊（大人用55冊，児童用23冊）の図書を同所に運搬した。避難者がいなくなった後，6月頃に貸出していた図書を引き上げた。

（4）再オープン記念展示「茨城３．１１から復興へ」

9月13日から28日にかけて「茨城３．１１から復興へ」と題して，震災関係の写真や関連資料の展示を

エントランスホールで行った。【写真 10】展示内容は以下のようなものである。

・茨城新聞社，県消防防災課等から借用した県内各所の被災写真の展示。

・茨城応援プロジェクト＝「がんばっぺ茨城」「鹿行魂」「WITH HOPE」「茨城魂」＝の関連グッズを使って紹介。

・NHK 水戸放送局から借用した著名人が茨城県に寄せた応援メッセージが書かれた色紙の展示。

・「防災」「被災者支援」「事業者支援」等について関連機関発行の冊子やチラシの設置，及び各種相談窓口を紹介する一覧表の掲示・配布。

・神戸市民から寄せられた応援メッセージの展示。(7 章－(1))

・休館中に利用者（児童）からいただいた，千羽鶴の展示。

・3 階吹き抜けの空間を利用し，震災で観測された津波の実際の高さを壁面にテープで表示。【写真 11】

・「地震」「防災」「放射線」等の関連図書の展示。

・岩手・宮城・福島への応援メッセージの募集。このメッセージは展示終了後，それぞれの県立図書館へ送付した。

（写真 10：展示風景－全体）

（5）図書修理研修会の開催

茨城県図書館協会として県内 3 箇所（常陸太田市立＝9 月 28 日，当館＝9 月 29 日，潮来市立図書館＝9 月 30 日）でキハラ株式会社の方を講師に，県内の図書館員等を対象に図書の修理研修を行った。この研修は「Help　Toshokan　図書館支援隊」，被災地図書館の支援の一環の中で，日本図書館協会，キハラ株式会社の協力で行われた。3 日で計 73 名の参加者があった。

（写真 11：津波の高さ展示
最上部「相馬」は 8.9m の高さ）

（6）研修「東日本大震災と図書館～あれから 1 年，図書館でできる事を考える～」の開催

茨城県図書館協会の中堅職員研修として 2012 年 1 月 31 日に以下の内容の研修を開催した。

・講演「図書館と災害」，筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授　植松貞夫氏

・報告「東日本大震災における書架倒壊調査報告」，日本ファイリング株式会社営業管理部第二設計課長　福山幸二氏

・各図書館からの報告

笠間市立友部図書館，いわき市立いわき総合図書館，潮来市立図書館，取手市立取手図書館，ゆうき図書館

（7）「防災に関する資料」の重点収集

平成 23 年度の一般資料の重点収集テーマのひとつに「防災に関する資料」をあげ，防災対策，自然災害，

原子力事故等の情報が載っている資料や，災害復興に役立つ資料の充実を図った。

7　他からの支援

（1）神戸市民からの応援メッセージ

当館では茨城空港開港1周年を記念して国内線就航の地にある神戸市立中央図書館と観光エクスチェンジ展を3月8日から開始していた。（終期3月21日）地震により茨城での展示は4日で中止となってしまったが，神戸市立中央図書館はそのまま展示を続けられ，更に急遽館内で茨城県への応援メッセージを募集し，そのメッセージを当館に贈っていただいた。【写真12】メッセージには同じく大震災を体験した神戸市民からの共感を込めた励ましが込められていた。

（写真12：神戸からのメッセージ）

（2）本の修理ボランティア

8月3日，日本図書館協会が行っている被災地支援活動「Help　Toshokan」第2期支援活動の一環として，9名の方が当館へ破損した資料の修理ボランティアとして訪問。当館の修理ボランティアの方々と共に1日で180冊を修理された。本活動に関しては日本図書館協会HP内「被災地支援レポート2」に詳しく載っている。（被災地支援レポート2　本の修理ボランティアレポート，佐竹かおる（埼玉県立久喜図書館，http://www.jla.or.jp/home/earthquake/tabid/366/Default.aspx）

また，当館の修理ボランティアの皆様には8月3日だけでなく，6月24日から毎週金曜日，延べ10日間にわたり本の修理をしていただき，再開までに766冊の図書を修理していただいた。

（3）キハラ株式会社の協力による図書修理研修会

6章－(5)のとおり。

（4）岐阜市民からの応援メッセージ

岐阜市立図書館分館では2011年10月29日～11月9日の間，館内に鹿島アントラーズ，水戸ホーリーホックのフラッグを設置し，それに茨城県への応援メッセージを書いて貰う催しを行われ，そのメッセージを当館に届けられた。【写真13】当館では「Ｆｉｇｈｔ茨城　Ｆｒｏｍ　岐阜市」と題して12月9日から28日の間，館内でそのフラッグを展示した。茨城の誇る2チームのフラッグ一杯に書かれた応援メッセージは何よりの励ましになった。

（写真13：岐阜市からのメッセージ）

（5）復興支援シンポジウムの開催

11月13日，「茨城魂プロジェクト」（茨城新聞社，茨城放送，NHK水戸放送局）が主催する「復興支援シンポジウム　風評被害にどう立ち向かうか」を当館視聴覚ホールで開催した。パネリストには橋本昌茨城県知事らが出席し，205人の観客が来た。

（6）米国アイオワ州からの折り鶴

アイオワ州マッサー公共図書館（Musser Public library）を利用している子供が折った折り鶴が日本図書館協会を通して届けられた。これを2012年2月1日から3月18日の間，こどもとしょしつで展示をした。展示に加え「折り紙作品を創って，アメリカの子供に

お礼のメッセージと共に送る」コーナーを設置した。【写真 14】

（7）日本図書館協会「Help Toshokan」活動写真展示

こどもとしょしつにおいて，2 月 7 日～19 日の間，日本図書館協会から借用した「Help Toshokan」活動写真を展示した。

以上の多くの方々のご支援・ご声援，また，休館中は多くの利用者の皆様から，励ましの言葉をいただきました。この場をお借りしまして，感謝申しあげます。

8　所感

3.11 直後の館内状況を省みて，悲惨な人的被害が出た可能性は否定できない。巨大地震は図書の落下，書架の転倒の他，以下のような現象ももたらすことが教訓となった。

・壁や天井からの粉塵による火災報知器の誤作動がある。

・防煙たれ壁の破損と落下。相当な高さから巨大なガラス片が落下して来るので，危険性が高い。

・相当大きい天井パネルが落下する。

避難行動では負傷者が出たことから課題を残した。当館のような吹き抜けの大空間を要する館では，天井の高さ故に小さな落下物でも危険となることを認識しておく必要がある。現在は正面出口他各所でヘルメットを常置している。

通信手段は固定電話・携帯電話での通話，職場のネットワークを使った E-mail が断絶する中，携帯電話の mail 機能，携帯からの web-mail の使用が時間がかかったにせよ，確実に外部とコミニュケーションがとれた。非常時に備え，電話番号だけでなく各要所・要人のメールアドレスも把握しておく必要を感じた。

地震発生後数日間は館内ネットワーク環境が全滅していたため，ネット上のタイムリーな震災関係の情報入手に苦慮した。ここでも個人の携帯端末が情報入手に役だった。また，FAX が復活してからは県外図書館からプリントアウトした web 情報を送ってもらったことも貴重な情報入手になった。

ネットワークが復旧してから休館のお知らせをすぐに当館 HP に載せたが，その後，経過報告等の情報提供が滞ったことは，反省点のひとつである。

休館が長引き直接サービスが半年間ほとんどできなかった点は，痛恨の極みである。その中で，市町村支援の面では搬送便を 1 回の中止にとどめ，また，県内図書館被害状況をタイムリーに提供できたことで，県立図書館としての役割を有る程度果たせたのではないか。

地震から 1 年がたった今でも大きな余震がたびたび襲っている。再び巨大地震が来ても今回のことを教訓に，安全な避難と迅速な復旧ができるようにしたい。

参考資料

・かがやき［茨城県立図書館ボランティア通信］，Vol22，2011.11，
http://www.lib.pref.ibaraki.jp/home/volunteer/volunteer.htm

水戸市立中央図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2,917.96 ㎡
〇建築年月：1980 年
〇建築構造： 鉄筋コンクリート造 地下１階 地上 4 階
〇併設施設名：水戸市立博物館
〇閲覧席数：156
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：425,771
〇平成 22 年度開館日数：270
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）千人

２　地震発生時の様子

水戸市立中央図書館では地震発生時館内にはおよそ 40 人の閲覧室利用者と 12 人の読書室利用者 14 人の職員がいたが，地下の閉架書庫から 3 階の事務室までの職員が揺れの合間に利用者を避難誘導し，全員が避難した。

書架から本が崩れ出し，利用者の鎮静化を図りながらの避難誘導となった。

３　被害状況

施設面では，通用路コンクリート外壁亀裂及び崩落，外壁タイル剥離・亀裂及び崩落，窓ガラス亀裂及び破損する。資料面では，空調関係配管の破断による水漏れのため資料の汚損及び破損，書架崩壊及び脆弱化による資料の汚破損が発生した。

人的被害はなし。

資料は，全体の 3 割程度が落下した。

（１階階下室の様子）

（2Ｆ参考資料室の散乱状況①）

（2Ｆ参考資料室の散乱状況②）

４　再開までの道のり

地震発生直後から，休館状態に入る。

地震発生後の電気・電話・水道が断絶するなか，市立図書館 6 館を廻り被災状況を確認し連絡調整して状

況確認と復旧の検討を行う。外壁タイルの崩落及び窓ガラス破損が危険なため，3 月 14 日より修繕検討を行い復旧作業に入る。

館内片付けについては 3 月 12 日より開始。また，地震直後の 3 月 12 日から市内各所の避難所等の対応にも追われた。

危険な状態にあった壁面タイルの補修などを実施し，未補修部分については，注意喚起の掲示等を行った上で 3 月 29 日から中央・見和・常澄・内原図書館の 4 館体制で開館する。ただし，中央図書館 2 階の参考資料室は資料整理のため閉鎖して 4 月 8 日より再開する。

10 月 1 日から開館時間を平常時に戻す。

5　節電の状況

3 月 29 日の開館時から 9 月末まで平日 2 時間短縮の 17 時 15 分閉館を実施。

6　震災に関連した図書館活動

福島県よりの避難所である「水戸市少年自然の家」避難者に対し，図書の貸し出し及び絵本の読み聞かせや紙芝居を実施する。

（避難所での読み聞かせの様子）

地震をテーマにした資料展示。

福島県の地方紙（福島県からの提供）の常設掲示。

7　他からの支援

財団法人図書館振興財団より，被災地緊急支援として書架耐震補強工事をしていただく。

8　所感

書架の地震に対するぜい弱性を強く認識した。

施設の老朽化が，復旧作業の困難要因となることを痛感する。

水戸市立東部図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,802.43 ㎡
〇建築年月：1989 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造
　　地上２階一部地下１階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：143
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：113,081
〇平成 22 年度開館日数：267
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：269 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時,館内には 30 数名の利用者と８名の職員がいた。1～2 分様子を見ていたが，危険を感じたため利用者全員を館外へ避難させると同時に，職員も屋外へ退避させた。

３　被害状況

人的被害はなし。

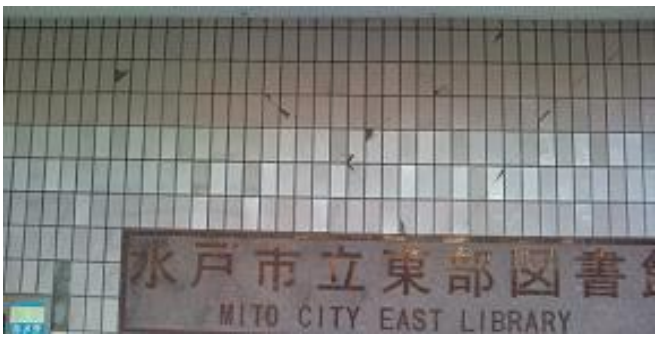
施設の外壁各所にひび割れが発生し，数百枚のタイルが剥離落下した。【写真 1】

2 階視聴覚室天井の石膏ボード全体が 5 センチ程南側にずれ，ひび割れを起こしぶら下がった。【写真 2, 3】

その他 1･2 階天井各所の照明器具,空調の吹出し口,感知器，調光用ルーバー等が脱落落下した。

設備では２階系統の空調用配管に亀裂が入り，水漏れを起こした。また，二階廊下天井のファンコイルユニット６台のつなぎ目にひびが入り使用不能となった。

資料について全体の７割程度が落下した。【写真 4】



（写真１　外壁の被害）

（写真２　２階視聴覚室天井の被害　1）

（写真３　２階視聴覚室天井の被害　2）

（写真４　本が散乱した壁面書架）

４　再開までの道のり

震災直後から休館。翌日の３月 12 日から復旧作業を開始。電気，水道は３月 14 日に復旧する。

天井から脱落，落下した器具類等の片付け。散乱した約８万点の資料の戻しと整架。外壁タイル約 1,100 枚の張替え及びひび割れ補修，ぶら下がった館内照明灯の修繕，天井周辺や頭上の危険物（絵画や調光用ネット等）の固定や除去。ぶら下がったカウンター天井の修理。亀裂の入った空調用配管の補修等を実施。特に危険な外壁のひび割れと１階開架室の修繕工事を優先的に行い，４月 20 日に開館した。

この間，避難所等での救援活動にも職員が交代で当たった。なお，2 階部分（読書会や行事用の部屋が 3 部屋）の修繕は第 2 期復旧工事として，2011 年 12 月６日から 2012 年２月６日までの期間で作業を進めている。

５　節電の状況

４月 20 日～9 月末まで平日の開館時間を２時間短縮し，17 時 15 分閉館とした。一般，児童開架室の一部，玄関，１階エントランス等の照明の間引きや消灯を行った。また，張り紙をして節電への協力を呼びかけた。

６　震災に関連した図書館活動

地震をテーマにした資料展示

福島県の地方紙（福島県からの提供）の常設掲示

７　所感

利用者の避難誘導に手間取ったこともあり，日頃の訓練の必要性を強く認識させられた。

水戸市立西部図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,991.28 ㎡
〇建築年月：1992 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：132
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：106,875
〇平成 22 年度開館日数：267 日
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：269 千人
※建物は 1993 年に「吉田五十八賞」受賞。

２　地震発生時の様子

水戸市立西部図書館では地震発生時，館内にはおよそ 30 人の利用者と 8 人の職員がいた。

館内には中央部分を円形に囲む形に配置された高さ 6 メートルの 8 基の照明灯ポールがあったが，これが地震の揺れとともに基部を支点にして大きくしなりはじめ，ついには倒壊をした。しなりが大きくなった段階で危険を感じ，利用者に避難を呼びかけた。

利用者を館外へ誘導後，館内に残留者がいないことを確認し職員も避難した。

３　被害状況

施設面では，閲覧室中央部に設置された照明灯が倒壊。照明灯倒壊に伴い，閲覧室壁面，階段等手摺，床，ソファー等が破損した。

（倒壊した照明灯）

（倒壊しソファーに食い込んだ照明灯）

（上写真の拡大）

（倒壊し 2 階部分に食い込んだ照明灯）

そのほか外壁の一部剥離。出入口付近のインターロッキングの陥没及び隆起。躯体のクラック等が発生した。

人的被害は無し。

資料については，全体の6割程度が落下した。

（図書の散乱状況）

4　再開までの道のり

地震発生直後から，休館状態に入った。

地震発生後数日は，電気・電話・水道が断絶，照明灯の倒壊した状況が危険なため，市内他図書館の復旧作業の応援に当たる。当館の館内片付けについては 3月 16 日より開始。また，市内各所の避難所等の対応にも追われた。

倒壊し危険な状態にあった照明灯の撤去，壁・床等の補修などを実施し，未補修部分については，注意喚起の掲示等を行った上で5月 17 日から仮開館。

照明灯が無くなったため，仮開館中は，閲覧机上などにスタンド式の照明を設置して，手元の明るさを補った。

照明灯などの復旧工事を平成24年2月に休館の上，実施し，2月 16 日から本開館とする。

5　節電の状況

5月 17 日の仮開館時から9月末まで平日2時間短縮の 17 時 15 分閉館を実施。

一部照明の間引き及び夜間常夜灯の消灯を実施。

利用頻度の少ない特別書架室については，利用時以外消灯とする。

6　震災に関連した図書館活動

震災をテーマにした資料展示。

福島県の地方紙（福島県からの提供）の常設掲示。

7　所感

避難誘導訓練を行っていたので，利用者の避難誘導はスムーズにできたが，時間帯よってはより少ない職員で対応しなければならず，今後については，少なからず不安を覚えた。

水戸市立見和図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,994.12 ㎡
〇建築年月：2005 年 10 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート・一部鉄骨鉄筋コンクリート造　地上一部 2 階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：107
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：115,352
〇平成 22 年度開館日数：268
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：269 千人

２　地震発生時の様子

2011 年 3 月 11 日は金曜日であったため，本館は休館しており，職員・利用者は不在だった。

夕方，館長が状況確認をする。

３　被害状況

【施設内部】

図書の落下・散乱。

（図書が散乱した 1 階開架スペース）

閉架にある移動書庫の歪み。

視聴覚室のＰＣボード天井から白い粉が大量に落下。グループ学習室の窓の鍵が歪む。窓ガラスにひびが１か所。当初は水道不通。電気不通。

【施設外部】

地盤沈下により，玄関前の床タイルに 3 メートルの亀裂。南側インターロッキング舗装のブロック約 20 メートル陥没。建物外壁タイル多数亀裂。

（玄関前の床タイルに 3 メートルの亀裂）

４　再開までの道のり

〇3 月 11 日夕方，館長が状況確認をした。
〇3 月 12 日～休館となる。当日，電気・水道回復する。

職員・嘱託員全員及びアルバイト有志・ボランティアで落下・散乱した図書の整理を始めた。門扉・玄関等に「当分の間休館」の張り紙をする。

市民からの問い合わせ電話が多数あり。本庁による避難所への動員もあり，勤務体制が整わなかった。

〇3 月 29 日～開館する。開館時間を 9 時 30 分～17 時 15 分に短縮する。それに伴い，予約の受取待ち期間を 14 開館日に延ばす（平時は 7 開館日）。

水戸市立図書館のうち東部・西部が閉館，また県立図書館の閉館の影響もあり，利用者は増加した。

〇10 月 1 日～開館時間を平日 9 時 30 分~19 時に戻す。

５　節電の状況

〇地震当日から暖房を停止した。
〇夏場の冷房の温度を 28 度に設定し，こまめに運転を行った。
〇事務室・開架とも，点灯する蛍光灯の数を減らした。
〇トイレの保温便座のスイッチを切った。

６　震災に関連した図書館活動

〇3 月 29 日～5 月 8 日

『東日本大震災関連展示』

震災・津波・放射能・防災関連本を展示した。

〇9 月 1 日～9 月 30 日

『福島県を応援しよう！』

福島県関係の本，福島民報を展示した。

（『福島県を応援しよう！』展示の様子）

〇10 月 22 日～11 月 9 日

水戸市で所蔵する原爆被害のパネルをギャラリーに展示した。

〇11 月 3 日

文化の日特別映画会『ヒバクシャ・世界の終りに』

放射能汚染についての映画を上映した。

〇11 月 6 日

紙芝居の会『はだしのゲン』

原爆投下後の広島で生きる少年の紙芝居を上演した。

福島県の地方紙（福島県からの提供）の常設掲示。

７　所感

近隣の市民センターが軒並み被災し，集会場所も満足に確保できない状況が続き，その代わりの会場提供や，地方選の投票所に図書館の視聴覚室を提供するなど，本業以外でも大変な年であった。

水戸市立常澄図書館

１　施設の概要

○延床面積：542.88 ㎡
○建築年月：1981 年（当初は旧常澄村役場庁舎として建設され，2008 年に一部分を図書館に改修）
○建築構造：鉄筋コンクリート造地上 3 階
○併設施設名：水戸市役所常澄庁舎
○閲覧席数：33
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：54,340
○平成 22 年度開館日数：268
○平成 22 年度入館者数：―
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：269 千人

２　地震発生時の様子

水戸市立常澄図書館では地震発生当日は定期休館日に当たり，館内は無人だった。

職員が 18 時 30 分頃に現状確認のため図書館に到着した。被害状況を確認し写真撮影をした後，常澄庁舎内に設けられた現地災害対応班の係員として当たった。

３　被害状況

図書館部分の施設面では，内装壁にクラック等が発生したものの，安全性に問題が生じる程の損傷はなかったが，ロビーに展示していた彫像（2008 年 4 月開設当時の寄贈による）が倒壊した。

（倒壊した彫像）

人的被害はなし。

資料については，全体の 9 割程度が落下した。

デスクトップ型端末機も 10 台の内 4 台が倒れたが動作に不具合は生じなかった。

（図書の散乱状況）

（図書の散乱状況）

４　再開までの道のり

翌日から休館し電話不通(3月15日18時30分復旧)，停電（3月14日14時復旧)，断水（3月22日復旧）の中，館内の原状回復に努め，3月29日より2時間短縮して開館した。

また，現地災害対応班，及び避難所等の対応にも追われた。

５　節電の状況

3月29日の開館時より9月末日まで平日2時間短縮の17時15分閉館を実施。

同時に一部照明の消灯を実施し，現在も継続している。

６　震災に関連した図書館活動

地震をテーマにした資料展示。

福島県の地方紙（福島県からの提供）の常設掲示。

７　所感

地震発生当日は定期休館日であったため，利用者の負傷等の被害は免れたが，開館時の場合は，利用者の安全確保を最優先に細心の注意を払うべく，今回のような大災害を想定したシミュレーションが，日頃から必要である事を痛感した。

水戸市立内原図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,873.34 ㎡
〇建築年月：2010 年 4 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　1 階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：114
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：51,291
〇平成 22 年度開館日数：263
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：269 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時は休館日であり職員も不在であった。

地震発生後施設内に入ったときには，資料は散乱し空調設備部品は破損していた。

３　被害状況

施設面では空調吹出口のずれや部品の落下破損，タラップ昇降口の床モルタル割れがあった。

人的被害なし。書架の倒壊やパソコンなど機器の落下も無し。資料については全体の 8 割程度が落下した。

（空調の吹出口が飛び出している）

４　再開までの道のり

翌日から臨時休館とし，自宅や交通網などが被災して出勤できない職員や災害対策本部への係員派遣があったため，出勤が可能な数名の職員で，床に散乱している資料の配架作業を開始した。電気・水道が止まっていた数日間は昼間に作業を行ったが，大きな余震が複数回あり，そのたびに作業が中断した。

資料の 8 割が落下したが，使用できないほど破損した資料はなかった。建物の損傷も少なく修理も短期間で終了した。

節電及び，利用者の安全を確保するため 3 月 29 日から時間を 2 時間短縮して開館し，10 月から通常時間での開館となった。

（資料が落下した書架の様子）

５　節電の状況

館内照明の間引き，駐車場灯の夜間点灯時間の短縮を行い，空調機器の温度も控えめに設定した。館内照明の間引きは 10 月以降も継続している。

６　震災に関連した図書館活動

地震をテーマにした資料展示。

地震が起きたときは棚から離れるよう注意を促す貼紙。

福島県の地方紙（福島県からの提供）の掲示。

７　所感

発生当時は休館日であったこと，平成 22 年４月に開館したばかりの新しい建物であったことなどが幸いし，市内の他の図書館に比べても被害が少なかった。

日立市立記念図書館

１　施設の概要

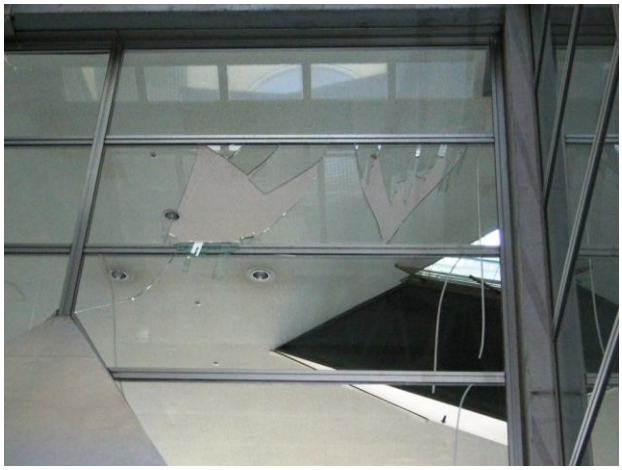
〇延床面積：3,384.31 ㎡
〇建築年月：1,990 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地下 1 階，地上 10 階
〇併設施設名：日立シビックセンター，日立市視聴覚センター
〇閲覧席数：241
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：416,513
〇平成 22 年度開館日数：314
〇平成 22 年度入館者数：311 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：192 千人

２　地震発生時の様子

日立市立記念図書館では地震発生時には館内におよそ 100 人の利用者と 30 人の職員がいた。利用者を書架から通路へ誘導し，非常口から屋外へ避難した。

３　被害状況

施設面では，入口天井ボードが落下及びガラス破損，全館において通気口，スプリンクラーのはずれ，書籍の落下，コンクリート壁及び柱の亀裂等の被害を受けた。利用者及び職員に被災はなかった。



（図書館入口上部ガラス破損）

（図書館入口天井破損）

４　再開までの道のり

地震直後から電気，水道等のライフラインが断絶し休館とした。（電気 3 月 14 日，水道 3 月 18 日復旧）

館内の被災箇所について修繕を実施し 5 月 16 日から開館した。

５　節電の状況

書架スペースの蛍光灯の一部を取外した。

６　震災に関連した図書館活動

一部の避難所への図書配置の実施。

広域連携市立図書館応援の実施。

ミニ展示「東日本大震災に関する本」を展示・貸出。

７　所感

非常時における冷静な判断・対応をするためにも，日ごろの防災訓練等の必要性をあらためて痛感した。

日立市立多賀図書館

１　施設の概要

〇延床面積：3,679.75 ㎡
〇建築年月：1981 年（当初は日立市教育会館の名称で建築，視聴覚センターが管理していた。平成 23 年 3 月 19 日に同センターから引き継ぎ，「教育会館」と名称変更。）
〇建築構造：RC 造　地上 4 階
〇併設施設名：県北教育事務所（3 階）
〇閲覧席数：120
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：114,450
〇平成 22 年度開館日数：311
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：192 千人

２　地震発生時の様子

3 月 11 日は通常開館。地震発生時，利用者 20 名と職員 10 名非常勤・臨時職員 5 名合計 15 名が出勤し，内 1 名が研修，2 名がブックスタート会場から共に多賀図書館に帰る途中であった。

揺れている最中に，利用者にはテーブルの下に入るよう指示，また書架付近にいた利用者に対しては書架の両脇に避難するよう指示した。

揺れが治ってから，利用者に対し避難階段から避難誘導した。利用者全員ケガはなかった。

地震発生直後から停電となり，電話（個人所有の携帯電話も含む）での情報収集，ネットからの情報も得ることが出来なくなったため，本部となった教育委員会に公用車で出向き，館内の状況等報告した。

ここで，避難所を小中学校等に開設するため男子職員は翌日教育委員会へ参集要請があった。

３　被害状況

2 階から 4 階までの天井の一部落下。特に被害が大きかったのは 4 階大ホールで，照明器具，放送設備，非常照明，放送設備，自火報設備，天井板の殆んどが落下した。

2 階図書室内も天井の一部，及びスチール書架が転倒し書架資料が相当数落下した。しかし，1 階子ども図書室の資料は殆んど落下せず，一部書架が地震により移動した。

3 階研修室・県北教育事務所天井の一部も落下した。また，階段踊場や廊下にクラックが多数入った。幸い人的被害はなかった。

（4 階大ホールの被害状況）

（2 階図書室の被害状況　1）

（2 階図書室の被害状況　2）

４　再開までの道のり

地震発生直後から休館となったが，翌日から職員で 2 階図書室の復旧作業に入った。しかし，余震が多発していたため図書資料は書架に戻さず書架の足元に平積みした。

一方，3 月 12 日から男性職員 3 名は，避難所で避難者対応を 3 月 28 日まで行った。

3 月末にはライフライン，及び通信関係がすべて復旧したため，4 月 1 日に，1 階ロビーに臨時カウンターを設置し，長テーブルに一般書と児童書を置いて一部貸出業務を再開した。この時は 2 階図書室の資料は職員が出納を行った。また，併せて子ども図書室も再開した。

この後，2 階図書室の地震による災害復旧工事を施工。図書館機能が全面復旧し 7 月 1 日に震災後 111 日ぶりに再開した。

一方，2 階図書室を除く教育会館の災害復旧工事は，平成 24 年 1 月 6 日に竣工した。

５　節電の状況

教育会館全館で，蛍光灯の一部を機器から取り外しまた，エレベータ使用の制限，空調も極力電源を入れないような節電対策を講じた。

日立市立十王図書館

１　施設の概要

○延床面積：1,127.5 ㎡
○建築年月：2001 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造一部木造地上２階
○併設施設名：無
○閲覧席数：150
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：104,501
○平成 22 年度開館日数：318
○平成 22 年度入館者数：198 千人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：192 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時には，館内に約 20～30 人の利用者と職員７名がいた。揺れが長く大きくなり，書架から書籍が落下しだした。職員が，利用者に書架から離れるよう呼びかけ，さらに外の駐車場へ誘導した。館内の利用者の中には，恐怖で動けなくなっている者もおり対応には苦慮したが、全員を駐車場に避難させることができた。

建物の外に避難した後、乗用車のラジオ放送と防災無線から情報を得ることができた。津波警報がラジオから放送されていたが、高台などに避難することはしなかった。

※図書館から約2.7㎞離れた川尻港付近では津波により 3.9ｍの浸水高があった。（茨城県河川課発表「津波浸水実績図」より）

３　被害状況

人的被害はなし。

建物被害は，カーテンウォールのブラケット（取り付け部分）が６箇所破損したほか，建具窓および防煙ガラスの損傷が若干あった。書籍はおよそ３分の２（4 万冊）が落下した。

その後，11 月 20 日（日）に発生した，日立市十王町を震源とする震度５強の地震により，火打ち梁の東側取り付け部分の金属が破断し落下した。それにより床部分も損傷した。人的被害はなかった。3 月の地震以降，取り付け部分の金属が何らかの損傷を受けていた可能性があると思われる。

（3 月 11 日の地震直後の館内の様子）

（カーテンウォールのブラケット破損）

（11 月 20 日地震で落下した火打ち梁）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館とした。停電・断水状態となる。停電状態の中，落下した資料の整理を行う。14 日夕方に電力が復旧し，翌 15 日よりポスト返却と，資料の書架戻しを行う。

業者により破損箇所の応急処理を行い，4 月 1 日から 2 階部分（学習スペース）を除き開館した。2 階部分については，建具窓の修繕を行い 5 月 1 日から供用開始した。

9 月に主たる復旧工事を行った。書架を移動し一部スペースの使用制限をして，開館しながら復旧工事を行った。

11 月 20 日の地震直後から休館とした。休館中に復旧工事を 12 月 1 日まで行い，12 月 2 日から開館した。その後同じく復旧工事のため 12 月 6 日を臨時休館とした。

５　節電の状況

照明球の一部を取り外したほか，窓を開けるなど空調設備の運転を可能な限り制限をした。また，エレベータを停止させている。夏季及び冬季には空調を控えて運転している。

６　所感

本館では，3 月の東日本大震災の揺れの影響が，11 月の震度 5 強の揺れの際に大きな損傷をもたらした。火打ち梁の取り付け部分が床上 5.7mのところにあり，3 月の地震後の目視による点検では，発見できなかったものと思われる。その後の強い地震により被害が発生したわけだが，未だ目視で確認できない損傷部があるかが大変不安である。

地震発生後に休館となり，電力の供給がないことから，全ての業務が止まった。

電力の復旧後も 3 月 31 日まで休館したが，11 月の地震による休館では，このときの反省から，予約資料の貸出を行った。休館中でもできることは実施したい。

土浦市立図書館

1　施設の概要

○延床面積：1,159.00 ㎡
○建築年月：1973 年 12 月
○建築構造：鉄筋コンクリート造り 4 階（うち 1 階の一部及び及び 3 階，4 階）
○併設施設名：土浦市生涯学習館
○閲覧席数：128
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：294,970
○平成 22 年度開館日数：281
○平成 22 年度入館者数：－
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：143 千人

2　地震発生時の様子

館内には，約 40 人の利用者と約 20 人の職員がいた。激しい揺れとともに，振動で防火扉が次々と閉まった。各階に声をかけ，全員の避難を確認した直後に館内が停電となった。

余震のため，館内に残した利用者の荷物を順番に職員が引き渡した。その後掲示等で本館・分館ともに休館を知らせる。来館者の帰宅を確認してから，臨時職員と嘱託職員は勤務を若干早目に切り上げ，職員は本庁からの指示にて対応。

停電で作業は出来ず，その日を終えた。

3　被害状況

建物等・システムは大きな被害が無く，負傷者は無し。

天井からダクトが 1 点落下した。天井の一部に歪みが生じ，3 階開架書架を連結するバーが壁から外れた。一部の書架やキャビネットが倒れた。特に郷土資料室のキャビネット等が倒れ，20 本程度廃棄処分とした。

資料は場所により，1 割から 5 割の資料が落下した。キャビネットのガラス等が破損したものが混在し，除去が困難となった。

館内の破損本は 10 冊程度であったが，利用者への貸出資料のうち震災による破損が 22 冊となっている。

当時はさほどでもなかったものの，本原稿作成時（2012 年 1 月）で閉架書庫（手動）の開閉がしにくい状況。

また2012年1月現在も郷土資料室は一部資料を配架したものの，震災を契機に，狭隘なスペースへの書架の組み直しは，安全性と資料の保全の観点から取り止め，利用者の出入りは禁止とし，資料閲覧の申し出には職員が対応している。

（3 階郷土資料室の状況）

4　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から全館休館とした。地震直後から停電・断水となった。（館内は受水槽で対応）

3 月 12 日から 3 月 17 日まで，当初からの休館日の 14 日を除き，5 日間臨時休館とした。避難所勤務等の職員を除き，職員及び出勤できる嘱託・非常勤職員等 15 名程度で連日復旧作業にあたった。

また，3 月 18 日からは一部の部屋・資料の利用制限を設けて開館し，開館しながらの復旧作業を継続，段階的に利用できる箇所を拡大していった。

余震・計画停電等の影響から，本館の閉館時刻を 19 時から 17 時に短縮し，4 月 5 日から通常通りとした。

5　節電の状況

4 月 3 日まで平日の開館時間を 2 時間短縮したほか，暖房等はつけず，館内の照明を落として運営した。全庁的な節電の方向が決定してからは，蛍光灯の本数を減らすなどして現在も運用している。

6　震災に関連した図書館活動

被災地からの避難者に対し，利用カードを作成した。また，福島方面からの避難所施設に寄せられた寄贈本について，避難所閉鎖後，本の選別・受入等を行った。

また，1 階展示コーナーにおいて開館直後の 3 月 23 日～4 月 20 日まで「震災特集」の展示を行った。

7　所感

負傷者が無く，図書館システムへの影響がなかったことは幸いであったが，開館にこぎつけるためには労力を要し，利用者の理解を得るため，館内の状況の写真をホームページに掲載した。

図書館は利用が多く，一日でも早く開館するべき施設と考えられるが，復旧には相当の人数を要し，一方行政としての避難所勤務等があるなか，災害時にはどこまで迅速に開館業務を遂行すべきかの判断が難しく，他市図書館からの情報提供が大変役立った。また，老朽化した施設であり，安全性は確保しながらも，どこまで修繕を施すべきか課題である。

今後は，災害時のマニュアル等の作成に，取り組みたい。

古河市古河図書館

１　施設の概要

○延床面積：604.48 ㎡
○建築年月：1984 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
○併設施設名：古河市古河東公民館，古河第 2 保育所
○閲覧席数：72
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：146,566
○平成 22 年度開館日数：272 日
○平成 22 年度入館者数：67 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：145 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時，図書館内には 15 人前後の利用者と 4 人の職員がいた。まずは書架の間から出るよう声をかけ，ある程度揺れが収まるのを待ち，利用者全員ロビーに避難してもらった。完全に揺れが収まってから一度各自の荷物を取りに行ってもらい，ロビーのテレビで情報収集を行った。

サーバがある三和図書館がある地区が停電したため，三和図書館と連絡が取れなくなり，図書館システムも使えなくなり，急遽閉館した。

その後本庁から公民館も合わせて当分閉館と指示があり，全利用者に退館していただいた。

公民館を予約している団体の代表者にも，職員で手分けして閉館のため利用できないことを連絡した。電話はロビーにおいてある公衆電話が一番よくつながったがそれでもなかなかつながらず，21 時過ぎまでかかった。

３　被害状況

当館は落下した資料は閉架を合わせても 20 冊弱ぐらいで，館内は通常とほとんど変わりがなかった。

４　再開までの道のり

地震発生直後から 19 日まで休館し，20 日から開館したが，閉館時間は 17 時となった。
（通常は公民館は 22 時まで，図書館は平日 19 時・土日祝日 18 時まで）それに合わせて職員の勤務時間も変更され，全員 8 時半～17 時 15 分となった。
（通常の図書館職員の勤務時間は 9 時 25 分～18 時 10 分と 10 時 25 分～19 時 10 分）

開館時間の短縮は 6 月末まで続いた。

7 月～9 月は通常時間になったが，公民館の夜の貸館がない日は 17 時に閉館したため，ほとんどの日曜日は 17 時閉館となった。

17 時閉館の日の職員の勤務時間は 8 時半～17 時 15 分となった。

10 月からは完全に通常通りの開館となった。

５　節電の状況

エレベーターは使用する人がいるときだけスイッチを入れ，通常はスイッチを切っていた。

6 月末まで，開館時間を短縮し，17 時までとなった。7～9 月は公民館の夜の貸館がない日は 17 時に閉館した。

館内（事務所，閲覧室を含む）の蛍光灯を間引きした。書架の間の暗い部分に補助ライトをつけていたが，それもつけないこととなった。

節電については原則 9 月までだが，蛍光灯の間引きは今も本数を減らして行われている。

６　所感

節電のために閉館時間を変更したことで，利用者に迷惑をかけたと思う。特に 7～9 月は何時に閉館するかが公民館の予約状況で変わるため，利用者にも周知できず，職員も勤務時間が変わるために予定が立たず，とても苦労した。

今後，大地震が発生した場合の情報収集の方法（今回はテレビと，インターネットが主）を，停電しても大丈夫なように検討しておく必要がある。

古河市三和図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2,902 ㎡（古河市三和資料館を含む）
〇建築年月：2000 年
〇建築構造：鉄筋・鉄骨コンクリート地上 2 階建
〇併設施設名：古河市三和資料館
〇閲覧席数：147
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：136,765
〇平成 22 年度開館日数：278
〇平成 22 年度入館者数：169 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：145 千人

２　地震発生時の様子

蔵書点検期間中のため利用者はいなかった。職員のみ外に非難した。

３　被害状況

一部の本が落下。ＤＶＤの保管棚が倒れ，数枚のＤＶＤが割れた。

４　再開までの道のり

施設の安全を確認し3月20日より時間を短縮して開館。7 月より通常開館。

５　節電の状況

蛍光灯の間引き，ＡＶブースの利用停止など。

６　所感

蔵書点検という，利用者がいない中での震災であったので，有事の際，どのように避難誘導を行うかを考えさせられた。

石岡市立中央図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,521 ㎡
〇建築年月：1980 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 3 階建
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：88（読書室 45 席を含む）
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：187,069
〇平成 22 年度開館日数：263
〇平成 22 年度入館者数：128 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：80 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時図書館内には，職員 12 名とおよそ 20 名の利用者が滞在していた。

地震発生と同時に職員の避難指示により全員館外へ避難した。比較的利用者も少なく，また，大半が壮年男性だったこともあって大きな混乱もなく図書館向かいの「いしおかイベント広場」へ無事避難できた。

地震発生40分を経過した頃に職員2名で館内外の状況確認を目視にて行う。

図書館の外観からは，ひび割れや壁の崩落等の重篤な被害は見られなかった。

図書館内は，事務室，開架スペース共に図書資料や備品が散乱して足の踏み場も無いような状態であった。

（開架スペースの様子）

（事務室の様子）

ただし，余震も頻繁に発生していた状況下のため 2 次的被害を懸念し，館内全体の確認や復旧作業の着手は断念した。また，携帯電話も受信状態が劣悪で関係各部署との連絡や情報交換も断念せざるを得ない状況となった。

従って，当日は，係長以下職員は自宅待機，管理職は教育委員会へ参集後震災対応業務に従事となった。

３　被害状況

負傷者等の人的な被害は，利用者，職員共に無かった。

施設面では，図書館本体に関しては，外観は軽微なひび割れやコンクリート壁の剥離は目視により確認。

館内は，階段の壁の塗料や天井の吸音材の一部が剥がれたり落ちたりしていたが，大規模な修繕を要するような被害は無かった。しかし，図書館隣地駐車場の書庫の屋根全体がゆがみ瓦がずれ【写真 1】，数枚が落下した。

設備面では，開架スペースは，およそ 7 割の資料等が落下し，木製の 6 段書架 29 台に棚枠や棚板の歪みや隙間が生じた【写真 2】のを含め，ほぼ全ての書架が数センチから 20 センチ程度揺れに伴い移動した。

閉架スペースは，揺れにより書架がズレ動いたり倒れたりした【写真 3】が，スチール製書架だったので破損や歪みはほとんどなく，蔵書の落下も 3 割程度だった。

（写真１：図書館隣地駐車場の書庫の屋根の被害）

（写真２：天板と側板に隙間ができた木製書架）

（写真３：閉架スペースの様子）

また，図書館システムのサーバーの一部を本庁４階に設置していたので，本庁舎の被災に伴いおよそ３週間にわたりシステムが使用できない状態となった。

４　再開までの道のり

震災直後から４月 14 日まで休館。

電気は３月 12 日午後復旧。水道が同月 15 日復旧。

館内の復旧作業は図書館全職員にて 12 日より着手。当初は，余震や被害状況確認のため，開架スペースの落下した図書資料は，床に平積みにして保管した。【写真４】

（写真４：落下した資料の戻し作業）

復旧作業は，先ず技師職員に館内外の被害状況の確認を依頼。目視等による調査の結果，建物への致命的なダメージや詳細な調査等の実施の緊急性は薄いとの見解を得たのち，具体的な修復や図書資料の配架の作業に着手した。なお，木製書架の修繕，上水道の漏水及び書庫の屋根の修繕は作業等を業者発注とした。

また，市内３か所の公民館図書室は，図書の落下は公民館職員により復元。復元後に図書資料の破損状況等を確認のため図書館職員による巡回を行った。

余震に伴う新たな被害は，その都度数十冊程度の図書の落下のみの軽微なものに終始した

４月 10 日　館内の復旧作業終了

４月 15 日　午前１０時図書館再開。

７月 29 日　蔵書検索用サービス再開

５　節電の状況

当館の節電対策としては，７月１日より開館，閉館時間の変更（10 時～18 時を９時～17 時），蛍光灯の間

引き（全体のおよそ 15%）及びエアコンの温度調整を主体に実施。7月から9月の電気料金で前年比平均20%強の削減を達成。

６　震災に関連した図書館活動

地震や防災及び今回の震災関連の図書資料の重点購入。

市内を対象とした放射線量測定結果や被害，復旧状況等震災関連情報の館内掲示の常態化。

７　所感

今回は，地震発生が平日の午後だったので，館内利用者が少なく，また，利用者の大半が壮年男性だったので，大きな混乱もなく全員無事避難することができた。

しかし，曜日や時間帯によっては，滞在者も多く，乳幼児を伴った家族連れを中心に老若男女に利用されている。

従って，今後は，既存の災害発生時の対応マニュアルを今回の経験を踏まえたうえで精査していく必要性が高い。

また，災害発生後の関係部署等との連絡手段や情報のやり取りについても再考する余地が残されている。

ゆうき図書館

１　施設の概要

○延床面積：4,135.84 ㎡
○建築年月：2004 年
○建築構造:鉄骨造･鉄筋コンクリート造　地上４階，地下１階
○併設施設名：結城市民情報センター
○閲覧席数：244
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：196,547
○平成 22 年度開館日数：271
○平成 22 年度入館者数：212 千人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：52 千人

２　地震発生時の様子

地震発生とともに火災警報器が誤作動を起こしたため館内に火災を知らせるアナウンスが流れたが，大きな混乱はなく来館者・職員全員が建物を出て施設前の広場に避難した。

その場で対応を検討した結果，施設の被害状況から継続しての開館は困難と判断して以後の休館を決定，その時点で閉館することを来館者に伝えてご帰宅いただき，職員は被害状況の把握に務めた。

３　被害状況

開架に配架された資料の８割程度が落下した。

（地震当日の 2F 開架書架の様子）

3F ギャラリーの一部書架のガラス扉は崩れ落ちた図書の重みで一部が落下して破損，落下を免れたガラス扉も内側からの圧迫により危険な状態となった。

（破損したガラス扉）

閉架の自動書庫及び返却ポスト用ベルトコンベアーが地震の影響で停止したが，機械内部での資料の落下はなかった。その他の図書館システム及び機器には大きな被害はなく，地震直後の停電時を除けば問題なく作動した。

ゆうき図書館を含めた複合施設，結城市民情報センター全体で天井に設置されたガラス防煙垂壁と電灯の笠が多数破損して落下，破片が床に飛散した。

来館者・職員ともに人的被害はなかった。

４　再開までの道のり

地震発生当日のミーティングで再開日未定のまま結城市民情報センター全体の当面の休館を決定したが，市内の一部が断水状態であったため，休館期間中も施設のトイレを利用可能にする措置を取った。

３月 12 日まではガラス片の撤去や危険箇所の確認・補強といった安全確保のための作業を行い，翌日から結城市民情報センター職員の協力も得て図書館の本格的な復旧作業に着手した。

断続的に続く余震を考慮して，数日間は書架に直接資料を戻さずに書架手前に整理して並べて，余震の回数が減少してから直接の配架作業を開始した。地震で書架の資料の大半が落下した事実を受け，配架作業と並行して書架の高さを従来よりも低めに設置しなおす作業も行った。

また，破損したガラスの一部は資料の上に落下したため，該当箇所の書架では資料に混入したガラス片を取り除くために一冊一冊徹底したチェック及び清掃を実施した。

破損したガラス防煙垂壁や電灯の修理が完了し，自動書庫・返却ポスト用ベルトコンベアーが保守業者のメンテナンスによって稼動再開した後，復旧作業の進捗状況から開館再開予定日を4月1日と決定。節電対策のための照明機器やPCの調整，各種掲示物・配布物の作成など開館へ向けた準備を進め，3月31日に最終的なミーティングを行い，震災の影響による延滞や資料の汚破損といった予想される問題への対応を検討，職員全員に周知して翌4月1日の開館を迎えた。

（復旧作業後の2F開架書架）

5　節電の状況

9月30日まで平日の開館時間を1時間短縮，開館中も施設照明の一部消灯または点灯時刻の遅延，空調設定温度の変更，利用者提供用PCの一部電源OFFといった対策を実施した。

6　震災に関連した図書館活動

休館期間中は，図書館の被害状況・復旧作業の様子を撮影した写真をインターネット上で公開し続けた。

開館再開後には，毎月異なったテーマで企画展示を行っているイベント棚で，4月のテーマを「災害と対策」として関連書籍を展示するとともに，震災関連情報を提供しているWEBサイトのURLを一覧にしたペーパーを作成・配布した。

7　他からの支援

一般書架と同様に大半の資料が落下した3F･4Fギャラリーについては，開館再開後に市民ボランティアにご協力いただいて復旧作業を行いました。

また休館期間中にも，インターネット上で公開していた復旧作業の様子を見たという市民からのボランティアの申し出を多数いただきました。作業中の安全確保の都合上，実際にお力をお借りするにはいたりませんでしたが，復旧作業中の職員にとって大きな励みとなりました。

ここにあらためてお礼を申し上げます。

8　所感

幸いなことに人的な被害はなかったが，物理的な損害のために地震から約3週間の閉館を余儀なくされた。市民が切実に情報を必要としている期間に図書館としての機能を提供できなかったことには忸怩たる思いが残った。

ライフラインの復旧状況や交通施設の運行情報といった平素以上に地域に密着した情報を必要としている人にいかに素早く提供するか，災害時の情報提供のあり方について強く考えさせられた。

龍ケ崎市立中央図書館

１　施設の概要

○延床面積：1,643 ㎡
○建築年月：1986 年
○建築構造：鉄筋コンクリート　地上２階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：40
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：254,874
○平成 22 年度開館日数：269
○平成 22 年度入館者数：179 千人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：79 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時，館内に約 30 名の利用者と職員５名嘱託員３名がおり，すぐに利用者に書架より離れ中央付近に移動を指示し，それと同時に自動ドアの電源解除をしドアを開放した。揺れが落ち着くまで声を掛け続けた。揺れが落ち着いたのを待って，余震に注意し利用者・職員全員が館外に避難。

危険防止のため入り口を閉鎖し臨時休館の緊急措置をする。地震発生直後に停電したため，カーラジオからの地震情報を利用者に提供。

利用者・職員に怪我はなし。館外避難後，利用者はそれぞれ帰途する。

メインサーバーは地震直後の停電のため、無停電装置で動いてはいたが、正常終了を保守業者へ依頼するも固定電話・携帯が繋がらず連絡できず。無停電装置稼働時間内に担当 SE が来館してサーバーを正常終了し，異常はなかった。

その後余震に注意しながら館内・館外の被害状況を確認し，16 時過ぎ教育長・教育部長に被害状況の報告を行った。

落下した資料の整理等行うが停電のため作業が進まず，職場待機職員３名（館長・副館長・主査）を残し 17 時過ぎに全職員が帰宅。

３　被害状況

○1 階書架上のエアコン噴出しパネルが落下

（パネルが落下した天井部分）

（落下した吹出口パネル）

○開架資料の約６割が落下

（図書が落下した一般書架）

○閉架書架の上段部分の資料が落下

４　再開までの道のり

〇復旧から平常開館まで

地震発生直後から臨時休館とした。電気・ガス・水道が停止。館内では照明器具やガラス等破損箇所はなく，館外においても目視したが見当たらなかった。しかし，開架・閉架書架資料の約６割が落下したため，17 日(木)まで臨時休館して復旧作業を行い，18 日(金)より開館した。資料の復旧作業には全職員・全嘱託員を総動員し，資料の配架については約３日で終了。資料・CD ケース等破損の修理については概ね 17 日までに終了した。

その後，電力需要の節電対策のため，平日開館の 19 時までを 17 時までとし，９月末まで継続した。

10 月１日より平常開館を実施。

〇電気・水道

電気は当日の夜復旧したが，水道は３日後に復旧した。その間の職員等のトイレ使用については，庁舎まで赴いた。

〇施設の利用

おはなし会・施設の貸出等については，３ 月はすべて中止し，４ 月より通常どおり貸出を開始した。おはなし会など施設使用の際には，担当者と避難誘導の仕方を確認した。

〇コンピュータ

メインサーバー・各端末（公民館 12 館含む）・システム等についても保守業者が点検を行った結果異常はなかった。

５　節電の状況

９月末まで，平日の閉館時間を 19 時から 17 時とし，開館時間を２時間短縮した。

また，夏季期間は，空調の効率を高めるため，遮光シートを施設南側全面に設置したほか，冷暖房の使用については小まめな温度管理を行い，照明を間引きするなど全庁体制で電力使用量削減に取り組んだ。

６　震災に関連した図書館活動

５ 月より，貸出冊数を無制限にし，現在も実施中である。また，市内に避難している被災者への貸出を行っている。

７　所感

震災後の復旧作業のための休館，節電のための開館時間短縮や空調機器の使用制限など，利用者に不便な対応が続いたが，不満の声はごく僅かだった。協力的姿勢は本当にありがたく感謝するところであるが，今回の震災が私達の生活や心に及ぼしたものが，いかに大きかったかの表れでもあると思う。

幸い当館は建物被害が少なく，ライフラインの復帰も比較的早かったため，１ 週間の休館で開館することが出来たが，果たしてどの程度の来館があるかは予想出来なかった。資料の貸出などについては，安定した日常生活が確保された後のことであると感じていたが，利用者は開館を待ち望んでいてくれた。また，震源に近い被災地から当市の避難所へ来た方も，明日もわからない不安な日を過ごしている中で，本が読みたいと利用を申し出ていた。図書館の役割の大きさに，図書館員として責任を痛感した。

当館は，多くの公共施設と同じように避難所に指定されている。防災対策として避難訓練などは実施しているが，大規模災害を想定したことはない。今後は，市の防災担当課と連携しながら，自然災害や新型インフルエンザ流行などを含め，様々な想定で，利用者の安全・避難者への対応などに対する準備を整えていくことが課題である。

下妻市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：3921.16 ㎡
〇建築年月：2001 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート一部鉄骨造　2 階建
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：177
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：148,644
〇平成 22 年度開館日数：272
〇平成 22 年度入館者数：193 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：45 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時には館内におよそ 30 人の利用者と 9 人の職員がいた。停電し，図書資料が落下するなか，職員は利用者の避難誘導に当たり，利用者，職員ともに負傷者も無く全員無事に避難できた。

３　被害状況

館内では，図書資料が落下（5 割以上）し，閲覧室の床面に亀裂が生じた。

（落下した図書の様子）

館外では，建物の隆起とそれに伴うインターロッキングブロックの不陸や，マンホールの隆起，駐車場では亀裂が生じた。

（建物隆起・インターロッキングブロック不陸）

４　再開までの道のり

3 月 11 日地震発生直後から 3 月 31 日まで休館し，4 月 1 日より開館に至る。

落下した図書資料の整理や，館内施設・設備の安全点検を優先的に実施し，市内では地震直後から上水道の断水が続いていたため，給水作業や広報車での給水案内に従事した。

５　節電の状況

・4 月 1 日より開館時間の 2 時間短縮。
・契約電力の変更(契約電力減)
・照明の間引き点灯。
・敷地内外部照明の点灯時間短縮

６　震災に関連した図書館活動

開館後，災害と防災に関する図書の展示を行った。

７　所感

地震発生時，利用者に館外に避難するよう呼びかけたが，恐怖感からか，なかなか避難しようとしてくれない利用者もいて気を揉んだりもしたが，最終的には利用者，職員ともに全員が無事に避難することができて安心した。

毎年欠かさず実施している避難訓練の重要性を再認識した。

常総市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,646 ㎡
〇建築年月：1982 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
〇併設施設名：二水会館（旧水海道町役場）
〇閲覧席数：114
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：151,180
〇平成 22 年度開館日数：267
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：65 千人

２　地震発生時の様子

常総市立図書館では，地震発生時には館内におよそ 10 人の利用者と６人の職員がいた。

発生時，床上の独立書架から図書の落下などが起きたが，壁面書架の図書の落下は無く，天井からのパネル・電灯等の落下も無い。

利用者もあまり動じた様子では無かったが，職員がこれは尋常では無いと判断し閉館を決定し，利用者にはお帰りいただいた。

３　被害状況

施設面では，玄関の障害者用スロープの段差割れ，和室壁ひび割れ，トイレ壁タイル剥れ，閉架書庫移動棚チェーンのたわみがあった。

人的被害は皆無。

資料は開架で２割の約２万冊。閉架で１割の３千冊が落下し，低書架１台が約 20ｃｍずれた。

（チェーンがたわんだ閉架書庫移動棚）

４　再開までの道のり

３月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。

落下した図書は数日で戻し終えた。施設と資料の状態を確認し，資料の配架が終わり安全を確かめ，18 日から通常通り開館をした。但し閉館は午後６時とした。

５　節電の状況

書架は，９月末まで１列置きの点燈としたが，10 月からは点燈箇所を拡大した。冷房は 28℃以下にならないよう，また，暖房は 20℃以上にならないよう極力弱い出力とした。

大きい窓が特徴の図書館であるため陽の当たる窓辺にはゴーヤで緑のカーテンを作った。

10 月から金曜日だけ午後７時までとし，12 月から平日は午後７時までの開館に戻した。

６　震災に関連した図書館活動

常総市内の「水海道あすなろの里」が，原発事故関係で福島から避難してきた方達の避難所となっていた。この避難所へ図書の貸出をした。貸出時期は４月上旬で，150 冊程度貸出をした。

常陸太田市立図書館

１　施設の概要

○延床面積：1,619.40 ㎡
○建築年月：1990 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
○併設施設名：無
○閲覧席数：109
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：188,811
○平成 22 年度開館日数：277
○平成 22 年度入館者数：159 千人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：58 千人

２　地震発生時の様子

常陸太田市立図書館では，地震発生時，館内におよそ 20 人の利用者と，６人の職員，７人の図書修繕ボランティアがいた。

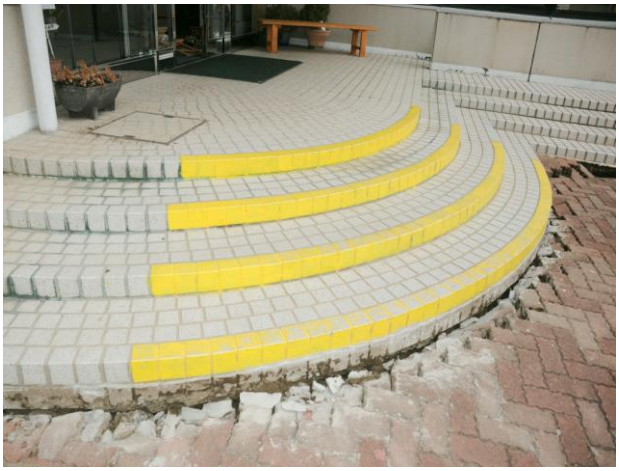
地震が発生するとすぐに自動ドアを開放し，職員らが避難誘導にあたり，利用者は無事避難，人的被害はなかった。

３　被害状況

（１）館内書架から約 13 万冊（本館と金砂郷・水府・里美分室合わせて）の本が落下し，床に散乱した。（蔵書の 60%）

（本棚から落下し，散乱した本（本館））

（２）電気照明カバーの落下，照明が点灯しない等の被害。
（３）水道漏水。
（４）電気給湯器の損壊。
（５）事務所内ブラインド破損。
（６）スチール製棚の落下，ねじれ発生。
（７）２階閉架書架移動棚の脱線。
（８）施設周辺の地盤沈下に伴う，
①駐車場損壊
②インターロッキング損壊
③陥没



（地盤沈下したインターロッキング（南玄関前））

（９）金砂郷分室（交流センターふじ内）天井落下による使用禁止，書棚破損。

４　再開までの道のり

３月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。地震直後から電気・水道が断絶しており，全く作業的なものができなかった。

14 日に電気が復旧し，その後，点検を行ってエレベーターが復旧。漏水していた水道パイプを修理して 24 日に水道復旧。

25 日水道復旧に伴い空調設備の動作を確認。館内に散乱した本，CD，カセットの整理，本棚，スチール製棚等の修理を行った。余震のたびに施設周囲の地盤沈下が進んだ。地盤沈下部分は砂利等を入れ，簡易アスファルトで仮補修を行った。また，利用者に危険がないように，施設周囲の地盤沈下部分，陥没個所等にロープを張り，復旧工事が終了するまで立ち入り禁止に

した。

本館・水府分室・里美分室は，教育委員会教育総務課企画総務係による施設点検の結果，安全が確認され，4 月 1 日から再開。金砂郷分室は，10 月 2 日から再開。

５　節電の状況

市役所と公共施設全体で，昨年の夏の最大電気使用量の 20%削減を目標に，節電対策（照明の一部消灯，冷房の調節等）に取り組んだ。

６　震災に関連した図書館活動

広域利用協定を結んでいない隣接の東海村，那珂市，常陸大宮市の住民に対して，震災に伴い休館している図書館が開館するまでの間，当館蔵書等の館外貸出しを行った。（※東海村は震災による休館では無く，増改築工事の為の休館であった。）

７　他からの支援

高校生・大学生・一般の約 40 人のボランティアの方に金砂郷分室の本の整理を手伝ってもらった。また，図書館ボランティアを中心に，市民から復旧作業の協力があった。市民から図書館へ図書の寄贈が増えた。

８　所感

自然災害の恐ろしさを実感し，施設の安全に関して緊張につつまれる日々であった。同時に，人の絆の大切さや，感謝する気持ちについて痛切に考えさせられた。

高萩市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,312.86 ㎡
〇建築年月：1983 年 12 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
〇併設施設名：高萩市歴史民俗資料館
〇閲覧席数：116
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：130,769
〇平成 22 年度開館日数：255
〇平成 22 年度入館者数：88 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：31 千人

２　地震発生時の様子

高萩市立図書館では館内に 10 人ほどの利用者と 4 人の職員がいた。口頭で外への避難指示を出し，来館者を誘導。3 人の職員は玄関脇の駐輪場付近にて来館者と待機。1 人は館内をもう一度見回り，来館者がいない事を確認して避難。暫く様子をみて，揺れが収まってから来館者は帰宅。

16 時 30 分に臨時職員 3 人も帰宅。正規職員は，教育委員会にて，他避難者誘導の指示を受ける。災害連絡系統は，図書館→教育委員会→市災害対策本部へ。

情報入手手段はラジオや市災害対策本部から。

３　被害状況

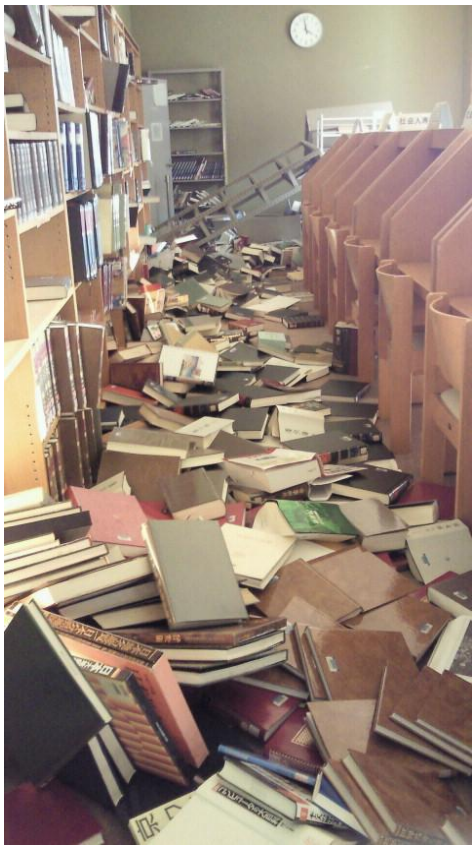
施設面では，玄関前の床面コンクリート破損。中庭休息所の床面に 30cm 程の段差ができる。水道，電気が使用不可。施設周りの外灯が 3 本倒壊。

資料は開架・閉架合わせて 7 割，約 9 万冊以上の資料が落下した。

システム面では，空調機室に図書バックアップ用パソコンが設置してあり，バックアプ用テープが床に落ちて水害を受ける。

事務資料用ロッカーが倒れ，資料の破損。

人的被害は幸いに無し。



（参考図書コーナーの様子）

（一般書コーナーの様子）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館。断水，電気，電話の断絶により作業が出来ず，図書館内にも入室ができなかった。

正規職員は市役所より，災害対策本部指示の仕事をする。臨時職員は 3 月 23 日まで，自宅待機。

3 月 17 日より館内に入り 2 階事務室，1 階カウンター回り掃除。（14 日夕方に通電。16 日夜に通水。）

24 日臨時職員 3 人出勤，資料整理の計画を正規職員と相談。25 日より正規職員（2 人）臨時職員（8 人）とボランティア（2～7 人）で開架・閉架の落下した資料を元へ戻す。地震で倒壊した本棚（スチール製ラック）を修理し固定する。落下により破損した資料の選定処理。

4 月 12 日を開館予定に定め作業をする。

4 月 11 日の地震により，また資料が落下。開館を 15 日に延期する。開館後の余震により，水道管損傷で漏水被害。本棚の位置がずれる。閉架資料落下。

4 月 15 日に再開した。

５　節電の状況

開館まで事務作業があまり出来なかったので，事務室の暖房を入れなかった。パソコン，電灯も使用する時のみ電源を入れた。

エアコンは開館後は，決められた設定温度で対応したが，利用者からは“暑い”旨の苦情があった。利用者のいない所は節電した。

６　震災に関連した図書館活動

開館してから，震災に関する資料を購入して，特設コーナーを期間限定で設けた。

開架資料の下にすべり止めシートを敷く。

本棚の資料設置の段を低くする。

震災による未返却本の対応処理をする。

７　所感

この度の震災で被災者の立場になり，電気，水の重要性を改めて思いしらされた。経験がなかったので，対応が難しく，市民の方々には多々ご迷惑をかけてしまった。

一日も早い再開を望まれ，臨時職員やボランティアの協力で，4 月 15 日の開館を迎えられた時は感謝の気持ちで一杯だった。建物には，大きな被害も無かった事も幸いだった。

開館当初，市民の方々に温かい言葉をかけていただいた事は，職員，ボランティアの励みになったと思う。

大きな揺れがあるたびに3月11日を思い出してしまう。しかし，被災しても図書館に足を運んでくださる方々のためにも，安全面に配慮し，職員の対応を徹底するよう努めていきたい。（〝本〟が凶器になってしまう事実も忘れてはいけない事である。）

利用者があっての図書館運営であることを肝に銘じて，サービスのあり方をもう一度考え直す事ができた貴重な体験であった。

最後に，ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

北茨城市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,169.17 ㎡
〇建築年月：1977 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート地下 1 階地上 3 階建
〇併設施設名：北茨城市視聴覚ライブラリー
〇閲覧席数：68
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：114,189
〇平成 22 年度開館日数：263
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：46 千人

２　地震発生時の様子

発生当時 3 階の学習室に 3 人，1 階には 5 人の利用者がいた。職員は 6 名であった。

巨大な揺れとともに，書架から全ての本が垂直に飛び出した。利用者の中にはショックで動けなかった方もいたが，そのような方も含め，利用者・職員全員目の前の公園へ避難をした。

館内の資料の多くが床に落下した。

図書館周辺に液状化現象が見られ，数か所の地面から水が噴き出した。

やがて津波警報が鳴り始めた。津波のため目の前の大北川が逆流し，水位も上がり，図書館付近が危険であったため，利用者が帰宅するのを見届け，職員は高台の市役所に避難集合。幸い，地面より床高に建築されていた館内まで水は入ってこなかったが，とても恐怖であった。

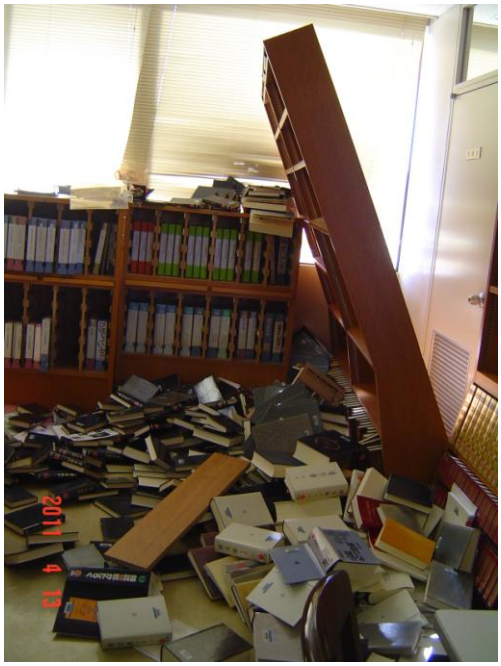
※図書館は磯原駅前の，海岸まで約 300mのところに建てられている。津波は大北川河口で 4．4mの浸水高があり，磯原駅まで押し寄せていた。（『茨城県浸水被害地図』（茨城県河川課）より）

（3 月 11 日地震発生後の津波により浸水した図書館前の様子。左手前茶色の建物が図書館で，見えているのは入り口。写真奥が磯原駅方向になる。）

３　被害状況

津波が押し寄せたため，地震当日は詳細の被害は確認できず。翌日，資料の落下，書架の破損等確認。

建物自体には致命的な被害は見られなかった。



（１階一般閲覧室の，転倒した書架）

（変形した閉架書庫の様子）

（4 月 12 日余震で２階の雑誌用書架が倒れ水道が破損）

４　再開までの道のり

北茨城市全体が大きな被害を受けたため，当初図書館職員は市役所で災害救援活動に携わり，3 月 22 日より図書館自体の復旧活動を行うが，その後も一部の職員は災害救援に残った。

給食センター職員の応援を受けて復旧活動を開始。資料を書架に戻し 4 月 12 日から再開とした矢先の 4 月 11 日に余震が来て再び大量の図書が落下，更に 12 日の余震で再び書架等の破損の被害に見舞われた。12 日の余震では児童コーナーの水道に書架が崩れ，水道が破損 1,400 冊の絵本が水に濡れてしまった。

（戻した本が余震により、再び床に落ちた様子）

計 3 度の資料の落下を受けたが 4 月 19 日に再開をした。

５　節電の状況

館内の電気の一部を消す。エアコンの使用調整。

６　他からの支援

日立市立記念図書館の職員 4 名が本の戻し等の応援に来てくれた。

ボランティア（1 日 3～4 名）が本の戻し等をしていただいた。

図書館振興財団から助成金を貰い，使えなくなった資料の補充をした。だが，絶版で買えなかった絵本等もあった。

８　所感

震災当初は，職員全員が市全体の支援活動に追われ，女子職員は全員徹夜でおにぎりを握るなど，本当に大変だった。図書館の復旧業務に当たることができるまでが，長く感じられた。

図書館の建物が旧市役所の建物を改造したもので（天井も低く柱も多い），被害が少なかったのは幸いだった。

笠間市立笠間図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2,779.25 ㎡
〇建築年月：2004 年
〇建築構造：RC 造（一部 S）地上 2 階
〇併設施設名：なし
〇閲覧席数：132
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：182,680
〇平成 22 年度開館日数：269
〇平成 22 年度入館者数：231 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：80 千人

２　地震発生時の様子

館内には約 2～30 名の利用者と 12 名の職員がいた。

館内では防火扉も数箇所閉まり，書架からはほとんどの資料が落ちた。天井（高さ 10m）から硬化プラスチック等の落下物もあり，職員が押しのけなければ，利用者に突き刺さりかねなかったという場面もあった。

利用者は職員の誘導で，全員が無事に駐車場へ避難することができた。恐怖で足が竦んでしまった方もいたが，大きな混乱はおきなかった。

図書館はそのまま臨時休館とした。

３　被害状況

館内では開架の天井から長さが 1m 程度ある硬化プラスチック製の電灯の枠や，鉄製の非常灯部品（重さ 2 kg），天井材の石膏ボードが落下した。

（落下した硬化プラスチック製の電灯の枠）

（天井石膏ボード破損の様子）

また，壁には何箇所も浅い亀裂が入った。特に館を支える鉄柱周辺の損傷が激しかった。

（館内壁面のひび割れ）

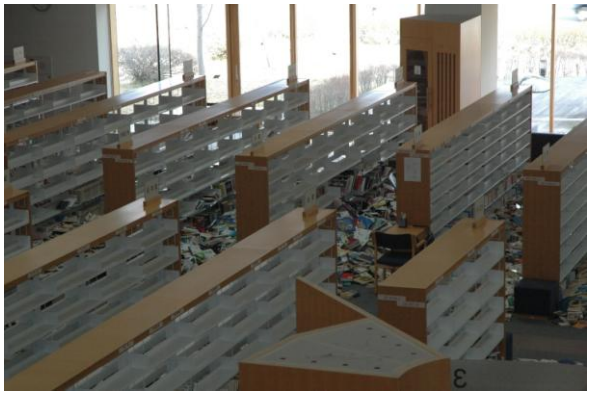
床に固定されていた書架も所々軋むようになり，後日業者に修繕・補強を依頼した。

館外では入り口付近の敷石や石畳が割れ，所々陥没や隆起が見られた。レンガ材の外壁にも亀裂が入った。

（外壁周辺の陥没）

（入り口付近の敷石）

館内では開架・閉架共に資料の9割，およそ15万点が落下した。落下の衝撃でAV資料のケースが割れたり，本が破損するなど，修理が必要な資料が多数あった。



（震災直後の書架の様子）

（震災直後の書架の様子。中央の円形のものは天井から落下した鉄製の非常灯部品）

上記のような状況のなか，幸いにして人的被害は全くなかった。

４　再開までの道のり

地震発生直後，利用者を避難させ，即時休館に入った。電気・水道は断絶しており，電話は非常回線のみが使用できる状態であった。

13日に電気は復旧したが，水道はその後1週間ほど復旧せず，その間各職員宅の井戸水等で対応した。

書架の整理は高校生ボランティア3名の協力もあり，10日間程で完了した。

システムが復旧しないなか3月26日から暫定開館を行い，3月29日に通常開館に戻った。

また，図書館システムに問題はなかったが，システムサーバーのある笠間市役所笠間支所の被害が甚大であり，7月16日から18日まで臨時休館とし，サーバーを別の建物に移転した。

５　節電の状況

開館後，4月は17時まで，5月～7月は18時までと開館時間を短縮した。電灯の半減，空調設備の温度調整等，節電に努めた。

６　震災に関連した図書館活動

隣の笠間公民館に被災地から避難してきた方々に対し，住所確認なしでも利用ができる措置をとった。

また，震災に関連する新聞記事を切り抜きしており，2012年3月には，1周年の節目として震災関連の写真などの展示を行った。

７　他からの支援

市内在住の高校生3名がボランティアとして訪れ，主に書架の整理に携わっていただいた。

８　所感

一般の電話が通じるようになった直後から，開館しているかとの問い合わせが多数あり，図書館の役割の大きさを再認識した。

再開後しばらくは弱い地震でも敏感に反応を示していた利用者の方々も，しだいに反応しなくなってきている。いざという時に利用者の命を守ることができるよう，職員は気を抜いてはいけないと感じている。

笠間市立友部図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2,443.75 ㎡
〇建築年月：1994 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：147
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：232,385
〇平成 22 年度開館日数：264
〇平成 22 年度入館者数：193 千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：80 千人

２　地震発生時の様子

友部図書館では，昼過ぎの来館者のピークを過ぎ，比較的在館者の少ない時間帯であったが，約 40 人の利用者と 16 人の職員がいた。今まで経験したことのない大きな揺れ（後に震度６強と伝わる）に館内は一時騒然となったが，館員の避難誘導により全員無事に屋外へ逃れた。被災・停電・断水のため休館とし，利用者の方々には帰宅願った。

3 館の状況確認に笠間館が各館を巡回し，教育委員会の対策本部に状況報告を行った。

笠間市の３図書館は，２月までに準備した新図書館システムが3月1日から稼動し始めたところであった。

余震が続く中，館内外の確認を最小限に留め，日没前に施錠の上退館した。

３　被害状況

施設本体の損傷は免れたが，建物と外構部分との接点付近が壊され通路などに段差が生じた。(外構部の地盤沈下により建物外周部接触面に亀裂，舗装の亀裂・石材の破損・インターロッキングブロック敷舗装面の段差発生など)

設備は，書架転倒が２台【写真 1】，高書架側板２枚の外れによる２連解体【写真2】(21 台･複式102 連中)，書庫室の集密書架１台（21 台中）が資料への乗り上げ【写真 3】，サービスデスク照明ルーバーの落下，トップライトルーバーの一部落下破損，空調吹き出し口・空調換気扇吹き出し口の一部落下，天井材（石膏ボード）の一部落下，受水槽の漏水発生（亀裂またはシール部損傷か）などの被害があった。

（写真１：転倒した書架）

（写真２：側板が外れた書架）

（写真３：集密書架）

人的被害については，幸いにしてなかった。

資料の状況は，開架資料（12 万点）のほとんどが棚から落下し，書架間の通路にあふれる状態となった。（写真 4）書庫室（約 10 万点）の固定書架の資料の大半と稼動書架の一部のものが落下した。

（写真 4：床にあふれた資料）

図書館システムの端末やモニターが落下したもの，IC タグ読み取り機器で読み取れないものなどがあり，貸出業務等に支障が生じる状況。また，図書館システム・ネットワーク担当業者の社屋が被災し，ネットワークチェックのために来館できない状況となった。更に，ガソリン不足や交通機関の運休により，図書館システムのソフト業者の来館確認が遅れることとなった。（後に開通した常磐道の高速バス利用で来館。）

4　再開までの道のり

図書館では，震災翌日から安全確保や落下した資料の整理などに着手し，再開に向けてサービス体制の復旧と利用者の安全確保への取り組みを開始した。

落下した資料の整理作業は，停電のため日中の明るい間で実施し，笠間・岩間は 1 週間程度で完了。友部はその後の応援もあり 10 日間で完了した。

図書館システムのネットワーク環境を 22 日過ぎに確認した。サーバーは無事だが，サーバーのある笠間支所（旧笠間市役所）は今回の地震で使用できなくなったため移動が必要となった。

ガソリン不足により職員（正規・非常勤）に通勤困難者が発生した。また，図書・雑誌の納品が滞り遅れることとなった。ガソリンの他，食料品，水の確保も困難な状況もあった。

施設の安全点検・対策が，ガソリン不足などにより技術者が来館できず，点検と安全確認に時間を要したが，下旬までには通路の段差解消（仮設復旧）や落下物対策（不安定な天井材などや空調設備の点検・補修）などを実施した。

その中で，業務再開（暫定）の検討（3 月中下旬）がなされ，「置かれた状況の中で何ができるか？」，県内各館の状況の確認（県立図書館の逐次の情報が役に立ちました。）をして，以下の方針を立てた。

- ・貸出（図書館システム復旧までのオフライン貸出，10 点まで，延長不可）
- ・返却（受取のみ）
- ・館内利用（資料の閲覧・視聴，各席・学習室利用，複写，インターネット端末の利用）
- ・資料検索・予約（復旧まで停止）
- ・利用登録（復旧まで停止）
- ・避難者（避難所の方，住所を確認できるものの提示などにより対応）

暫定再開は，被災後 15 日～21 日目の 3 月末から 4 月 1 日，通常開館が被災後 4 ヶ月半後の 8 月となった。

まず，3 月 26 日（土）に笠間図書館・岩間図書館が，開館時間 9 時～17 時で節電対策（照明半減，冷暖房温度調整，ＥＶ通常停止など）とあわせて暫定開館した。

3 月 29 日（火）には，システムの復旧稼動を確認し，4 月 1 日（金）に友部図書館の 3 館での開館となり，システムも通常稼動した。

4 月 11 日（月）夕刻県内に震度 5 強・6 弱の余震があり，友部図書館では空調設備の給水管が破損し，2 階の機械室からの漏水が 1 階の天井へ，更に床へと伝わり，視聴覚や児童の開架，ギャラリーなど 130 ㎡ほどが冠水（約 1ｔ半）して，徹夜での排水作業となった。落下資料の一部が水没し，床設置の避難誘導灯 3 台が破損した。

5～7 月には，開館時間を　9 時～18 時とし，8 月からは，開館時間 9 時～19 時の通常開館となった。

この間，災害復旧作業・工事を実施し，利用者の安全を確保した。また，懸案だった図書館システムＳＶ器の移設が完了した。（笠間支所→笠間図書館）

５　節電の状況

市の対策本部では，照明器具の取り外しなどを含め3分の2以下とする目標が設定され，図書館でも業務スペースを始め可能な限りの対策を講じることとした。

空調など動力関連の節約運転やＥＶの通常利用停止，トイレのハンドドライヤー，電気湯沸かし器などの停止，ギャラリーや開架室の照明減などを実施した。

６　震災に関連した図書館活動

再開直後のギャラリーでは，展示予定の団体が一部対応できなくなったこともあり，その間図書館の被災状況の写真展示を行った。

また，地震・震災関連の図書館資料を特設展示し，情報提供と資料の利用を図った。

７　他からの支援

友部図書館では幸いにして，市内3図書館内での連携で再開に向けた作業ができた。

また，県内各館の状況の確認には，県立図書館から逐次送られた情報が役に立ち，感謝申し上げます。

８　所感

この震災の中で，普通に図書館サービスができる有り難さ，普通に生活できるありがたさを痛感した。何でも便利で快適な時代となったが，電気や水道が止まると何もできなくなり，あるはずのガソリンも手に入らなくなると移動もままならなくなって・・・。

休館中，市民からは「やっていないの？」「何時から開館するのか？」と度々の問い合わせがあり，図書館が如何に市民生活と結びついているか，生活に必要なところかをあらためて知らされた。

被災した物の復旧は，徐々に見えるようになってはきたが，避難者や被災者の日常生活や心身がともに回復するために，市民のために，図書館はその居場所や資料や情報を適切・的確にサービスとして提供することが求められている。

笠間市立岩間図書館

１　施設の概要

〇延床面積：751 ㎡
〇建築年月：1995 年（当初，岩間町役場として建設。2008 年 8 月改修工事竣工）
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　3 階建
（市民センターいわまの 2 階の一部を使用）
〇併設施設名：市民センターいわま
〇閲覧席数：88 席
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：62,584
〇平成 22 年度開館日数：269
〇平成 22 年度入館者数：108 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：80 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時，館内にはおよそ 30 人の利用者と，8 人の職員（非常勤含）がいた。

職員は，利用者へ書架から離れるよう指示し，1 度目の揺れがおさまった時点で，利用者を避難誘導し，岩間支所地域総務課の指示により，全職員屋外へ避難した。

書架は，固定されているため，揺れのみであったが，資料や蛍光灯のカバーは，落下し散乱した。

非常勤職員へは，今後の予定について追って連絡する旨を伝え帰宅させた。

職員は，地域総務課指揮のもと，駐車場へテントを張り対策本部を設置。その後，19:00 頃避難所である岩間中学校へ非常食や飲料水の搬入･配給のため移動。

夜間・寒冷対策のための発電機及び，ストーブの確保，燃料管理，避難者への支援のため一部の職員が宿泊した。

３　被害状況

人的被害は特になかった。

館内においては，蛍光灯カバーが落下し破損した。その他，壁に亀裂が入っている部分もあるが，施設として大きく影響を受けるものではない。

開架資料においては，およそ半分（約 3 万冊）が落下し，一部視聴覚資料のケースが破損した。

（落下した蛍光灯カバー）

（図書資料の散乱状況）

４　再開までの道のり

地震発生時から 3 月 25 日まで休館となった。

その間，14 日までは避難所で給水・炊き出し等の支援を行い，15 日から，図書館職員及び，他課の職員を動員し，開館に向けて館内の片付けや事務処理等を行った。

3 月 26 日からの開館ではあったが，貸出システムが稼動していないため，暫定的な開館になり一部提供できないサービスがあった。また，開館時間は 9 時～17 時までの時間短縮とした。

3 月 29 日からはシステムが復旧し，全サービスの提供が可能となった。（開館時間は変更なし）

その後の経過

・5 月 1 日からの閉館時間を 18 時までとした。
・8 月 1 日からは通常開館（19 時まで）とした。

５　節電の状況

照明については，間引きし，状況に応じた点灯を行っている。

また，閉館時間を日没に合わせ変更した。

空調については，夏は窓を開放し，風通しを良くしたり，エアコン使用時は設定温度を 28℃とし，冬は20℃としている。

６　震災に関連した図書館活動

再開直後から，「東北地方太平洋沖地震関連資料」と題し，（後に，「東日本大震災」と変更）地震に関する資料展示を現在も行っている。

（展示の様子）

７　所感

地震発生時，資料の落下と，書架が将棋倒しになる可能性があることを想定し，書架から離れるよう利用者へ指示できたが，照明器具の落下までは想定していなかった。

幸いにして人的被害はなく，今回のことを教訓に，柱周辺を一時避難場所と定めたが，それ以外にも状況にあわせて，無事に避難誘導できるような対策を立てる事と，「防災計画」の作成に取り組んでいる。

取手市立取手図書館

１　施設の概要

○延床面積：1,527.58 ㎡
○建築年月：1979 年 3 月 25 日（1・2 階），
　1988 年 3 月 29 日（3 階）
○建築構造：鉄筋コンクリート（1・2 階），
　ＡＬＣ板鉄骨造（3 階）
○併設施設名：無し
○閲覧席数：171
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：118,497
○平成 22 年度開館日数：267
○平成 22 年度入館者数：182 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：111 千人

２　地震発生時の様子

○地震発生時の在館者数
　利用者約 50 名（内 3 階学習室 26 名）
　　1 階閲覧室：利用者約 20 名・職員 8 名
　　2 階参考室：利用者 4・5 名・職員 2 名
　　2 階事務室：職員 7 名
　　3 階学習室：利用者 26 名
○避難誘導
　消防訓練（毎年 1 月実施）に従い，放送，誘導を各職員が分担実施した。

３　被害状況

○1 階の被害
■一般開架フロアー（YA コーナー，雑誌・新聞のブラウジングコーナーを含む）では，木製傾斜書架で 6 段の高書架（H194）の複式 6 連 13 基すべてに被害。
図書は約 70%が落下。【写真 1・2】
■児童開架フロアー（子育て支援コーナーを含む）では，天井（H600）に埋め込み水銀灯 8 基のうち 2 基が落下。【写真 3】
図書は約 50%が落下。
■階段ホールでは，壁固定の取手市航空写真が入った木製縁の額縁が落下。【写真 4】
■作業室は被害なし　図書は約 50%が落下。
■1 階書庫は被害なし　図書は約 50%が落下。

（写真 1）

（写真 2）

（写真 3）

（写真 4）

○２階の被害

■レファレンスルームでは，スチール製の地図架 2 基破損。【写真 5】

図書は約 50%が落下，業務用パソコン１台のディスプレイが落下。

■事務室では，文書ファイリング用スチールラック 1 本破損。

■2 階書庫では，被害なし。図書は約 50%が落下。

（写真 5）

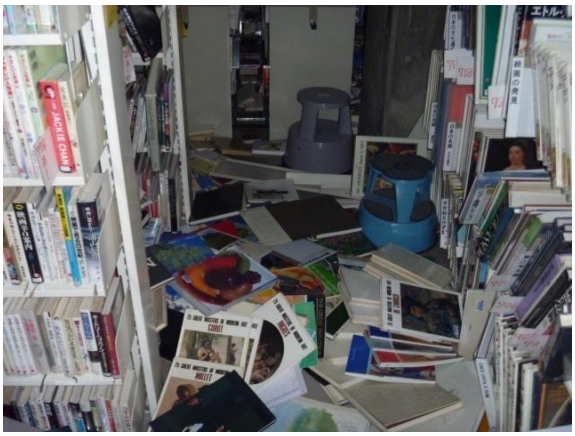
○３階の被害

■学習室では，天井材の石膏ボードの数枚で角が欠け落ちた。

■3 階書庫では，可動スチール製書架に被害なし。図書は 50%が落下。【写真 6･7】

■ロビーでは，コインロッカー（キャスター付）が 1 台転倒。

（写真 6）



（写真 7）

○外回りの被害

■植栽では，花壇のレンガブロックが崩れた。

■街灯の取り付け部がひび割れ，傾きが見られた。

■コンクリートにひび割れが数か所できた。

○停電・断水

3 月 11 日　停電　断水なし。

3 月 12 日　電気復旧。

○サーバー

3 月 11 日　ダウン。

3 月 12 日　復旧。

４　再開までの道のり

3 月 11 日	東日本大震災発生
3 月 12 日～17 日	落下した図書の片付け
3 月 17 日～18 日	1 階書架の補修・仮復旧
3 月 23 日	ふじしろ図書館，戸頭公民館図書室開館
3 月 26 日～4 月 28 日	特設カウンター開設
4 月 6 日～9 日	取手図書館蔵書点検
4 月 7 日～12 日	水銀灯撤去・電灯新設工事
4 月 13 日～17 日	図書段ボール詰め
4 月 19 日～20 日	公民館図書室蔵書点検
4 月 20 日～22 日	新書架納入・組立工事
4 月 25 日～28 日	新書架へ配架
4 月 29 日	取手図書館開館

５　節電の状況

○22 年度と 23 年度 2 カ年対比（電気使用量）

削減目標　15%

4 月　△30.2%
5 月　△43.6%
6 月　△24.1%
7 月　△25.1%
8 月　△27.9%
9 月　△22.7%
10 月　△23.3%
11 月　△25.3%
12 月　△18.4%
平均　△26.8%

○節電行動計画

■照明

・執務エリアの照明を半分程度間引きする。
・使用していないエリア（会議室，廊下等）は消灯を徹底する。
・利用者用エリア（閲覧室）も間引き点灯する
・昼休みの執務エリアは完全消灯する。
・カウンター周りの照明を消灯する。

■空調

・執務室・利用者エリアの室内温度を 28℃とする。
・稼働開始時間を開館直前とする。

■ＯＡ機器

・長時間（1.5 時間以上）席を離れるときはＯＡ機器の電源を切る。
・2 分間でディスプレイのスタンバイモード にする。

■電源

・電気ポットは使う時に電源を入れる。

６　震災に関連した図書館活動

○避難所への訪問おはなし会

3 月 25，4 月 4・13・20・27，5 月 4・11 日

○取手市に避難されている方へ

2011 年 4 月 2 日から利用登録，貸出。
2012 年 1 月 18 日現在，20 名登録。

７　他からの支援

○図書館ボランティア

3 月 12 日（土）ボランティア 4 名。
3 月 13 日（日）ボランティア 14 名。
3 月 15 日（火）ボランティア 5 名。
3 月 16 日（水）ボランティア 10 名。
3 月 17 日（木）ボランティア 4 名。
開館までの間　延べ 100 名超の活動。

８　所感

○地震からの教訓

・冷静さを保つこと。
・日頃の訓練が大切。
・情報を共有する。

取手市立ふじしろ図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2,263.64 ㎡
〇建築年月：2002 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造り　地上 3 階
〇併設施設名：無
〇閲覧席数：120
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：112,446
〇平成 22 年度開館日数：276
〇平成 22 年度入館者数：191 千人
〇奉仕人口（2011 年 3 月末）：110 千人

２　地震発生時の様子

ふじしろ図書館では地震発生時，およそ 100 人の利用者およびボランティアと 12 名の職員がいた。館内の利用者をすべて館外の安全な場所に誘導した。

３　被害状況

施設面では，外壁，内壁に数カ所のヒビ，冷暖房設備（ふく射パネル）の配管に亀裂，歩道ブロックに段差が発生。また，書架に被害はなかったが，上半分の本がほとんど落下し，歩けないほどであったが，幸い人的被害はなかった。また停電はなかったが取手図書館が停電したしたため，システムは使用できない状態であった。翌日の停電が回復した時にはシステムは通常どおり使用できた。

４　再開までの道のり

施設，書架に被害がなかったが，すべての安全確認と書架に本を戻す作業をするため，翌日から 22 日（火）まで休館日を含め 11 日間休館し，23 日（水）から閉館時間を 1 時間早めて 17 時とした。5 月 1 日（日）からは通常の開館時間（18 時閉館）に戻した。

５　節電の状況

館内の電球，蛍光灯の間引きをし，さらに陽のあたる日中，場所によっては電灯を付けなかった。冷房暖房も設定温度をきびしく設定し現在も同じ状況を継続中である。

６　震災に関連した図書館活動

震災により，毎年 4 月に行われていた図書館まつり（4 月 16 日・17 日予定）が震災のため中止になったため，その中で行われる予定だったリサイクルブックフェアを，改めて 5 月 29 日（日）に「東日本大震災復興支援リサイクルブックフェア」と題し行った。その収益金すべて 170,000（円）を義援金として，6 月 5 日（日）にボランティア 2 名で南相馬市に直接届けた。

また，4 月 1 日（金）から 5 月 29 日（日）まで，震災と防災を関連とした「いのちとくらしを守るために」というテーマ展を，2012 年 2 月 14 日（火）から 3 月 29 日（木）の間，小テーマ展「３．１１　あの時何が起こったか」を行う。

牛久市立中央図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2,658.56 ㎡
〇建築年月：1993 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造地上 2 階，地下 1 階
〇併設施設名：休憩所
〇閲覧席数：152
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：309,389
〇平成 22 年度開館日数：323
〇平成 22 年度入館者数：386 千人
〇奉仕人口（2011 年 3 月末）：81 千人

２　地震発生時の様子

牛久市立中央図書館では，地震発生時は通常通り開館中だった。揺れている時間が長かったため，まだ揺れている間に 2 階の事務室内にいた職員が館内を巡回して館内状況の確認と利用者への声掛けをし，順次館外へ誘導した。停電したが，それほどひどく揺れなかったこともあり，停電後も書架の間で本を選んでいる利用者もいた。

３　被害状況

施設面では，2 階レファレンスルームの壁付書架のうち 3 カ所で固定が外れた。隙間は最大で 5 ミリ程度だった。また，館外の防犯カメラ 1 台が落下，ケーブルでぶら下がった形になった。蔵書面での被害はあまりなく，児童コーナーで絵本の一部が，作業室内でレーザーディスクが，カウンター内でビデオテープなどがそれぞれ落下した。ただし汚破損除籍した資料は 30 数点で済んだ。システムは地震直後の停電により落ちたが，当日駆けつけた SE が確認したところ，データなども特に被害はなかった。

分館等では，図書の落下が見られたが，機器等の被害はリフレ図書カウンターでの貸出し用端末 1 台のみだった。

（カウンター内でビデオが棚から落下。ほかにレーザーディスクが落ちたがこの程度で済んだ）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後，15 時頃から中央図書館を臨時休館とした。また，エスカード分館，三日月橋・奥野の両生涯学習センター図書室，リフレ図書カウンターも臨時休館とした。地震直後に停電となったこと，市内での水道の復旧に数日を要したことから，中央図書館，エスカード分館，奥野図書室は 3 月 18 日まで全館休館とした。リフレ図書カウンターは，建物の被害確認に時間を要し，3 月 21 日まで休館した。三日月橋図書室は施設自体を閉鎖したため，再開は 4 月 15 日からとなった。

また，エスカード分館は 4 月 5 日から同じ施設の 1 階に移転する予定で工事の最終段階だった。幸い，移転先に特に被害がなかったため，予定通り 4 月 5 日からの開館となったが，開館時間を 17 時までに短縮しての開館となった。（予定では 19 時までだった）

５　節電の状況

3 月 19 日からの再開後，5 月 18 日までの 2 か月間，中央図書館，エスカード分館の開館時間を午後 5 時までとした。

６　所感

当館は，幸いなことに人的にも物的にも大きな被害はなかった。また，発生時，議会の常任委員会開催中で館長が不在だったものの，職員体制にも無理がない時間帯だったため，利用者の誘導や館内外の被害状況の確認なども，ある程度的確に行えたように思う。

しかし，再び大地震が起きた際，今回と同様の僥倖に恵まれるとは限らない。

大震災後，地震による揺れが起きた際には，書架から離れるよう，速やかに館内放送を入れることにしたし，職員や司書は常時ミニ懐中電灯を所持するようにした。小さな改善ではあるが，利用者と業務に携わるものの安全確保を念頭に，更なる準備や改善を続ける必要があるのではと感じている。

つくば市立中央図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2,419.52 ㎡
〇建築年月：1990 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造地上 2 階
〇併設施設名：茨城県近代美術館つくば分館，
　　つくば市視聴覚センター（アルスホール）
〇閲覧席数：48
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：307,667
〇平成 22 年度開館日数：276
〇平成 22 年度入館者数：580 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：206 千人

２　地震発生時の様子

図書館館内にはおよそ 100 人の利用者と 20 人の職員がいた。

職員 4 人は自動車図書館で移動中であった。

館長以下幹部職員は市庁舎から公用車での帰館途上であった。

アルスホールにはおよそ 40 人の利用者がいた。

職員が館外に避難誘導し，利用者は全員退避。手分けして建物内の状況を調査。けが人・エレベータの閉じ込めが無いことを確認。

電気は一時停電したものの，間もなく復旧。

水道は断水した。

電話は不通となりメールも機能しなかった。

連絡不能状態であったため教育委員会の指示が仰げず，館長判断で利用者の退館を確認したあと休館とした。自動車図書館も運行を停止した。

テレビ報道と，職員個人所有の携帯電話によるツイッターでの情報が入手可能であった。

３　被害状況

人的被害は，ほぼ無かった。

エントランスホール内のスタンド式照明が転倒，破損し，避難路にガラスが散乱。

開架図書室上部のコンクリート片が落下。

開架の図書資料の 3 割が落下，一部破損・廃棄処理。

視聴覚資料の 6 割が落下。ケース破損が多数。一部廃棄処理。

（落下した視聴覚資料）

壁面作り付け書架のボルトがゆるみ，浮き上がった。

電動集密書架には大きな損傷はなかった。

カウンター上部の照明カバーが落下，破損。

システムは一時的にダウンしたが異常は無かった。水道管が破損。受水槽への給水管が破損。外壁壁面モルタルが一部落下。一部廊下天井部材に亀裂。

エントランスホール内の火災報知器が天井より垂れ下がった。

アルスホール内のスピーカーのフロントカバーが落下した。

つくばエクスプレスの運行が停止し，職員に帰宅困難者が出るなどの影響もあった。

４　再開までの道のり

翌日以降もつくば市内は断水が続き，トイレの利用が

できない状況であった。

つくばエクスプレスで通勤する職員は，運行状況により勤務に影響があった。

ガソリンパニックの余波で，自動車図書館運行用の軽油が入手できず,開館できても自動車図書館は運休,の可能性も生じた。

館内外の復旧作業等をしつつ水道の復旧を待った。（水道は3月16日に回復。受水槽への給水管の復旧まで休館）

当分の間休館と告知（図書館入り口に掲示・HP。返却はブックポストで受付した。

3月23日より開館時間短縮で再開。同日，自動車図書館運行再開。（火・水・金・土・日9時30分～17時，木曜日のみ9時30分～19時）

7月1日より一部開館時間拡大。（水・土・日9時30分～17時，火・木・金9時30分～19時）

10月4日より通常開館。（火～金9時30分～19時，土・日9時30分～17時）

アルスホールは4月1日より再開

5　節電の状況

ロビー・廊下・事務室等で蛍光灯の間引き等，利用者に負担のかからない範囲で節電した。

自然光が入る部分の開架書架の蛍光灯を間引いた。

利用者用検索端末の三分の一を停止した。

利用者へも節電を呼びかけたが，冷房の温度が高いと苦情が多く寄せられた。

制限令解除に伴い，開架部分の蛍光灯と利用者端末は元に戻した。

廊下・事務室等の節電は継続中。

6　震災に関連した図書館活動

貸出期間・予約本の取り置き期間を延長した。

つくばから県外・西日本方面へ自主避難する住民も多く，貸出資料を返却する間もなかったため，大幅な返却期間超過が発生したが，この間の督促は見合わせた。（4月5日まで）

外国人利用者については震災直後に帰国した利用者も少なからずおり，一部資料は回収不能となることが懸念されている。（常住人口が震災前をいまだ下回っていること，特に外国人登録者数の減少がいちじるしいことに見られる。）

つくば市は17日頃から福島県からの避難者を同峰公園体育館と国際会議場で受入を開始し，500名以上の避難者が市内に来た。これら避難住民の図書館利用のため，貸出カードの作成要件を一時的に緩和し，利用できるようにした。（※通常，つくば市立中央図書館は市内在住または，通勤・通学者のみカードを作成）

震災・原発関連図書の収集に努める。（関連書籍が書庫分も含めほとんど貸出されたため。）

8月15日から，「福島民報」・「福島民友」の受入により提供を開始した。

例年実施のブックトーク（小学校・中学校対象）で，地震関連本の紹介を取り入れる。

貸出資料の汚破損は，貸出した個人に弁済を求めるものであるが，震災の影響による場合は免除とした。

7　他からの支援

福島からの避難者支援の一つとして，市内10か所へ「福島民報」・「福島民友」が提供されることとなり，図書館もこれに参加することとなった。

ひたちなか市立中央図書館

１　施設の概要

○延床面積：1,868.14 ㎡
○建築年月：1973 年 10 月
○建築構造：鉄筋コンクリート造２階建
○併設施設名：無
○閲覧席数：135
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：241,531
○平成 22 年度開館日数：272
○平成 22 年度入館者数：271 千人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：158 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時，中央図書館内には 54 人の利用者（一般開架室に 20 人,児童開架室に１人,閲覧室に 15 人,集会室に 17 人，視聴覚室に１人）と 11 人の職員（一般閲覧室に３人，児童閲覧室に２人，２階事務室に６人）がいた。平日の小学校下校前の時間帯だったこともあり，利用者は比較的少なく，小さな子どもはいなかった。

大きな揺れにより，多くの書架やパソコン，キャビネット，ロッカー等が転倒，天井からは空調の送風口のダクト金具が落下，また床には図書等（7 割程度が落下）や割れたガラス片が散乱するなど足の踏み場もない状態であった。また，ロビーにあった等身大の石膏像２体が転倒して大きく破損し，地震発生と同時に電気は消え，電話や水道も不通となった。

揺れがおさまると，職員は，館内に残った利用者を外へと誘導するとともに，逃げ遅れた方がいないことを確認してから，所用で那珂湊支所に出かけていた館長を除く全員が図書館の建物前に集合した。

利用者，職員ともにケガをする人はいなかったが，図書館の開館を続けられる状況ではなかったため，嘱託職員は帰宅させ，常勤職員は図書館の外回りや内部の被害状況などの調査に当たった。

館長が帰館後，利用者や職員が無事であったこと，館内は図書等が散乱しており，災害発生時の指定避難所としての機能が果たせないことなどを報告した。

電話や携帯電話などの連絡手段が使えないことから，施設の被災状況の報告とその後の指示を仰ぐため，職員３名が徒歩で災害対策本部が設置された市の本庁舎へ向かう。災害対策本部は，本庁舎の安全が確認できないことから，隣接する企業合同庁舎内に設置されていた。

残る職員は，館内の被害状況を写真で記録するなどした後，正面玄関の自動ドアが半開きのまま動かなくなってしまったため，展示用のパネルボードを用い正面玄関をバリケード閉鎖した。また，敷地が隣接し，避難所に指定されている東石川小学校に避難者が集まりつつあったことから，避難所の開設・運営に必要と思われる段ボールやガムテープ等の物品を図書館から運んだ。

17 時半頃，館長と係長は図書館に残り，他の職員は帰宅して,明日は朝８時 30 分に出勤するよう館長から指示があった。

19 時頃になって，既に多くの避難者を収容していた東石川小学校から小さな子どもや体の弱った高齢者等を図書館で受け入れるよう依頼があったため，散乱した本を整理し通路を確保するなどして，お話の部屋と２階の児童閲覧室で 40 人の避難者を受け入れた。

３　被害状況

・１階ロビー
　自動ドアの開閉不能，風除室床亀裂，ロビー天井歪み，石膏像転倒し破損，女子トイレタイル壁に亀裂
・１階一般開架室
　図書の散乱，天井の一部落下，照明器具のズレ，全集棚壁の亀裂・剥離，身障者用トイレ接合壁の剥離，壁に多数の亀裂
・１階車庫
　天井材のズレ
・２階ロビー
　空調吹き出しダクト金具落下
・２階事務室
　天井材の一部落下，壁に多数亀裂，廊下側の壁に亀裂3箇所

・２階ＯＡ室
　空調吹出しダクト金具落下，壁に多数亀裂
・２階集会室Ｉ
　天井材の一部落下，空調吹出しダクト金具落下，天井全体の歪み
・２階閲覧室
　壁に多数亀裂，照明器具のズレ，非常口の表示板の落下，入口天井空調吹出しダクト金具落下，事務室側入口壁の剥離
・２階参考図書コーナー
　図書の散乱

（1 階一般開架室）
床に散乱した夥しい資料に足の踏み場もない。

（1 階一般開架室）
天井まである壁付けの棚が倒れて他の書架が破損した。

（2 階集会室天井）

４　再開までの道のり

建物内外の壁には多数の亀裂が走り，天井からは照明器具等がぶら下がるなどしたことから，応急危険度判定を行ったところ，復旧工事が必要とされたことから，当分の間は休館とすることを決定した。

3 月 12 日は，館内に残る避難者の世話に当たるとともに，職員全員で転倒した書架を起こし，散乱した図書を片付けるなど，図書館再開に向けた復旧作業に従事した。電気・水道・電話が使えない状況であり，予定していた除籍図書チャリティーバザーも当然のことながら中止とする。

3 月 13 日には散乱した図書を通路の両脇に積み重ねることで通路を確保して，分類に関係なく図書を書架に戻す。依然として余震が収まらず，再度落下する恐れがあるため上の棚には戻さないようにした。

10 時頃になって電気が復旧する。18 時には避難していた市民が全員自宅へ戻り，避難者がいなくなったことから，災害対策本部に指示を仰いで避難所を閉鎖した。

3 月 14 日は，月曜日（休館日）であったことから職員は休みであるが，館長と係長は市内に開設されている別の避難所の運営支援に出向く。

3 月 15 日は，一度書架に戻した図書をコンテナに入れ，書架の破損部の修繕を始めた。余震が続いていたため低い書架から修繕を始め，高い書架は後に回した。修繕に合わせて書架を清掃し，転倒を防止するための連結金具を取り付けた。

全ての書架の修繕が完了するまで約 1 カ月を要した。

書架の修繕を終えると，図書を書架に分類順に戻していった。

この間，3 月 20 日には水道が復旧し，トイレに使用するため近くの川へ水を汲みに行く仕事もなくなった。

那珂湊図書館と佐野図書館は比較的被害が少なかったことから 3 月 29 日に再開した。当館や近隣の県立や那珂市，東海村等の図書館の閉館が続いていたことから，震災前よりも多くの利用者が訪れて混雑したため，3 月 29 日から数日間とその後は毎週土・日 3 名の嘱託職員が当館から応援に出向いた。

4 月 8 日には，津田分室が再開する。

5 月 1 日から 5 月 31 日にかけては，中央図書館の復旧工事が行われた。工事期間中は，工事のため図書等を移動する必要もあり，合間をぬって，図書の整理作業等を継続して実施した。

また，例年 6 月に行っていた蔵書点検は，復旧工事のための休館に合わせる形で，5 月 6 日から 5 月 20 日までに実施した。

施設の復旧工事が完了し，粉塵で汚れた図書の拭き掃除，転倒しリニューアルした書架への図書の戻し，貸出がなく閉館中に返却された図書によって書架に入りきらなくなった分野の棚を中心に，除籍・別置対象の図書を抜き取った。

安全性が確保でき，館内の整理が終了したことから，6 月 14 日に当館を再開した。しかし，夏期の電力需給対策から，9 月 31 日までの間は開館時間を 2 時間短縮した措置を講じた。

５　節電の状況

東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う電力需給対策に協力して，当館においては 6 月 14 日から 9 月 31 日までの期間，開館時間を２時間短縮して，閉館時刻を午後５時とした。

また，ゴーヤ等の植物によるみどりのカーテンを実施し，建物吹き抜け部分を遮光ネットで覆うなどして室温の上昇を防ぐ取組を行った。その結果，昨年同期と比較してかなりの節電効果があり，特に 8 月は 34％程度の電力使用量を削減できた。

６　震災に関連した図書館活動

10 月 28 日から 11 月 9 日までの間，読書週間の関連行事として「３．１１そのとき図書館では…」と題して市立図書館各館の被災状況の写真を展示した。

７　他からの支援

3 月 17 日から 24 日の 5 日間，読みきかせ連絡会の会員の皆様や一般市民，学生など延べ 66 人のボランティアが散乱した図書の整理や転倒した備品，割れたガラス等の後片付けに参加され，図書館の再開のために支援していただいた。

学生ボランティアの皆様には，お礼として除籍図書チャリティーバザーで処分を予定していたリサイクル図書を持ち帰ってもらった。

８　所感

大きな揺れにもかかわらず，施設に決定的なダメージがなく，けが人も出なかったことは不幸中の幸いであった。また，電気や水道，電話等のライフラインが絶たれる中，避難者を受け入れながら，善後策を協議し，協力しながら復旧のための作業を進めたのは貴重な経験であった。

再開に向けては，落下した大量の図書と破損した書架等を震災前の状態に戻すという作業であり，とにかく多くの人手を必要とした。破損した書架等についてもすぐに買い換えることができる状況ではないため，職員個人が所有する道具を持ち寄って修繕を行った。

連日の作業と余震で，不安と疲れが募ってくる中で，ボランティアの皆様のご支援には本当に助けられた。ご自身の生活にも多くの心配や不安がある中で，図書館再開のためにご協力をいただいたことに対し改めて深く感謝申し上げます。

今後の課題として，同規模の地震がまた発生した場合，書架や備品等の転倒や図書の落下をいかにして防ぐのかを早急に検討し，実施する必要がある。また，今回の震災体験を風化させないために，様々な災害を想定した避難訓練を定期的に実施するとともに，災害発生時の図書館の詳細な防災計画を作成する必要があると考えられる。

ひたちなか市立那珂湊図書館

１　施設の概要

〇延床面積：890.75 ㎡
〇建築年月：1978 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
〇併設施設名：無
〇閲覧席数：40
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：89,037
〇平成 22 年度開館日数：276
〇平成 22 年度入館者数：77 千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）158 千人

２　地震発生時の様子

館内利用者は 30 名程度と職員４名がいた。館外へ誘導し全員の無事を確認した。

市内の防災無線から地震・津波の状況が伝えられたが，図書館は那珂湊港より海抜 20m 超の所に位置しているため危険性は感じなかった。

津波の放送を聞いた市民が同敷地内にある「那珂湊総合福祉センター」が避難所になっていることからセンターに多数押し寄せた。そのため駐車場は満車状態となった。

センターの避難所としての準備が整うまで一時的に図書館のロビーやトイレを開放し避難者を受け入れた。

※那珂湊港では 3.1mの浸水高があり海岸より 250m ほどまで津波がきた。（「茨城県津波浸水実績図」茨城県河川課）

３　被害状況

書棚ごと倒れた箇所が１箇所あり。

資料は落下散乱し，足の踏み場もない状態だった。壁と天井に亀裂がはいり，天井取り付け蛍光灯がずれおちそうな状態になっていた。仕切りのガラスの部分とトイレの鏡が割れ落ちていた。

（２階一般開架室書棚落下の様子）

４　再開までの道のり

地震発生翌日から館内の資料の整理に取り組んだ。水道が復旧するまで近所の住民の方から井戸水をわけてもらい館内の清掃を行った。

倒れた書架は耐震に配慮した床固定を行った。

家庭の事情や，ガソリン不足等で通勤事情が厳しく出勤できない職員もいたが，那珂湊地区に住所をもち市内の他館に勤務している嘱託職員の方が手伝いにきてくれ３月 29 日再開の運びとなった。

５　節電の状況

再開後は平日午後７時までの開館時間を午後５時までとした。10 月からは電力使用制限が終了したことに伴い通常の午後７時までに戻した。

６　震災に関連した図書館活動

除籍図書チャリティーバザーを７月 9，10 日に行い収益金は姉妹都市の石巻市へ義援金として贈った。

読書週間（10 月 27 日から１１月９日）の期間中被害をうけた市内の図書館の状況を写真パネルにして展示した。

震災に伴う特別な措置として被災による図書の紛失，破損への弁償の免除を行った。

一時的に市内に避難している被災者に対して身分証明提示なしで図書の貸出を行った。

６月まで「おはなし会」「映画会」などの定例行事は自粛した。

７　所感

地震に対し安全性を確保するため，スペースを充分にとるような書架の配置や転倒防止対策を行うことが必要だと感じた。

また，被災された方々に対して，図書館は何をすべきか，何を必要とされているのかを考えさせられ，少しでも図書館を通して元気づけることができればと感じた。

ひたちなか市立佐野図書館

１　施設の概要

○延床面積：1488.34 ㎡
○建築年月：1999 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
○併設施設名：無
○閲覧席数：44
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：108,623
○平成 22 年度開館日数：276
○平成 22 年度入館者数：140 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：158 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時，館内にはスタッフ 6 名と利用者 25 名程度（高校生以下はいない）がおり，立っていることができずに床に伏せる利用者もいた。館外への避難を呼びかけるが動かず，ようやく館外へ退避させる。余震おさまらず，余震の合間にスタッフが付き添い館内に置いたままの荷物をとる。地震発生から 1 時間して被害状況確認。

なお，ひたちなか市立佐野図書館は東海村にある日本原子力発電東海第二発電所より約 7 キロメートルの位置にあり地震による原発の被害も考えられたが，当日の職員は避難所の対応その他諸々に追われ，原発の情報をリアルタイムで入手することは困難であった。

※東海第二発電所は，地震発生後安全に自動停止している。

３　被害状況

利用者・職員にけがなし。

館内は 6 段書架の棚板はずれ，上 3 段の本はほとんど落下。CD ラック転倒により CD9 割，DVD7 割落下，ケース破損。

電動書庫は資料が落下散乱し，操作パネルが外れ電気復旧後も操作不能。【写真 1,2】

天井の石膏ボードずれ白い粉が落下（落下した本の上に積もる）。

設備面は，屋外給水管の破損による漏水。浄化槽汚泥移送管の折損及び沈殿槽内の亀裂による漏水。空調設備ドレンポンプ及び配管の破損による漏水。防煙シャッター誤作動。エレベータは電気復旧後も操作不能。

外壁タイル落下。敷地内に地割れあり。

（写真 1：電動書庫。左から 2 列目書架操作パネルが外れている）

（写真 2：資料が散乱した電動書庫。）

４　再開までの道のり

3 月 11 日地震発生直後から休館状態に入る。断水・停電。13 日電気復旧。15 日図書館システム起動確認。20 日図書館駐車場で市民への給水開始。近隣の協力を得て水を確保，再開に向けて館内清掃及び資料の状態確認と清掃。24 日水道復旧。

3 月 29 日開館時間を短縮して（平日 17 時閉館）再開，10 月から通常開館。

５　節電の状況

開館時間，平日２時間短縮。館内照明ダウン。夏季節電対策は，グリーンカーテンやエレベータ使用制限，自動ドア開放，天井窓の開放。冷房使用制限。

６　震災に関連した図書館活動

原子力関連の本を“特集”展示。

読書週間に，図書館の被災状況の写真を「３・１１そのとき図書館では・・・」としてパネル展示。【写真3，4】

（写真３：パネル展示風景）

（写真４：パネル展示風景２）

７　他からの支援

再開後，近隣図書館が休館中のため，那珂市や東海村からの広域利用者が急増。市内図書館よりスタッフ応援をもらう。

鹿嶋市立中央図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,742.38 ㎡
〇建築年月：1985 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート平屋建て
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：60
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：221,196
〇平成 22 年度開館日数：287
〇平成 22 年度入館者数：―
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：66 千人

２　地震発生時の様子

館内にはおよそ 20 人くらいの利用者と 8 人の職員がいた。利用者を書架から離れるよう指示し，中央のエントランスホールに集め，非常口への誘導をしながら地震が終るのを待った。

地震終了後，閉館したが，帰宅できない人もいたので，玄関付近の安全なところを一部開放した。

また，地震発生後，津波警報が出た情報を得たが図書館は海から離れている（至近の下津海岸まで直線で約 2800m）こともあり，特に対応はしなかった。

※図書館至近の下津海岸では海岸から 100mほど陸地まで津波による浸水があった。（「茨城県浸水被害実績図」（茨城県河川課）より）

３　被害状況

施設面では和室の天井の一部落下と女性用トイレの点検口に破損がみられた。人的被害は幸いなかった。資料は約 2 万冊の落下があった。

なお，鹿嶋市では鉢形地区や鹿島神宮駅周辺で液状化の被害が大きかったが，図書館では液状化の被害は無かった。

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震は発生直後から 14 日まで休館した。地震直後から水道が断絶したが，翌日から資料の復元に努め，15 日から開館した。トイレの使用は水道が 15 日の夕方から，通常どおり利用できるようになった。

大野分館が 4 月 1 日の開館に向けて，準備中であったが，3 万冊の資料が落下したので，開館を 1 か月遅らせた。

ボランティアの方にも協力いただいた。

５　節電の状況

一部館内の照明を消灯して，節電に努めた。

６　震災に関連した図書館活動

東日本大震災に関する本のコーナーを設置した。

潮来市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：3,556 ㎡
〇建築年月：2005 年 11 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨構造 2 階建
〇併設施設名：無
〇閲覧席数：132
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：149,721
〇平成 22 年度開館日数：318
〇平成 22 年度入館者数：190 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：30 千人

２　地震発生時の様子

職員は 12 名が勤務，利用者は 30 名程来館中。利用者にけがはなく，館外に速やかに非難した。すぐに閉館とし，利用者には全員帰宅いただいた。余震による揺れが大きく，多発していたため，詳細な被害状況の確認は後日とした。当日判明していた範囲では，電気・電話・水道などのライフラインが断絶しており，図書館システム用のサーバがダウン，書架の図書資料の飛散，施設内一部の破損等が確認できた。

３　被害状況

潮来市全体としては，一部地域において，液状化による被害が深刻であったが，図書館がある地域については目立った被害がなかった。

（市内液状化による被害の様子）

構造物，施設面については，柱に接している天井板が数ヵ所はずれかけた。天井のダクト周りに隙間ができた。壁について，開架スペースで 1 カ所，大きく崩れ落ちた。閉架スペースで 2 カ所，崩れ落ちた。運営上支障はないが，いたるところに亀裂が入った。カウンターと作業室の間にある大きなガラス戸にヒビが入った。（鉄線が入っているので，ガラスが飛び散ることはなかった。）展示してあった笠間焼きのつぼ（寄贈品）が一つ割れた。

（館内書架フロア・亀裂の入った柱）

（飛散した資料の様子）

図書等資料については，辞典類が数冊落下時に破損した。資料数としては約 9 割が飛散した。飛散した際に書籍の重みなどで辞典類や視聴覚資料数点ほど破損が確認された。

書架（本棚）については，書架自体は，床に固定されているため転倒はしなかったが，辞典類があった書架が 1 カ所，揺れでゆがんだ。

作業室・事務室等の施設についても同様にほぼすべての書類が飛散していた。特に図書館システムについては地震による電気の復旧までに時間がかかり，また予備電源でも復旧できるほどの時間が確保できなかっ

たため，復旧までは2日間かかった。

4　再開までの道のり

3月11日の地震発生後より臨時休館とした。当日，休館後は余震の影響もあり，簡易的に被害状況の確認を行い，市に報告を行った。翌日，詳細な被害状況を確認し,3月13日より飛散した資料の復旧を開始した。

復旧作業中は電気・水道などのライフラインが復旧していないため，15時を目途に作業した。1週間後，図書館のある地域については電気・水道が復旧したため，本格的に作業を進めた。

なお，潮来市を含めた茨城県鹿行地域では，3月14日17時頃から18時半頃の間，初回の計画停電が実施された。図書館に残って復旧作業をしている者もいたが突然の停電に驚いた。

※茨城県は第2回目からは計画停電実施地区からは除外された。

（復旧の様子。飛散した資料を集め随時本棚へ戻していく）

3月25日にすべての本,本棚の現状復旧を終了した。施設面での被害については，図書館職員による簡易的な復旧の施しに留まった。

建設に携わった業者による施設内の点検を行い，4月11日から図書館を再開することを決定した。

再開後，4月11日～30日までは開館時間を10時～17時とした。（通常10時～19時）

利用できるスペースは書架スペースの1階のみとし，2階は立ち入り禁止。また2階の各部屋で開催していたお話会，映画上映会，子育て広場は開催中止，2階の学習コーナーの利用も停止とした。

5月1日より，開館時間を10時～18時とし，2階を立ち入り可能とした。また子育て広場を再開，学習コーナーも利用可能とした。

6月1日より，お話会，映画上映会ともに再開し，10月1日より，開館時間を通常通りに戻した。

5　節電の状況

4月11日に図書館を再開した時点では，安全性を考慮して開館時間を午前10時～午後5時とした。（通常10時～19時）1部施設の利用を停止していた。節電の実施については，書架フロアの棚照明の点灯時間を調整したり，空調を弱設定にする等に止まった。

5月1日以降からは，節電への取り組みとして以下を実施。

①学習スペースの照明を減らす。
②開館時間を1時間短縮する。
③書架フロアなどでの明るい時間帯の照明の調整。
④館内空調の弱設定および気温による調整。別途館内でうちわを配布。
⑤事務室，作業室内の照明を消灯。

取り組みは9月末まで実施し，10月1日以降は開館時間を通常通りに戻した。1部照明の消灯および空調設定などについては自主的な取り組みとして継続することとなった。

6　震災に関連した図書館活動

休館中は以下のような活動を行った。

①市役所・災害対策本部からの情報の貼り出し

再開後は各種展示コーナーの設置し貸出を行った。

これらはすべてパスファインダーを作成･配布し，コーナー終了後も調べられるようにした。

①地震・防災（書籍展示・貸出）
②液状化（書籍展示・貸出）
③家屋の耐震・改修（書籍展示・貸出）
④節電（書籍展示・貸出）
⑤放射能・原子力発電（書籍展示・貸出）
⑥震災についての法律情報（書籍展示・貸出）
⑦市役所・災害対策本部からの情報の貼り出し

7　他からの支援

図書館再開後，以下の支援を受けた。

①神戸市立中央図書館から被災地への応援メッセージとしてメッセージポスターをいただいた。ポスターは館内エントランスホールにて展示を行った。

（メッセージ展示の様子）

メッセージポスターは展示後，茨城県立図書館へ送付し同館でも展示を行った。

②地震による書籍の飛散防止を強化するため，財団法人図書館振興財団が行った東日本大震災で被災された図書館の活動再開に向けた支援事業に要請し，書籍落下対策用滑り止めテープ 1,050 枚をいただいた。滑り止めテープは，館内の書架すべての棚に貼付した。

③東日本大震災の被災地図書館支援の一環として，社団法人日本図書館協会および NPO 法人大活字文化普及協会，株式会社日本ブッカーより大活字図書 47 冊の寄贈を受けた。

8　所感

今回の震災については，地震発生時に図書館内にいた利用者に対し人的被害がなかったことは幸いであった。これまでの危機管理マニュアルでは何らかの災害が発生してから避難誘導まで細かくマニュアル化されているが，震災当日に柔軟な対応ができたかどうかという反省が残った。

図書館としての被害は建物や資料など多少あったものの，復旧については図書館の再開を優先していたこともあり，休館中の情報支援についてはもっとできることがあったのではないかと考えられる。地震発生後から避難所生活を余儀なくされた市民や安否確認のため外部との連絡を求めていた方など，被災者がまっさきに必要とした情報は，各種生活情報であった。図書館として建屋の機能が失われても，新聞や書籍を届けることやホームページなどを介した WEB 情報を発信するなどのサービスは実施可能ではなかったかという反省も残った。これらのことを踏まえ，被災直後の対応，救援活動への支援，復興・自立への支援，サービス再開に向けた特例措置（弁償や督促など），図書館の復旧について各項目ごとに図書館としてできること，できないこと（できるようにするためには）を検討し，危機管理マニュアルへ反映できるよう見直しを進めたい。

守谷中央図書館

１　施設の概要

○延床面積：3,523 ㎡
○建築年月：1994 年 5 月
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 3 階
○併設施設名：無
○閲覧席数：182
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：385,738
○平成 22 年度開館日数：267
○平成 22 年度入館者数：225 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：63 千人

２　地震発生時の様子

地震発生当日は，金曜日の午後ということで，比較的利用者も少ない状況だった。

大きな揺れを感じ，職員は利用者に対し，安全な場所に移動するよう，また比較的安全だと思われる場所にいる利用者にはその場にとどまるよう誘導した。館内にいた人の数はそれほど多くなかったこともあり，震度 5 強という，今まで体験したことのない大きな地震ではあったが，パニックなどは起こらなかった。

揺れ始めから，おそらくは数十秒程度が経過した後，2 階から 3 階の吹抜け部分の天井板が崩落し始めた。

この天井板の落下により，利用者 2 名が負傷し，書架や照明器具，館内検索機，資料等が破損した。さらに，舞い上がった埃により，火災報知機が作動した（実際には火災の発生はなかった）。

また，防火扉の一部が作動し，エレベーター2 機は停止した（閉じ込められた人はいなかった）。

なお，負傷した利用者はすぐに病院に搬送し，現在は回復している。

最初の揺れが治まると，利用者と職員は全員，館外へ避難した。その後も，余震が続いたため，図書館を臨時休館とした。

隣接する市役所では災害対策本部が設置されたため，職員はその指示により行動した。

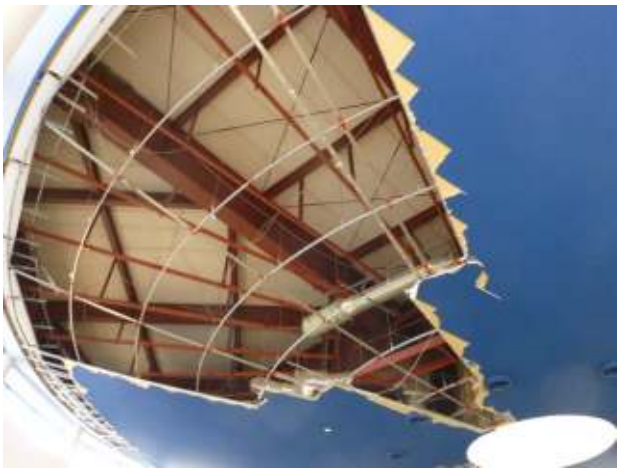
夕方頃からは，職員はいったん図書館内に戻り，施設の点検を行った。また，市内 4 つの公民館図書室（以下，分室）も職員が巡回し，点検を行い，大きな被害はないことを確認した。ただし，市内の一部の地域では停電が続いていた。図書館のシステムはおおむね無事であることが確認できたため，翌日以降の方針を職員で打ち合わせ，ホームページに臨時休館などの情報を掲載した。その後は災害対策本部の指示を受けて市役所にて待機・解散となった。

３　被害状況

（1）建物・敷地・設備関係

主な被害は，天井板の落下 4 ヶ所をはじめに，照明器具の破損 5 ヶ所，書架の破損 2 ヶ所，一時的な停電，エレベーター2 基停止，火災報知機作動，外壁の亀裂，屋外スロープ部分で地面の隆起など。

電動の集密書庫は通路部分に資料が散乱し，書架を動かすことができなくなった。



（板が落下した天井部分）

（床に落下した天井板）

（2）人的関係

落下した天井板により，利用者2名が負傷。1名は軽症のため，そのまま帰宅。もう1名は左腕に痛みがあるため，病院に搬送。骨折のため全治2ヶ月と診断され，16日間の入院。手術は成功，3月26日には退院し，快方に向かった。

（3）資料関係

落下した天上板の下にあった資料は破損したものも多く，利用が難しいと判断した物は除籍した。また，視聴覚資料は，本と比べても破損が大きく，揺れの方向と棚の向きの関係で，特にCDケースの破損が目立った。このため，落下した資料を中心に大量のケース交換を行った。なお，ケースは市民からの寄贈により賄っているため，金銭的な負担は発生していない。

（床に散乱した資料）

（4）システム関係

落下した天上板により，館内検索機のモニター1台が破損した（後日修理し，現在は使用中）。それ以外は，まったく被害がなく，地震当日もシステムそのものの運用は可能だった。ただし，資料の確保が困難であるため，WEB-OPACを停止した（4月12日から再開）。

4　再開までの道のり

地震発生直後から，図書館は臨時休館とした。また，分室も同様に臨時休館とした。

3月15日（火）から，分室は再開した。図書館で受取希望の予約資料を分室に振り分けるなどして，なるべく利用者にも資料を借りていただけるような措置をとった。また，随時，ホームページにて，今後の見通しや被害の状況などをお知らせしていった。

被害の大きかった吹き抜け部分は，余震でも小さな破片が落ちてくるような状態だったため，しばらくは立入禁止とし，その解除後もヘルメット着用の上，片付けを行うなどの対応をとった。

4月9日（土）から，6月30日（木）までの工期で復旧工事が始まった。落下した天井の復旧にあたっては，天井の仕上材の軽量化，グリップ・吊ボルトの見直しを行った。

4月12日（火）から，停止していたWEB-OPACや予約・リクエストサービスを再開した。

4月16日（土），ホームページに図書館は7月上旬再開予定の旨を掲載した。

復旧工事の実施中にも，図書館所蔵の雑誌や新聞を分室で閲覧できるようにしたり，破損した書架や資料の片付けや修理，休館中に返却されてくる資料の管理など，再開に向けての作業を進めていった。また，復旧作業の様子は少しずつホームページに掲載し，利用者にも情報提供を行った。

5月22日（日），地震発生後から中止していたおはなし会を，分室にて再開した。

6月14日（火），図書館の再開が6月28日（火）からとなったことを，ホームページ等で周知を開始した。

再開の直前に，今回の地震を受けて作成した地震発生時の行動マニュアルに基づき，図書館のスタッフ全員に対し避難・誘導の訓練を行った。

6月28日（火）10時，図書館が再開した。

5　節電の状況

開館している分室では，空調の停止や照明の一部消灯などを行い，節電を行った。

また，休館中の図書館も同様に，節電を行った。

6　他からの支援

財団法人図書館振興財団より，書架の修理代として，187,425円を頂戴した。

また，図書館の利用者から，「何か手伝えることはな

いか？」との問い合わせや，激励の言葉をいただいた。復旧工事を行っていたこともあり，実際に利用者に作業をお願いしたことはなかったが，職員一同，とても励まされる思いだった。

７　所感

「まさか，あんな大きな地震が来るなんて」と思った人が多かったであろう今回の地震だったが，あのとき，本当に落ち着いて冷静に行動できた人はそれほど多くなかったと思う。当館でも，残念なことに負傷者が出てしまい，その点は反省すべきところである。

今回の地震を経験したことで，また大きな地震が発生したときには，どのような行動をとればよいのかがわかった。もちろん，地震が来ないに越したことはないが，万一に備え，職員は適切な避難・誘導をしっかりと身につけておきたい。

ただ，怖いのは「慣れ」である。地震発生直後は誰もが余震に注意を払い，ちょっとした揺れでも敏感に反応したと思う。しかし，現在は，地震が減ったこともあり，「これくらいたいしたことはない」という気持ちが出てきているのではないだろうか。

我々図書館職員は，図書館の管理者として，そのような「慣れ」を持つことなく，いつ地震が来ても，利用者を，そして，自分自身を守れるよう，常に気を引き締めて業務に臨むべきだと強く思う。

常陸大宮市立図書情報館

１　施設の概要

〇延床面積：1,918 ㎡
〇建築年月：1995 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート
〇併設施設名：常陸大宮市文化センター
〇閲覧席数：28
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：122,859
〇平成 22 年度開館日数：278
〇平成 22 年度入館者数：111 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：46 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時，館内には約 30 人の利用者と職員 7 名がいた。

地震発生後すぐに電気が消え，書架から図書資料が落下し，天井からの落下物で館内が埃で真っ白な状況の中，手動の玄関ドアから 1 階一般開架と児童室利用者と 2 階学習室利用者を避難させた。

３　被害状況

施設面では，吹き抜けになっている開架の天井の継目部分が下がり，天井板が部分的に落下。天井崩落の危険もあった。

（天井に生じた亀裂）

天井の防煙たれ壁のガラス一部破損落下。直下が貸出カウンターであったが幸い人に直撃はしなかった。

（破損した防煙たれ壁）

南側の柱の天井部分の落下。

（破損した柱周辺の天井）

南側外壁の一部亀裂及び落下。壁の亀裂は館内全てに有り。

人的被害は無し。

資料は開架，閉架あわせ 6 割程度が落下した。

システムは 14 日に復旧し，障害はなかった。

隣接する常陸大宮市文化センターは天井が崩落し，完全に使用不能となった。図書館と文化センターを結ぶ柱も崩落した。

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生時から電気・電話・水道が断絶した為，余震は続いていたが出来る範囲で落下した図書資料の整理作業を開始する。
14 日に電気・電話が復活，水道は 16 日に使用できるようになったが，施設の被害状況が大きく危険と判断され，一般開架への出入りができない状態。

修理工事が終了していない為，2012 年 2 月現在も 1 階一般閲覧室，2 階学習室・研修室・視聴覚室は利用に供することができず，全面再開に至っていない。

4 月からホームページ及び各図書室からの予約による貸出と相互貸借の貸出のみ実施。

臨時開館として6月10日より隔週の金～日曜日の期間に児童室とエントランスの一部で良く読まれるような図書資料，ビデオ，DVD を並べての貸出と返却のみ実施。ＰＣは線をエントランスまで引っ張ってきて業務処理が出来るようにした。エントランスに並べていない図書の請求が有ったときは，職員が一般閲覧室内に入り持ってきている。(別図「常陸大宮市立図書情報館　臨時開館の様子」)

夏休み期間中から毎週金～日曜日に実施。夏休み期間中は毎週土曜日の 11 時からおはなし会を実施。

12 月 15 日から休館日以外は毎日部分開館している。

おはなし会は 9 月以降毎月第 2，4 土曜日に実施。工事が終了し館内の整理が終わるまで現在の状態で運営予定。

全面再開は 2012 年夏頃になる予定。

５　節電の状況

部分開館時間の短縮　9 時 30 分開館～17 時閉館

那珂市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：3,609.69 ㎡
〇建築年月：2006 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造２階建
〇併設施設名：無
〇閲覧席数：148
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：127,941
〇平成 22 年度開館日数：273
〇平成 22 年度入館者数：350 千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：56 千人

２　地震発生時の様子

那珂市立図書館では地震発生時には館内におよそ 100 人の利用者と 10 人の職員がいた。最初の揺れの際には職員により利用者の避難誘導等を行っていたが，収まらない揺れの中でさらに大きな揺れにより館内が停電となり天井の一部が崩落する等，建物に被害が及んだが，幸いにもケガ人は出なかった。

３　被害状況

施設面では，一般開架天井の一部崩落及び排煙垂壁の落下，館内壁面の亀裂，エキスパンションジョイントの破損，天井崩落による閲覧テーブル・椅子・カウンター・床の破損，駐車場の陥没等の被害があった。資料の８割が落下したが，システム被害については無かった。

（一般開架天井落下部）

（一般開架照明落下，垂れ下がり）

（排煙垂壁ガラス落下によるカウンター破損）

（一般開架天井材落下による閲覧テーブル破損）

（一般開架天井材落下による閲覧席破損）

（駐車場陥没）

（一般開架天井材破損及び防煙垂壁ガラス落下）

（一般開架書架，資料落下）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。地震直後から電気・水道が断絶しており，全く作業的なものは出来なかった。

その後，電気・水道が復旧し館内の落下物の片づけ及び落下資料を戻す作業を行った。建物自体の被害については，国の補助金を活用し復旧工事を 7 月から 9 月にかけて行い，9 月 30 日に再開することが出来た。

５　節電の状況

事務室・廊下・トイレ等の電灯の間引きを行ったほか，冷房の設定温度を 28 度とした。

６　震災に関連した図書館活動

休館中は以下のような活動を行った。

① 市内幼稚園への出張お話し会

② HP や掲示板による震災関連情報提供

③ 被災地の子供たちに贈る本を募集した。

また再開後，ロビーにて「那珂市立図書館被害状況」と題したパネルの展示を行った。

７　所感

休館中は利用者から「いつ開館しますか」「何かお手伝い出来ることはありませんか」等の電話やメールをたくさんいただき，図書館に対する期待の大きさを痛感した。

筑西市立中央図書館

１　施設の概要

○延床面積：4,673.06 ㎡
○建築年月：1998 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階建
○併設施設名：無
○閲覧席数：291
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：240,943
○平成 22 年度開館日数：270
○平成 22 年度入館者数：184 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：107 千人
※建物は 2000 年に「図書館協会建築賞」受賞。

２　地震発生時の様子

筑西市立中央図書館では地震発生時には，館内におおよそ 50 人の利用者と 13 人の職員がいた。

利用者の安全確認と共に館外へ避難するよう誘導した。全員の利用者が帰宅後、直ぐに閉館とした。

３　被害状況

負傷者はなかったが，図書資料 150,000 冊の図書が散乱した。施設は，空調設備の水漏れ，駐車場のひび割れ，OA 用床タイル 10 枚が破損した。

（1 階一般開架）

（2 階文庫棚）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。電気・水道等のライフラインの支障はなく，また施設は修繕にいたる被害もなかった。しかし，一般開架，閉架書庫の図書資料が落下したため全職員で図書資料の整理等にあたり 3 月 29 日の開館にいたった。

５　節電の状況

照明の間引をする。冷房の設定を 28℃とし，外灯や冷房の時間を短縮した。

６　震災に関連した図書館活動

再開後，震災に関する資料の展示・貸出コーナーの設置

７　他からの支援

（社）日本図書館協会からの支援
・修理研修会講師派遣
・安全安心シートの提供
・大活字図書の提供

市民からの支援
・旅行本（被災地方面）の寄贈

８　所感

施設全体で大きな揺れを感じたが、利用者の反応は鈍く避難誘導にスムーズな動きがなかった。常日頃から、職員も利用者も危機意識を持ち、スピードのある行動を心がけていきたい。

筑西市立明野図書館

１　施設の概要

○延床面積：1,154.80 ㎡
○建築年月：1986 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上１階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：102
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：132,582
○平成 22 年度開館日数：270
○平成 22 年度入館者数：63 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：107 千人

２　地震発生時の様子

筑西市立明野図書館では，地震発生時にはおよそ 20 名の利用者と 7 名の職員がいた。とっさの揺れに，開架室にいた職員は利用者を非常口から館外へ誘導しひとりのケガ人もなく，無事避難することができた。

３　被害状況

施設面では，開架室の天井が部分的に数カ所崩落，ドアガラスの破損，書架倒壊破損，空調冷房設備の配管破損，地盤沈下による外壁亀裂及びテラス損傷，給水管破裂，システムノートパソコン損傷。

（書架倒壊によるシステムノートパソコン損傷）

資料は開架，閉架書庫併せて約 10 万冊の資料が落下した。

（一般開架室資料のほとんどが散乱している様子）

４　再開までの道のり

地震発生直後から 3 月 27 日まで休館。翌日から直ちに落下した資料をもとの書架に戻す作業に入った。

少人数の職員では，開館予定の 3 月 28 日までに復旧することは困難なため，ボランティアや中央図書館の人達の応援をうけながら 3 月 29 日に再開をした。

しかし，足の踏み場もないほどに散乱した資料に加え，建物や備品の損傷も多く見られたため，とりあえず資料をもとの場所に配架することだけを緊急の作業とした。破損した資料は選別したが，天井から落下した埃等は払うことなく配架したり，清掃は後回しにしたりしながら時間との戦いの中，急場しのぎの作業で乗り切った。

電気・電話・水道等のライフラインは断絶状態だったが，電気・電話は 13 日に復旧，水道は給水管の破裂も相まって 19 日まで使用できなかった。その間，職員は自宅から水を運んできたり，給水車から補給を受けながら，最低限の水の確保に努めた。

幸いシステムに大きな損傷はなく，すぐに復旧することができ，再開に影響はなかった。

損傷のあった建物の復旧工事は，災害から 8 ケ月間を要し 11 月 15 日で全て竣工した。

５　節電の状況

震災以後は，館内照明蛍光管を間引きしたり，冷暖房を極力抑えるなどして，対前年度比△30%の節電を実行している。

６　震災に関連した図書館活動

ホームページや広報誌「ピープル号外（3 月号）」で休館のおしらせ，また，館報「花さき山」で開館日を周知した。

再開後，館内で「地震直後の情報」と題して地震に対する注意や写真を掲示して，利用者に余震注意を促した。

（「地震直後の情報」）

７　他からの支援

資料整理には，ボランティアを 9 日間で 11 名，中央図書館から 2 日間で 17 名の応援をうけた。

また，被災した図書館への支援として，（財）図書館振興財団から，書籍落下防止のための安全シート（滑り止めテープ）の支援を受けた。

８　所感

大災害であったにもかかわらず，ひとりの犠牲者を出すこともなく，危機を回避した。また，職員が利用者を迅速に館外へ緊急避難させたことは，毎年の防火訓練での教訓が生かされたものであり，職員の危機管理に対してモチベーションの高さをうかがわせるものであった。

1986 年のオープンから 25 年を経過した建物は，随所に老朽化が目立ちはじめていたところであったが，追い打ちをかけるように地震に見舞われ，損傷も甚大であった。さらに書架も旧型のため背が高く，そのために資料の落下も多かった。

今後は建物のメンテナンスや書架への安全装置の設置等課題とするところも多い。

坂東市立岩井図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,820.00 ㎡
〇建築年月：1995 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
〇併設施設名：坂東市民音楽ホール
〇閲覧席数：98
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：127,040
〇平成 22 年度開館日数：279
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：56 千人

２　地震発生時の様子

館内では雑誌コーナーや壁際の閲覧机に利用者が数人いた。揺れが大きくなるに従い，書架から大量の本が落ちたが，机の下や椅子から動かないよう呼びかけをし，揺れが収まった時点で館外へ避難誘導した。

３　被害状況

停電。書架上段の資料の落下，ＣＤの本体の落下破損。学習室の壁の一部が剥離。

４　再開までの道のり

当日を含めた３日間を臨時休館とし，職員が配架，修理を行い，３月 15 日（火）から通常通り開館。

５　節電の状況

館内の電気を数本取り外した。明るいうちは電気をつけないなどの対策を実施。

冷房・暖房の基本設定を節電モードに設定。

６　震災に関連した図書館活動

定期的に震災関連資料特集（大地震，原発事故関連本）

７　所感

大地震に際して，毎年行われていた避難訓練が役にたった。平日だったため，利用者が少なかったこともあり誘導等は安全に行うことができたが，休日やイベント中の利用者の多い時だったら対処できただろうかと考えさせられた。また，書架は倒れることがなかったが，本の落下が多かったため，書架の配置（重い本などは下になど）の見直しなどの必要性を感じた。

坂東市立猿島図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,481.11 ㎡
〇建築年月：1997 年
〇建築構造：鉄筋・鉄骨コンクリート
〇併設施設名：坂東市立猿島資料館（＝さしま郷土館ミューズ）
〇閲覧席数：118
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：98,640
〇平成 22 年度開館日数：277
〇平成 22 年度入館者数：21 千人
〇奉仕人口（2011 年 3 月末）：57 千人

（開架の様子）

２　地震発生時の様子

館内の利用者には，机下にうずくまるなどの安全確保を呼びかけ，揺れが落ち着いてからの避難誘導などを行った。

３　被害状況

書架の上部 3 分の 1 の資料が落下し，書架の壁板が数か所はがれ落ちた。事務室内書架の視聴覚資料が　4 分の 3 ほど落下。

館内壁に数か所ひび割れを確認。

岩井図書館の停電により，電算システムが図書館においても 3 日間停止したが，システムには特に損傷はなかった。

（事務室内のビデオ書架の様子）

４　再開までの道のり

当日を含め地震発生直後から 3 日間を臨時休館とし，落下資料の修理，排架を行った。3 月 15 日（火）には通常開館。

（開架の様子）

５　節電の状況

書架上の蛍光灯を間引きし，更に必要ゾーンのみ点灯している。

夏季の冷房は，設定温度をあげ，団扇を配るなど，利用者へも節電協力をよびかけた。

冬季の暖房は設定温度を下げ，節減に努めている。

６　震災に関連した図書館活動

震災関連コーナーを設置し，情報提供を行った。

市内のハザードマップを入り口に掲示した。

７　所感

図書館としては，地震発生後，施設の安全確認を行い，図書館資料の整理を急ぐなど，利用者の受入れ体制を作った。それは，地震後，子どもや子育て世代やお年寄りなど自宅にいるのが不安な方々の滞在場所としての提供もかねていたが，実際にはあまり来館者はいなかった。

さしま郷土館ミューズは，坂東市における第 4 位の

災害対策本部設置場でもあり，比較的安全な建築物であるが，来館者が少なかったのは市民の認識度が低かったとも考えられる。

今後は，災害に対しての情報提供とともに，安心の空間を提供できる公共施設であることを市民に伝える必要があるだろう。

稲敷市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,585.79 ㎡
〇建築年月：1992 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
〇併設施設名：稲敷市歴史民俗資料館
〇閲覧席数：125
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：165,882
〇平成 22 年度開館日数：256
〇平成 22 年度入館者数：40 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：47 千人

２　地震発生時の様子

稲敷市立図書館では地震発生時は平日金曜日の午後だったため館内には数名の利用者と 4 名の職員がいたが，利用者，職員ともに負傷者は無し。

地震直後，職員が棚から離れるよう呼びかけ，最初の大きな地震が治まってから利用者の避難のための誘導を行った。職員は余震が続くため状況を見ながら屋外への避難，施設内の被害状況確認を繰り返した。

停電も起こり電話が使えず，携帯電話も繋がらない状況のため併設の歴史民俗資料館の職員が一番近い分庁舎へ車で向かい情報収集にあたった。

当日中に電気は復旧し図書館システムのサーバーに異常が無い事の確認,施設の被害状況の確認を行った。

資料の落下，棚の倒壊等があり翌日より図書館の復旧作業を行う事を確認し一般職員は帰宅し，図書館長 1 名，資料館長 1 名が市災害対策本部との連絡のため館内で待機した。

３　被害状況

施設面では正面玄関部分で自動扉上部のアクリル板が破損し落下，玄関に亀裂，障害者用スロープ下の陥没，玄関の鉄筋がコンクリートから剝がれるという被害があった。

館内 1 階では吹き抜け部分の天井に隙間が発生し,2 階通路部分では会議室近くの通路の継ぎ目が破損した。

敷地内では地盤沈下がおこり，敷設されている管が隆起した。

※図書館のある旧東町地区では液状化による被害がかなりあったが，図書館の地盤沈下では砂が吹き出すといった液状化の現象は見られなかった。

（玄関亀裂部分の様子）

（玄関鉄筋部分の様子）

（2 階通路天井の様子）

資料の落下は開架で書架の上段を中心に一般書，ビデオ架，CD 架で被害が多くみられた。

（1 階開架の様子）

（1 階 CD 架前の様子）

1 階閉架書庫は電動式書架であるが，部品破損により自動での開閉が不可能になり安全バーも故障した。また，書架の間に本が挟まるような形で落下した。

（1 階閉架書架で本が落下し挟まっている様子）

2 階保管書庫の書架は将棋倒しに倒壊し，利用ができない状態となった。

（2 階保管書庫内の書架の様子）

4　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から臨時休館となった。地震直後停電したがその日のうちに復旧した。余震が続いたため館内に戻る事が出来なかったため，出来る範囲で当日は施設の状況確認と図書館システムの動作確認を行った。

震災翌日，再度施設内の被害状況を確認した結果，

閉架書架，保管書架の被害が大きくまた建物の被害や施設周辺の地盤沈下もあり，敷地内の安全が確保できないため利用者の立ち入りを禁止した。また，断水のためトイレが使用できない状況が数日続いた。

正面玄関の鉄筋部分の破損，障害者用スロープ下の地盤沈下や施設周りの地盤沈下，玄関の亀裂，1 階吹き抜け部分の天井の隙間等の修繕が必要な事から利用者の安全面を考慮し，復旧工事が終了するまで休館することを決定した。休館については広報紙，ホームページ等で利用者へお知らせした。

まず，1 階開架の落下した本，CD，ビデオ，DVD を棚に戻す作業を順次行った。CD，ビデオ，DVD はケースの破損，ソフト本体の破損もあり確認作業を行いながら，同時に破損の著しい物は除籍も行った。

閉架書架は可動式で電動式の書架だが部品の破損のため手動で棚を動かした。棚を動かすたびに間に挟まっていた本が落ちてくるという状態で，掻き出すようにして本を書庫から運び，開架部分の空きスペースへ並べた。

2 階保管書庫は棚が倒壊し本がなだれ落ちた。書架の間からすべての資料を一時的に 2 階ギャラリーへ運び出す作業を行った。入れ替えを予定していた可動書庫の設置を早め 4 月中に棚の設置は完了した。主に児童書を保管していたが，全資料を棚に戻すことが出来ないため一部資料の除籍を行い設置した棚へ配架した。

公民館図書室については施設の安全面が確認されたため，図書館に先駆け 4 月 1 日より再開した。

図書館については，復旧が完了した後，5 月 10 日から開館となった。

5　節電の状況

水曜日の開館時間を 9 時から 17 時までに変更した。（2012 年 2 月 1 日より 11 時から 19 時に戻す）

6　震災に関連した図書館活動

書架の破損のため除籍をかけた児童書を二次活用として学校などの関係機関へ提供し有効活用を図った。

また「いなしき復興祭」において除籍資料を来場者へ提供し有効活用を図った。

今回の震災では幸いな事に利用者へ被害が出なかったが，余震も続き利用者の安全対策として震災が起こった際の対応を検討し，館内に地震の際の注意書きを掲示した。

利用者の防災等の参考になるように，震災関連の本を集め，利用しやすい場所にコーナーを作った。

7　所感

図書館の周囲を見渡せば，未だに「災後」は残り，復旧工事が各所で進行中であり道半ばという感はあるが，利用者も徐々に増え一段落ついたように思う。

昨年からの住民生活に光をそそぐ交付金を活用した事業も順調に推移し，機器の入れ替えを行った視聴覚室では映画会の回数も増加し，園外保育での上映会などにも活用できた。

設備の有効活用や PR，また震災マニュアルの作成等が現在の課題と考える。

かすみがうら市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,127.00 ㎡
〇建築年月：1988 年
〇建築構造：鉄筋・鉄骨コンクリート
〇併設施設名：福祉館・公民館
〇閲覧席数：64
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：118,173
〇平成 22 年度開館日数：278
〇平成 22 年度入館者数：54 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：44 千人

２　地震発生時の様子

図書館内にはおよそ数人(10 人以下)の利用者と職員 4 人がいた。利用者の 1 人が，車に戻りラジオから情報を入手し，提供してくれた。その後，図書館は休館とした。

３　被害状況

図書は，書棚から全体の 1 割ほどが落下した。
AV 資料はラックごと床に落ち散乱した。
閉架書庫は，棚が傾き壊れてしまった。

(閉架書庫の書架傾きの様子)

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震以降，その後の余震を警戒し 6 日間の休館とした。3 月 18 日より再開した。

５　節電の状況

電球の間引き及び暖房等の設定温度を下げる。

神栖市立中央図書館

１　施設の概要

〇延床面積：2669.23 ㎡
〇建築年月：1990 年 7 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート平屋建
〇閲覧席数：94
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：477,344
〇平成 22 年度開館日数：281
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）92 千人

２　地震発生時の様子

神栖市立中央図書館では地震発生時には館内におよそ 50 人の利用者と 14 人の職員がいた。揺れがおさまった合間に，館外に誘導した。

その避難誘導の最中に襲った揺れにより職員の 1 人が転倒し，足を骨折した。（この怪我で 1 ヶ月程度出勤出来なかった。）利用者には被害は無かった。

地震発生間もなく館内停電，非常発電機作動。停電のため電算使用不可（日立 SE が来館していたためサーバー等処理，後日処理法確認する）

来館者に荷物を取りに館内へ入ってもらい，すぐ館外へ出てもらう。その際，貸出を受けたい利用者が 3，4 人いたためオフラインで貸出処理をする。

また，津波警報が出されていたが避難措置等は特にしなかった。

※神栖市では鹿島港で 5．6mの津波（「茨城県津波浸水被害地図」（茨城県河川課））に襲われている。図書館は至近の鹿島港から約 4km の位置にある。）

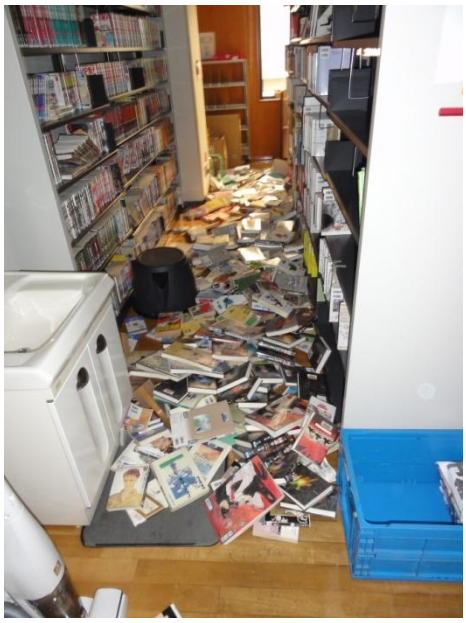
３　被害状況

施設面では展示ホール窓ガラス（H2,400mm,W2,530mm,厚さ 8mm）1 枚破損，同天井部破損（ガラスひび割れ，非常照明灯 3 基破損）

また，神栖市内各所では液状化による被害があったが，図書館には液状化による被害は無かった。

（展示ホール窓ガラス）

（展示ホール天井部非常照明灯）



（書架から図書・AV 資料多数落下）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。

18 日より開館時間短縮，17 時閉館。

4 月 26 日開館時間を通常とおりの 18 時までに変更。木・金の時間延長を 6 月 2 日より通常どおりに変更。

6 月 4 日から AV 資料の館内利用並びに集会室を（土・日・祝日）開放。

資料関係

書架から図書・AV 資料多数落下するが大部分は損傷なし修理可能なものは，修理後書架へ配架した。

施設関係

展示ホール窓ガラス

撤去（3 月 17 日）復旧完了（4 月 8 日）

展示ホール天井部改修工事

（2012 年 2 月 1 日から 2 月 29 日）

５　節電の状況

図書館では，照明の間引きや消灯，空調の停止，AV 資料の館内利用の休止，映画会講演会休止，集会室利用休止などにより節電を図った。

６　震災に関連した図書館活動

震災関連の神栖市の新聞記事をコピーし館内で閲覧できるようにした。

神栖市立うずも図書館

１　施設の概要

〇延床面積：598.98 ㎡
〇建築年月：1991 年 3 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート 2 階建て
〇併設施設名：うずもコミュニティーセンター
〇閲覧席数：24
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：71,938
〇平成 22 年度開館日数：286
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：92

２　地震発生時の様子

地震発生時，図書館内には，10 人程度の利用者と職員 3 名，臨時職員 2 名がいた。

利用者に本棚から離れるよう指示する。(3 回)

揺れが激しくなり停電。(非常灯は点滅)

建物の倒壊の恐れを案じ,職員が利用者を外に誘導,図書館の入り口および行政 SC を閉鎖。

揺れが収まってから，荷物を残した利用者の誘導。(荷物を持たせ退出)

また，地震による津波が沿岸部に来たが，利用者の避難対応に追われ，防災無線を聞き逃した。図書館自体が避難所かつ比較的高所にある為，津波警報を聞いた市民が避難をしてきて，津波警報が出ていることを知った。

電話回線がパンクしていたため，災害対策本部との連絡が取れず，判断に迷ったが，地震発生後の余震が多かったため，地震による建物の倒壊を考え，建屋に入れることを躊躇した。

津波は当館の近くの沿岸では 50m ほど浸水があり（茨城県河川課発表「茨城県津波浸水実績図」より），沿岸から約 3 キロメートル離れている当館地区までは達しなかった。

臨時職員は退勤。

その後は，避難所として避難者の対応をした。

３　被害状況

書架から資料の落下があり（1 割弱）損傷なし。

建物・設備に損傷なし。図書館のある知手地区では液状化の被害があったが，図書館には液状化の被害は無かった。

図書館システムに異常なし。

職員利用者に負傷者なし。

４　再開までの道のり

併設施設（コミセン）が避難所のため，地震発生後から職員は避難所対応をした。建物設備に被害は無かったが，3 月 13 日の通電後も，職員は避難所対応をした。断水が続いたため，通水してもしばらくの間は，仮設トイレを設置した。

3 月 17 日（木）から制限つき再開
・開館時間短縮（閉館時間を 18 時から 17 時に）
・ＡＶ資料の館内視聴休止。
・インターネット端末閲覧の延長不可。

4 月 26 日(火)から,開館時間を通常どおりに変更。

10 月 1 日（土）から，休止していたＡＶ視聴を土日祝のみ再開。

５　節電の状況

〇3 月 17 日から
・開館時間の短縮。
・事務室および閲覧室の照明の一部消灯。
・空調機の不使用。
・館内ＡＶ視聴の使用休止。
・インターネット端末閲覧の延長不可。

〇4 月 26 日から
・事務室および閲覧室の照明の一部消灯。
・空調機の不使用。
・館内ＡＶ視聴の使用休止。
・インターネット端末閲覧の延長不可。

〇現時点でも節電継続中
・空調機の設定温度を抑える。

・蛍光灯の一部消灯。
・館内ＡＶ視聴の制限土日祝のみ。
・インターネット端末閲覧の延長不可。

６　震災に関連した図書館活動

震災に関する新聞記事の切り抜き展示。

行方市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：946.03 ㎡
〇建築年月：1980 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：20
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：74,236
〇平成 22 年度開館日数：269
〇平成 22 年度入館者数（千人）：18 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：38 千人

２　地震発生時の様子

行方市立図書館では地震発生時には館内におよそ 20 人の利用者と 5 人の職員がいた。1・2 階の利用者の避難誘導を最優先で行った。

３　被害状況

施設面では，外壁に多数のヒビ割れと水道管破裂があった。

人的被害はなかった。

資料は開架で 6 割,約 45,000 冊の資料が落下した。

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。地震直後から電気・電話が断絶。13 日に電気が復旧した。

資料の復旧作業は 3 月 12 日より職員 5 名で行い 4 月 1 日より開館した。

５　節電の状況

開館時間を変更した。9 時 30 分～18 時 30 分であったのを，9 時～17 時までとした。また，館内の蛍光灯などを 30 本消灯して，節電対策を行った。

６　所感

あってほしくない災害であるが，徹底した対策が必要である。また，震災後市からの応援もなく自力で 4 月 1 日から再開館出来たことを職員に感謝したい。

鉾田市立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：928.28 ㎡
〇建築年月：1982 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造り　地上 2 階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：50
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：69,553
〇平成 22 年度開館日数：281
〇平成 22 年度入館者数：45 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：45 千人

２　地震発生時の様子

鉾田市立図書館では地震発生時には館内におよそ 20 人の利用者と 5 人の職員がいた。利用者は主に 2 階のレファレンス室にいた。地震発生後直ちに，図書館前の駐車場に利用者を避難させた。1 階は資料が散乱していた状況だったが，比較的冷静に避難できた。

避難後，利用者には状況を御理解いただき閉館とした。閉館後，職員は市の方で対策本部が設置されたのでその指示に従いつつ，館内の状況把握に努めた。

３　被害状況

本が床に散乱。(3 割程度)
屋外空調設備，排ガス用煙突が倒壊。
浄化槽の接触ばっ気室内亀裂。
人的被害は無かった。

４　再開までの道のり

14 日より散乱している本の整理に取り掛かり 15 日に作業終了。

16 日：旭，大洋文庫の整理とシステム点検作業終了

17 日：専門家による建物の安全性の点検を行う。屋外空調設備，排ガス用煙突の修繕。

18 日：浄化槽保守点検業者による点検の結果，接触ばっ気室内亀裂有の報告をうけた。修繕を必要とするが，使用に問題ないとのこと。

22 日から 1 階のみ使用で一部再開。当初は開架にある資料のみ貸出。

4 月 2 日より 2 階（レファレンス室，閲覧室等）を含めた通常開館開始。

５　節電の状況

室内蛍光灯を間引きしている。

つくばみらい市立図書館

１　施設の概要

○延床面積：1604.40 ㎡
○建築年月：1990 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：90
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：144,919
○平成 22 年度開館日数：282
○平成 22 年度入館者数：38 千人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：46 千人

２　地震発生時の様子

館内にはおよそ20 人の利用者と,6 人の職員がいた。職員は，利用者に書架から離れるように呼び掛けをしながら利用者全員を館外に誘導し，帰宅を促した後，図書館を臨時休館とした。

３　被害状況

地震の影響で，書架の一部は転倒し，大量の資料が床に落下，散乱したが，一人の負傷者も出なかった。

建物内部は，トイレの天井化粧板が落下，閉架書庫などの壁に軽度のヒビ割れができるなどの被害にあった。建築物周辺の地盤沈下が認められたが，建物本体への被害はなかった。

また，図書館システムなどコンピュータ機器類に被害はなかった。

（一般開架書架の様子）

４　再開までの道のり

震災翌日から緊急措置を講じ，書架の補強や転倒防止策を実施した。合わせて図書館外回りの地盤沈下対策工事も行った。他部署の職員と協力し，床に落下した大量の資料を書架に戻す作業，分類順に並べる作業などを行い，安全確認後，４月１日から開館した。

５　節電の状況

開館から９月末まで，通常 18 時閉館のところ，１時間短縮して 17 時閉館にした。開館中は，極力冷房のスイッチを切るようにし，非常口のドアや窓を開放状態にすることで，自然の冷風を取り入れた。また，緑のカーテンも実施した。

６　震災に関連した図書館活動

再開後は，以下のような活動を行った。

①震災の被害状況などを館内に表示し，市広報紙，ホームページへ掲載した。

②館内に地震・災害コーナーを設置し，関連記事や資料などを展示した。また，あわせて関連図書目録を掲示した。

７　他からの支援

震災翌日は災害対策本部を通じて，図書館以外の部署から職員の支援があった。

８　所感

不測の災害から発生した膨大な業務を遂行するには，支援・連携体制の構築や実践が重要である。また図書館員だけでは復旧が遅延したことは確かなことであり，人海戦術の大切さ，有り難味を痛感した。つくばみらい市防災・国民保護職員初動マニュアル～災害・テロ行為等危機管理の初動体制～を念頭に活動することができ，多くの教訓を得ることができた。

小美玉市小川図書館

１　施設の概要

〇延床面積：778.00 ㎡
〇建築年月：1991 年 12 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート造地上 2 階一部地階
〇併設施設名：小美玉市資料館
〇閲覧席数：76
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：77,027
〇平成 22 年度開館日数：253
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：53 千人

２　地震発生時の様子

小美玉市小川図書館では地震発生時には館内に 3 人の利用者と 3 人の職員がいた。利用者を駐車場に避難誘導する。職員も余震が続いたので駐車場で待機した。

直後から電気・電話が断絶したので，館長が教育委員会との連絡係となり職員はその指示に従った。

３　被害状況

施設面では，玄関部分のコンクリートが一部落下，地盤沈下も一部起こる。館内の数か所の壁面にひびが入る。1 階，2 階（資料館）とも天井の繋ぎ目がひらく。時計システムが故障する。資料は，開架してある図書資料が全部落下する。視聴覚資料は，ＣＤが 600 枚ほど棚から落下する。システムは 15 日に復旧し，故障はでなかった。人的被害は幸いになかった。

（本が散乱している書架の様子）

（天井の繋ぎ目が約 5㎜ 開いた様子）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。地震直後から電気・電話が断絶しており職員は避難場所での支援業務に 13 日まで従事する。14 日（18 時）に電気・電話が復旧する。15 日から図書館での復旧作業を行う。20 日から開館（17 時閉館）4 月 11 日に余震にて児童書の棚から本が落下する。5 月から通常どおりの開館時間に戻る。

５　節電の状況

館内の照明を日中は点けずブラインドで日差しを調節する。視聴覚コーナーでの視聴を中止する。暖房は，空調設備の工事のため使用出来ず，結果的に節電になる。

６　所感

地震の規模や被害の甚大さに言葉も無かった。小美玉市は幸いにも被害の規模が小さかったが，通信手段が断たれ，情報を入手することの難しさと何も分からない事への恐怖や不安を痛感した。この震災を経験して，図書館の利用者及び職員の避難について不安である。

小美玉市玉里図書館

１　施設の概要

〇延床面積：790.30 ㎡
〇建築年月：1994 年
〇建築構造：鉄筋・鉄骨コンクリート地上２階
〇併設施設名：小美玉市生涯学習センターコスモス
　小美玉市玉里公民館，小美玉市玉里史料館
　小美玉市玉里文化ホール
〇閲覧席数：16
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：49,518
〇平成 22 年度開館日数：262
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：53 千人

２　地震発生時の様子

小美玉市玉里図書館には，地震発生時４名の利用者と１名の臨時職員がいた。生涯学習センター全体にはおよそ 150 名の利用者と５名の職員がいた。

図書館は２階のため，１階にいた職員が図書館へ上がり，２ 階にいた臨時職員と共に，利用者へ避難を呼びかけた。

図書館の利用者には，休館を伝え全員が帰宅した。地震発生時は館長が不在だったが，17 時前には戻り，職員には職場待機が伝えられた。

その後，生涯学習センターが避難所となったため，職員はその対応をした。臨時職員は 18 時頃に帰宅した。

教育次長が各施設を回り，職員は翌日本部に集合するよう口頭で伝えられた。電話は使用できたりできなかったりまちまちであった。

３　被害状況

全館が停電した。開架で１割弱（約 3000 冊），閉架でも１割程度（約 1,000 冊）の資料が落下した。建物への被害や，書棚の転倒はなかった。CD ケース数枚が割れたものの，資料の被害もなかった。

人的被害はなかった。

（開架の様子）

（閉架の様子）

４　再開までの道のり

３月 11 日（金）地震発生直後から休館状態に入った。地震発生中から停電した。また，しばらく水道は使用

できたが，翌日には断水した。

14 日（月）に電気が復旧したので，図書館システムの状態を確認したところ，異常はなかった。15 日（火）に水道も復旧したため，16 日（水）からは臨時職員も出勤し，開館に向けて館内の片づけを行った。

3 月 20 日（日）から 17 時閉館（通常 18 時）で再開した。5 月 1 日（日）から通常開館に戻った。

５　節電の状況

3 月 20 日（日）から，4 月 30 日（土）までは 17 時閉館（通常 18 時）とした。

また，館内の照明や空調を 9 月 30 日（金）まで一部控えた。

６　震災に関連した図書館活動

地震, 原子力発電, 放射線等関連本コーナーづくり。

７　所感

県内の他の図書館と比較すると，被害は軽微であった。直後は避難所の対応などを行っていたため，図書館の整理はほとんどできなかった。

茨城町立図書館

１　施設の概要

○延床面積：2,500 ㎡（図書館部分）
○建築年月：1996 年
○建築構造：鉄筋コンクリート一部鉄骨造 3 階建
○併設施設名：福祉センター・保健センター
　※茨城町総合福祉センター「ゆうゆう館」内。
○閲覧席数：242（館内閲覧席のみなら 120）
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：114,553
○平成 22 年度開館日数：258
○平成 22 年度入館者数：102 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：35 千人

２　地震発生時の様子

茨城町立図書館では，地震発生時には館内におよそ 40 人の利用者と 8 人の職員がいた。

利用者は迅速に屋外へ避難をした。職員は，館内および事務所内で，地震の揺れのおさまるのを待ちながら，様子をみて，その後，屋外の広場へ避難をした。

３　被害状況

施設面では，館内の木製書棚（7 台）が転倒破損をして，図書約 18,000 冊が落下・散乱をした。また，閉架書架については，スチール製の書棚 7 基が変形して，全数倒壊をした。システムは 11 日に復旧をし，障害はでなかった。また人的被害も無かった。

（木製開架書架の転倒及び図書の落下の様子）

（木製開架書架の転倒及び図書の落下の様子）

（閉架スチール製書棚の変形及び倒壊の様子）

（閉架スチール製書棚の変形及び倒壊の様子）

４　再開までの道のり

３月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。そして，地震直後から電気・水道が断絶しており，全く復旧作業はできなかった。

３月 15 日に電気が，全戸通電再開となったが，水道については，復旧に困難を要し，町内（地区）の一部復旧を繰り返しながら，3 月 27 日に町内全域が復旧となった。

当初は，図書館施設の全体復旧が終了後に開館する予定でいた。しかし復旧までに長時間を要する為一部（開架部の復旧）を優先的に実施し，5 月 17 日に一時開館をした。（館内に図書を一時仮置き）開館当時は，節電も考慮して，9 時から 17 時までの開館時間で実施した。

（落下した図書の一時仮置きの様子）

５　節電の状況

茨城町節電実行計画として，7 月から 9 月の期間において，役場庁舎等の公共施設を対象に，各課にて節電行動チェックシートの提出を実施し，節電の取り組みを実施しました。

図書館においては，館内照明・OA 機器・冷暖房等の節電チェックを実施しました。

館内は約1/2の照明で対応，事務所内は1/4で実施，11 時 30 分から 12 時 30 までは，全部消灯を実施。扇風機を一部使用（カウンター内）等の取り組みを実施した。

６　震災に関連した図書館活動

◆休館中は以下のような活動を行った。

①図書館報（号外）の文書配布

②図書館入口に，震災被害状況のポスター掲示等

◆開館後の活動について

①本棚に転倒状況の写真ポスターを掲示

②地震時の避難等についての注意ポスターを掲示

③館内に「地震・原発・防災」に関する特集コーナーを設置。（図書の紹介）

（本棚の転倒状況の写真掲示の様子）

７　他からの支援

事務所内の転倒した本棚及び落下した書類等の復旧に伴って，同福祉センター内の支援を受けた。

８　所感

今回の東日本大震災によって，地震・津波の脅威，恐さを実感した。そしてさらに，「原発」という今までの「安全神話」に守られてきたものが，崩壊をした。「想定外」の一言ではすまされないと考える。

今の状況を冷静に捉えながら，判断し実行に移していくこと，さらに「安全とは何か」ということについて，考え直す時期にあると感じる。

復興は始まったばかりで，何年かかるのかわからないが，とにかく一歩一歩すすんでいくことだと思う。

城里町立桂図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,936.65 ㎡
〇建築年月：1998 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　一部 2 階
〇併設施設名：郷土資料館
〇閲覧席数：70
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：111,855
〇平成 22 年度開館日数：265
〇平成 22 年度入館者数：28 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：22 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時には 10 人程度の利用者と 6 名の職員がいた。すみやかに外へと避難してもらい，他部署と連携し，震災の対応にあたった。

３　被害状況

施設面では，内壁，外壁ともにひびがみられ，天井部のコンクリートの柱に欠損がみられた。

人的被害は無し。

資料は開架で 6 割落下した。

システムは 14 日に復旧し障害は出なかった。

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館。地震直後から電機・水道・電話が断絶しており，全く作業的なものはできず，町として住民へ水の供給などを行った。

14 日に電気が復旧したが，水道の完全な復旧には数日を要した。

3 月 29 日までは，図書館及び町内施設の復旧を行い，3 月 30 日に再開した。

再開後，近隣の那珂市，常陸大宮市が長く休館になっていた為，城里町以外の住民の多く来館するようになった。

なお，図書館に隣接している城里町桂支所の被害が甚大で使用が出来なくなってしまった。その為，図書館の 2 階が支所の仮庁舎として使用され，8 名ほどの町職員が勤務することとなった。この状況は 2012 年 3 月現在でまだ続いている。

５　節電の状況

震災後，蛍光灯の数を減らすなどの努力を行っている。

東海村立図書館

１　施設の概要

○延床面積：3,442.59 ㎡
（2011 年増改築の前は 1523.40 ㎡）
○建築年月：1985 年（2011 年　増改築）
○建築構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
　　地上 2 階
○併設施設名：教育支援センター
○閲覧席数：260
（2011 年増改築の前は 100）
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：160,167
○平成 22 年度開館日数：257
○平成 22 年度入館者数：139 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：38 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時は，増改築工事に伴う休館の為利用者はいなかった。職員 15 名は全員ケガもなく逃げ出すことができた。電話が使用できなかった為，本庁との連絡に時間を要したが，その日は正職員のみ隣の県立東海高校（一時避難所）に応援要員として派遣された。

３　被害の状況

施設面では，旧館の外見上はそれほど被害が見受けられなかったが，防煙垂れ壁（ぼうえんたれかべ）にヒビが入った。また，天窓の枠のボルトが数個落下，研修室の天井通気口が落下するなど，下に人がいれば大惨事になりかねないような状態であった。

新館（当時工事中）では，硝子が落下したり，壁に亀裂が入ったりしたため，補修工事が必要となった。

設備面では，DVD・ビデオコーナーのテレビが落下して使用不可の状態になった。事務室ではファイル類が散乱し，プリンターが転倒した。

人的被害は幸いなかったが，資料の被害は，書架（本棚）の転倒はなかったものの，多くの本とほぼ全ての CD・DVD が落下・散乱して足の踏み場がない状態になった。

（研修室の天井の様子：通気口が抜け落ちた部分）

（書架の様子：落下した本で埋まっている通路）

４　再開までの道のり

当初の予定では 7 月中のリニューアルオープンだったが，震災による増改築工事の中断や復旧工事に伴い，10 月 1 日リニューアルオープンになった。

散乱した資料については，引越しに伴い全てを箱詰めにする予定になっていたため，地震の復旧も兼ねて翌日から日中の作業として箱詰めを行った。

５　節電の状況

使用しない部屋は電気・空調ともに OFF にする。

阿見町立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：1,630 ㎡
〇建築年月：1989 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート 2 階建
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：115
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：141,481
〇平成 22 年度開館日数：291
〇平成 22 年度入館者数：73 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：48 千人

２　地震発生時の様子

阿見町立図書館では地震発生時に館内におよそ 30 人の利用者と 7 人の職員がいた。（他の曜日に比べて少ない利用者数であった）

地震発生後，職員がうまく利用者の避難誘導をして外に避難した。避難後は即，閉館とした。

３　被害状況

一般開架・児童開架の図書が約 3 割，42,000 冊が落下した。

（一般開架の様子）

施設では，一般開架書架 2 棚に破損が見られ，天井に隙間ができた。人的被害はなかった。

（天井の隙間）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から 3 日間休館し，落下した図書の整理をボランティアと共に行い，3 月 15 日から開館した。

５　節電の状況

節電対策のため，3 月 22 日から 6 月 5 日まで 17 時閉館とした。その後も継続して節電に取り組んでおり，平成 22 年度比で，約 28%の節電ができている。

６　震災に関連した図書館活動

再開後，図書館職員で，防災訓練を 2 回行った。

7 月には『緊急召集☆こども消防隊』と銘打ち，親子で参加する防災訓練の企画を実施した。また，11 月下旬に「東日本応援メッセージ展」を他の展覧会と併設して開催した。

７　他からの支援

図書館ボランティアから支援を頂いた。自宅が震災で被災しているにもかかわらず，図書館を利用する町民のため，いち早く再開できるよう，落下した図書の整理をして頂いた。それにより，県内の図書館の中でも早く再開できたため，近隣市町村の住民にもご利用を頂くことができた。

８　所感

当図書館では，施設的に大きな被害が無く，人的被害も無かったため，早く再開ができた。

事前に消防訓練を行っており，利用者誘導のシミュレーションも行っていたため，震災時には利用者の誘導に役立てることが出来た。普段から危機管理の意識を高め，防災訓練や施設の維持管理を行うことの重要性を改めて認識した。

八千代町立図書館

１　施設の概要

〇延床面積：3019.11 ㎡
〇建築年月：1999 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造一部 2 階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：454
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：148,021
〇平成 22 年度開館日数：260
〇平成 22 年度入館者数：90 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：23 千人

２　地震発生時の様子

八千代町立図書館では地震発生時にはおよそ 20 人の利用者と 6 人の職員がいた。無事に利用者を避難誘導し休館した。

３　被害状況

施設面では，本体建物の被害はなかったが，浄化槽設備の漏水があった。人的被害はなかった。

資料は開架で 8 割，約 8 万冊の資料が落下した。視聴覚資料は，CD 等が 200 枚ぐらい一部本体破損及びケース破損があった。

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。仮設トイレを設置し，2 週間後の 3 月 25 日から通常開館した。

５　節電の状況

7～9 月は，館内の照明を間引きしたり，特にロビー等は消灯し節電に努めた。

利根町図書館

１　施設の概要

○延床面積：2,454.3 ㎡
○建築年月：1996 年 10 月
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：115
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：140,657
○平成 22 年度開館日数：276
○平成 22 年度入館者数：－
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：18 千人

２　地震発生時の様子

利根町図書館では地震発生時には館内におよそ 20 人の利用者と 2 階多目的ホールでボランティアフォローアップ研修会が行われており約 80 人が研修を受けていた。

大きな揺れがあり職員が書架から離れるよう指示した直後位から本が書架からバラバラと落下した。

揺れがおさまり利用者の誘導と館内の確認を実施しした，けが人もなく大きな破損個所も無かった。

電気が止まり，電話がつながらない状況で休館とし臨時職員を帰宅させた。状況を確認するため自家用車のラジオを聴きながら情報の収集を図り，停電の回復を待った。携帯電話などが通じないため公用車で教育委員会に状況を報告しに行った。

職員に災害本部への招集がかかったため，図書館を施錠して退去する。20 時ころ停電が解消されたので設備や機械の確認を行い災害対策本部へ戻る。

３　被害状況

施設の被害は 2 階保存書庫壁のベニヤ板の一部が破損，保存書庫の新聞保存用のスチール書架がねじれて倒れた程度の被害であった。

外回りは平板ブロックが一部沈下，擁護壁に亀裂が数か所あった。

資料は開架で 7 割，閉架の書架で 6 割，約 8 万冊の資料が落下散乱した。

（本が散乱している様子　開架書架）

４　再開までの道のり

3 月 11 日地震発生から休館状態に入った。

職員は町の災害復旧本部としての災害復旧活動に従事，飲料水の配給作業や避難所での作業などを実施。

残った数名の職員と臨時職員及び，水道等の給水設備破損で休館中の生涯学習施設（公民館と生涯学習センター）の職員で図書館の書架整理を実施 3 月 15 日までに開架書架が整理できたので 16 日に開館した。

閉架書架の整理は開館後数日間かけて実施した。

５　節電の状況

開館後は，節電のため暖房や冷房は設定温度に気をつけて，節電目標を前年度に比べて 15%の削減を目標にエレベータを休止，映像ブースを休止，館内の照明を間引いて点灯するなど節電に努めた。

夏はゴーヤによるグリーンカーテンと氷蓄熱タンクの上部へ遮光ネットを張り節電効果を上げることに努めた。

６　他からの支援

生涯学習課関連施設職員の協力により図書の整理期間が思っていたより短期間で実施する事ができた。

７　所感

本の整理を行うのに一度本棚にすべて入れてしまってから動かしたが，やりづらかった。ブックトラックを利用した方がもっと早く整理できたと思われる。

小美玉市美野里公民館

１　施設の概要

〇延床面積：114 ㎡
〇建築年月：1980 年 7 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート 2 階建
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：16
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：24，332
〇平成 22 年度開館日数：272
〇平成 22 年度入館者数：5.6 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：－

２　地震発生時の様子

地震発生時，図書室には 2 名利用者がいたが，揺れが収まった時点で，建物の外に非難した。

３　被害状況

ほとんどの図書が棚から落ちたが，棚や建物に被害は無かった。事務室のロッカーが倒れ中身が散乱した。

４　再開までの道のり

地震の次の日のうちに，ほとんどの図書は棚に戻したが，余震が続いていたため，高い所の図書は戻さずに，箱に入れておいた。

2 日後の 3 月 13 日の 15 時 30 分ごろには，電気も回復して，図書室を再開できる体制になったが，公民館が美野里地区の避難所に指定されたため，5 月 1 日からの再開になった。

５　節電の状況

図書室は，基本的には電気を消しておいて，利用者が来た時点でつけるようにした。

夜間は 20 時までの開館とした。

大洗町中央公民館図書室

１　施設の概要

〇延床面積：184 ㎡
〇建築年月：1982 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
〇併設施設名：漁村センター・町民会館
〇閲覧席数：38
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：33,216
〇平成 22 年度開館日数：284
〇平成 22 年度入館者数：11 千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：18 千人

２　地震発生時の様子

大洗町中央公民館図書室では地震発生時，１ 人の利用者と２人の臨時職員がいた。利用者はカウンター近くにおり，まだ揺れが小さいうちにカウンター前まで誘導した。だんだん揺れが大きくなり，カウンター下に頭を入れ，揺れが収まるのを待った。揺れが一旦止まったのを確認し，外の安全な場所まで誘導した。利用者，職員ともにケガは無かった。

地震発生から 30 分後に津波が襲来。計５波の襲来があり，大洗港区では４．3mの浸水高があった。（「茨城県津波浸水被害地図」（茨城県河川課））

公民館は海岸より約 300mの位置にあり至近の文化センター，町役場共々，浸水の被害を受けた。図書室は公民館の ２ 階にあり津波には襲われなかったが，１階及び建物外部は３章のとおりの被害を受けた。

地震直後に外に避難した利用者は個々に帰宅する途中であったが，避難命令が出されてからは，大急ぎで高台に避難をしていった。職員は建物の上層階に残り，津波が襲ってくるのを目の当たりにした。津波がどの程度の高さまで来るか不安であった。幸いにして人的被害は出なかった。

町では地震発生と同時に災害対策本部を設置。間髪を置かず町内各所に避難所を設置した。職員はそれぞれ被害状況の確認や避難所で被災者受入れなどに配置され，町全体の被害の拡大を防ぐとともに，被災された住民の安全確保のための対応に追われた。

（3 月 11 日に大洗に襲来した津波の様子。
公民館に隣接している大洗町役場から南東方面を撮影。海岸は写真の右上方向になる。写っていないが，写真のすぐ右側に文化センター，公民館がある。）

（3 月 11 日に大洗に襲来した津波の様子。
公民館に隣接している大洗町役場から北東方向を撮影。上の写真とは逆に海岸に背を向けた形である。）

３　被害状況

公民館２階に位置する図書室自体に大きな被害はなく，約 150 冊の資料が落下しただけであった。

しかし，津波が流れ込み併設施設である文化センターの地下にある電源設備が冠水。津波と共に海底から濁流となって押し寄せた海水と汚泥の水圧によって空調配管や上水配管が破壊された。こうして公民館並びに図書室も電気・水道・エアコンが使えない状態となった。

（落下した図書資料の一部）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生後，休室状態に入り，被災者対応や津波被害の復旧の為，3 月中は全く作業が出来なかった。公民館は依然として，電気・水道・エアコンが使えない状態であったが，4 月 8 日から 2～3 日に 1 回のペースで図書整理を始めた。水道・トイレについては外の水道から手作業でタンクに水を汲み使用し，窓から入る自然の光を頼りに作業をすすめた。図書購入については，開室までに 2 回行った。

5 月中の開室に向け準備を進め，水道の復旧，仮設電源の設置を経て 5 月 20 日に開室した。開室にあたり，図書資料の落下防止対策や配置の検討，地震発生時の避難経路の確認等を再度行った。開室後も仮設電源で電力が限られていたため，エアコンが使えない状態であったが，平成 24 年 1 月より完全復旧し，震災前の状態に戻った。

５　節電の状況

仮設電源で電力も限られていたため（全館で一般家庭用 30 アンペア），照明を間引きした。照明は抑えめであるが，閲覧席は窓際で光がよく入る場所にあるので問題なく利用できた。また，エアコンについても使用できなかったため，夏場は自然の風と扇風機，冬場は石油ストーブのみで対応した。

６　震災に関連した図書館活動

震災に関連した資料を取り揃え，東日本大震災というテーマで「小さな小さな特別展」を開催した。

７　他からの支援

被災地へ支援したいという他県の方から多数の図書資料の寄贈をいただいた。

８　所感

休日など利用者の多い日に，災害が発生したとして，子どもだけで来室している利用者を建物から出るよう，避難をさせるだけでいいのか。現に，図書室のある建物が津波に襲われたことを考えると，身の震える思いであり，改めて最小限の人数でも対応できる防災避難対策の確立を急ぎたい。

大子町立中央公民館

別館図書館プチ・ソフィア

１　施設の概要

〇延床面積：224 ㎡
〇建築年月：2005 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　2 階建て
〇併設施設名：無
〇閲覧席数：40
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：21,780
〇平成 22 年度開館日数：256
〇平成 22 年度入館者数：11 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：20 千人

２　地震発生時の様子

棚は全部固定されているので本だけが散乱した。

３　被害状況

本の落下・停電・断水になった
壁に無数にひびが入った。

４　再開までの道のり

3 月 11 日地震当日の 16 時から，14 日まで停電・断水のため休館とした。3 月 15 日に再開。

５　節電の状況

昼間は 1・2 階共半分だけ電気を付けている。
暗い日は来館者があると付け，帰ると消している。

６　所感

建物が古いので，大きい地震が来ると不安である。

美浦村中央公民館

１　施設の概要

〇延床面積：2,962.42 ㎡
〇建築年月：1983 年 10 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：図書室 14，閲覧室 32
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：56,111
〇平成 22 年度開館日数：265
〇平成 22 年度入館者数：16 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：17 千人

２　地震発生時の様子

発生当時,図書室内には 5 名の利用者と 3 名の職員,館内には約 30 名の利用者が講座等で来館していた。揺れが始まった段階で，職員が館内の自動ドアを手動に切り替え避難経路を確保し，安全を確認しながら，館外へ利用者の避難を行った。

３　被害状況

図書室内では以下のような被害が発生した。

・増築部分境目の天井のひび割れ。【写真 1】
・5 割程度の資料の落下。【写真 2】
・開架の高スチール製書架の最上部にずれや歪み。
・高書架転倒防止の床ビスの緩み。
・閉架書庫の集密書架のハンドル故障。

システム面では，当館はクラウド型でありサーバー等のハードウェアは館内に存在していなかった為，機器破損は起こらなかった。だが，周辺のネットワーク環境に障害が起きたため，システム復旧までは 3 日程度かかった。

公民館全体としては，駐車場の舗装が横にずれ一部漏水が発生した。

【写真 1】

【写真 2】

４　再開までの道のり

職員は村の被災者支援作業や，村内の学校図書館の復旧作業も行いつつ，館内に散乱した図書の戻しを行った。戻し作業は 1 週間程度で終わった。

その後，公民館全体の安全を確かめてから 4 月 1 日に再開をした。

11 月に高書架同士を天で連結する耐震補強を行った。

５　節電の状況

館内の照明を間引く，夏場の設定温度を上げるなどの他，水曜日は 19 時まで開館していたのを 17 時閉館として，夜間の電力を削減した。節電の解除後、図書室は 9 月 14 日から 19 時閉館を再開した。

河内町中央公民館

１　施設の概要

〇延床面積：132.84 ㎡

〇建築年月：1969 年

〇建築構造：鉄骨造地上 1 階

〇併設施設名：河内町農村環境改善センター

〇閲覧席数：12

〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：10,685

〇平成 22 年度開館日数：289

〇平成 22 年度入館者数：1 千人

〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：10 千人

２　地震発生時の様子

公民館，図書室では地震発生時に室内には利用者はなく，職員だけが避難した。

３　被害状況

本棚から，本の落下等もなく転倒もなかった。

４　再開までの道のり

3 月 11 日地震発生直後から，ライフラインが断絶し，電気は間もなく復旧にはなったが，水道は数日間断水していた。その後水道も復旧し，ライフラインの確保はされたが，3 月末日まで休室し，4 月 1 日再開に至った。

５　節電の状況

温度調節‥‥・事務室の明かり調節やエアコンの設定温度を下げる等実施した。

６　所感

今後の課題として，災害時のマニュアル作成。

常総市地域交流センター

１　施設の概要

〇延床面積：159.72 ㎡
〇建築年月：1992 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造地下 1 階地上 7 階
〇併設施設名：ホール・展示室・研修室
〇閲覧席数：24
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：22,524
〇平成 22 年度開館日数：289
〇平成 22 年度入館者数：8 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：65 千人

２　地震発生時の様子

地域交流センター図書室では，地震発生時には利用者はなく職員 1 名がいた。

３　被害状況

敷地内ではスロープに段差ができ一部陥没，施設面ではエレベーター装置，消防設備装置異常警報，ホール内吊物損傷のため操作不可，ステージ床面に段差，展示品一部破損，展示ケース一部破損

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生後から 3 月 31 日まで臨時休館に入り，施設設備の安全確認終了後，4 月 1 日より再開した。

５　節電の状況

夏の節電対策の一環として，夏休みの期間中利用時間の変更にし，照明削減及びエアコン温度を 28 度設定にした。

６　震災に関連した図書館活動

ボランティア団体が図書室の除籍本を被災地に送った。

桜川市岩瀬中央公民館

１　施設の概要

〇延床面積：66.70 ㎡
〇建築年月：1975 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造３階建
〇併設施設名：無
〇閲覧席数：24
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：22,980
〇平成 22 年度開館日数：291
〇平成 22 年度入館者数：1,248 千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：47 千人

２　地震発生時の様子

地震発生時は公民館全体としては 40 名，内 2 階の図書室には 2～3 名の利用者が，職員は 1 階の事務室に 3 名いた。

発生時，天井から蛍光灯やダクトが落下する中，1 階にいた利用者は職員の誘導で外に避難をした。2 階には，職員が誰もおらず，地震が有る程度収まってから，利用者が自ら降りてきて外に避難をした。

避難後は休館とした。

３　被害状況

図書室では本の 3 割ぐらいが落下した。特に低書架天板の上部にブックエンドで挟んで置いていた本はほとんど落下した。

また床に固定していなかった書架は転倒をした。

建物としては，玄関自動ドアが壊れる，事務室が沈み，サッシが開かなくなるなどの被害が出た。

４　再開までの道のり

3 月中は職員は炊き出しの手伝いなどの作業に携わり，図書室の復旧作業には手が付けられなかった。

4 月に入ってから，本の戻しなどの作業を開始した。岩瀬中央公民館では女性職員しかおらず書架の復旧などに苦慮するところであったが，真壁中央公民館が丁度，移転作業の為，臨時職員（男性）を採用していたので，その方らが応援に来てくれた。

再開は 5 月 6 日からであった。

５　節電の状況

図書室は利用者が少ないことから，照明は常時付けないことを基本として，中に入る時だけ利用者に点灯してもらい，退室するときには消灯してもらうようにした。

６　所感

図書室には常時配置されている職員がいない為，今回のような事態のときの避難誘導に不安が残る。

真壁伝承館真壁図書館

（旧：桜川市真壁中央公民館図書室）

１　施設の概要

〇延床面積：93.00 ㎡

〇建築年月：1974 年（地震発生時は，真壁中央公民館が立て替え取り壊しとなったため，真壁庁舎 3 階に仮に図書室を開室していた。現在は 2011 年 9 月 1 日にオープンした真壁伝承館真壁図書館として設置。）

〇建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 3 階

〇併設施設名：真壁庁舎

〇閲覧席数：12

〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：22,003

〇平成 22 年度開館日数：279

〇平成 22 年度入館者数：3 千人

〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：47 千人

２　地震発生時の様子

真壁庁舎 3 階の図書室には，幸いにも利用者はいなかった。嘱託職員が 1 名いたが図書室入り口付近へ逃げ無事だった。

３　被害状況

今回の震災は，真壁中央公民館建て替えのための仮の図書室で地震にあった。図書室内の被害はなかったが，書架も倒れ図書の約 40%が落下した。

４　再開までの道のり

震災に遭った直後は，大きな余震も続き，図書の片づけもできない状態だった。余震が収まるのをみて書架に図書を戻していった。真壁庁舎 3 階の図書室も新しい施設へ移動のため3月31日で閉室の予定だったが，新しい図書室の工事も震災により遅れ，3 月末から約 1 ヶ月間，閉室を伸ばし貸出業務を行った。

５　節電の状況

暖房は，震災以後全く使用せず，照明も部分的に減らした。

６　震災に関連した図書館活動

短期間の休室のため図書室活動はないが，読み聞かせ事業については，会場を 1 階に移し実施した。

７　他からの支援

真壁庁舎 2 階に文化生涯学習課の職員がいたため図書室内の書架等の復旧の手助けしてもらった

８　所感

真壁中央公民館については，新しい施設（真壁伝承館）へ移る予定があったため，真壁庁舎 3 階の仮の図書室で震災に遭った。もし今までの真壁中央公民館（1966 年建築）の 2 階にあった図書室で震災に遭ったならばと考えると恐ろしい。建設当時の建築基準の建物であったため耐震などない。図書が 2 万冊，かなりの重さである。

図書室は，多くの利用者が集まる場所である。安心して利用してもらうよう図書の配架場所などを配慮しなければならない。

また，今回は，利用者がいない状況であったが利用者の避難・誘導，出口の確保など日頃の訓練がいかに大切であるか，この震災で改めて痛感させられた。

現在は，真壁伝承館真壁図書館として多くの市民の方に資料の提供を行っているが，この震災の教訓をこれからの図書館運営に役立てていきたい。

桜川市大和中央公民館

１　施設の概要

〇延床面積：1,672 ㎡
〇建築年月：1981 年
〇建築構造：鉄骨コンクリート造り２階建て
〇併設施設名：大和中央公民館
〇閲覧席数：20
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：13,641
〇平成 22 年度開館日数：294
〇平成 22 年度入館者数：１千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：47 千人

２　地震発生時の様子

大和中央公民館１階の図書室には，地震発生時に利用者はいなかった。館内におよそ 20 人の利用者と 2 名の職員，2 名の非常勤職員がいたが，すぐに外に非難したため全員無事だった。

３　被害状況

今回の震災で，図書室内の換気ダクトが一部地震によりゆがんでダクトの口が開いてしまった。また，被害は軽微なものですんだが，本棚の本が落下した。

（図書室の様子）

人的被害はなく，物的被害は，軽微なものだった。

４　再開までの道のり

震災時落下した本棚の本は，余震が収まり次第片づけ，すぐに現状復帰できた。

公民館は５月の連休明けから再開をした。

５　節電の状況

３月 11 日の震災以後，しばらく暖房は使用せず，照明も節電に努めた。

６　所感

震災時，幸いにも図書室利用者がいなかったため人的被害はなかったが，利用者がいた時のことを考えると現状の耐震対策では不十分であると言わざるを得ない。図書室は，地域の人々が利用する施設であるため，安心・安全に利用出来る体制を整えて行くことが必要であると切に感じた。

五霞町中央公民館

１　施設の概要

〇延床面積：117.00 ㎡
〇建築年月：1980 年 3 月
〇建築構造：鉄筋コンクリート造り
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：40
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：19,299
〇平成 22 年度開館日数：303
〇平成 22 年度入館者数：2 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：10 千人

２　地震発生時の様子

利用者 1 人，職員 9 人がいた。屋外へ避難し，人的被害はなかった。

３　被害状況

図書室の本棚が倒れ，本が散乱した。

４　再開までの道のり

本館では,停電等もなく週明けから復旧に当たった。16 日から図書室を含む全館の日中開館を開始した。

5 月 17 日からは夜間開館も開始した。

５　節電の状況

5 月 17 日までは夜間利用を中止し，節電に努めた。

夜間開館開始後は間引き照明等で節電に努めた。

境町中央公民館

１　施設の概要

〇延床面積：2,353.95 ㎡
〇建築年月：1984 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造
〇併設施設名：無し
〇閲覧席数：25
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：39,623
〇平成 22 年度開館日数：302
〇平成 22 年度入館者数：7 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：26 千人

２　地震発生時の様子

発生時は数十名の利用者（公民館利用者含む）と，3 名の職員がいて，外に避難をした。

３　被害状況

書架数箇所から図書の落下あり。
利用者・職員にケガは無し。

４　再開までの道のり

3 月 11 日～14 日は停電のため休館。
3 月 15 日より再開。

５　節電の状況

4 月末まで，節電のため開館時間を短縮。
5 月以降は通常どおり開館。
また，現在は照明に LED ライトを導入。

茨城大学図書館本館

１　施設の概要

○所在市町村：水戸市
○延床面積：5,668 ㎡
○建築年月：1971 年竣工，1983 年増築
○建築構造：鉄筋コンクリート　地上 3 階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：599
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：726,791
○平成 22 年度開館日数：297
○平成 22 年度入館者数：363 千人
○奉仕人口（2011 年 3 月末）：6,044 人

２　地震発生時の様子

地震発生時，館内の利用者は少なく，20 人の職員がいた。大きな揺れに驚いて，2F カウンター周辺に集まってきた利用者に館外へ避難するように伝え，館内（書庫の除く）に利用者が残っていないか確認した。

３　被害状況

○施設面の被害は以下のとおり。
天井吹き出し口の落下，ずれ，周辺天井建材の剥落。
冷水機給水管破損それに伴う水漏れ。
ガラス扉付書棚のガラス破損。
増築部分との連結部にゆがみ，それに伴う剥落。
資料棚のずれ。

（増築部分との連結部の剥落）

○人的被害はなかった。
○資料は約 20 万冊（5 割）の図書が落下した。

（床に落下した図書）

４　再開までの道のり

3 月 11 日：地震発生直後から臨時休館した。地震直後から電気・電話が不通になり，建物への立ち入りが禁止となった。職員は自宅待機となった。

3 月 17 日：建物への立ち入りが一部解除され，通電した。

～4 月中旬：事務スペースの片づけ，落下した図書の書架へ戻し，並べ直し作業を行った。

4 月 18 日：書庫等一部利用制限して開館した。また，同時に夜間，土日開館も再開した。

５　震災に関連した図書館活動

12 月 14 日：講演会「東日本大震災で被災した茨城の文化財・歴史資料のレスキュー活動」開催。茨城県図書館協会大学図書館部会主催，茨城大学図書館共催，茨城県教育委員会後援）

12 月 14 日～19 日：写真展「被災した茨城の文化財・歴史資料のレスキュー活動」，特別展示「襖の中のワンダーランドー救出された歴史資料からー」開催。

（展示風景）

○2 月 13～24 日：展示「茨城大学図書館所蔵史料にみる茨城の自然災害史」
○2 月 16 日：ギャラリートーク「鯰絵の世界：地震を洒落のめせ」
○2 月 19 日：記念講演会「茨城の歴史災害：2011. 3. 11 の教訓」

７　他からの支援

学生ボランティアなど，のべ 220 名が落下した図書を書架へ戻す作業や並べ直し作業を行った。(4 月 6 日～27 日)。

８　所感

震災後，対応は以下のとおり。
○行動マニュアル「図書館にいる時，地震が発生したら」を館内に掲示。
○書庫内の避難経路を掲示。
○地震マニュアル「図書館職員の行動」を作成。
○時間外職員を学生 2 名から社会人 1 名と学生 1 名とした。
○非常用メガホンとヘルメットを常備した。

茨城大学図書館工学部分館

１　施設の概要

○所在市町村：日立市
○延床面積：2,072 ㎡
○建築年月：1981 年竣工
○建築構造：鉄筋コンクリート　地上２階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：216
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：167,457
○平成 22 年度開館日数：301
○平成 22 年度入館者数：259 千人
○奉仕人口（2011 年３月末）：2,747 人

２　地震発生時の様子

春休み期間中のため館内の利用者は少なかった。当時３名の職員がおり，利用者を館外に誘導した。大きな揺れが収まった後に職員が館内全てを見回り利用者が残っていないことを確認した。

３　被害状況

○施設面の被害は以下のとおり。
・書架の転倒，除湿機の転倒。
・隣接建物へのドアの開閉不良。
・手動集密書架のレール（床）沈み込み，パネル外れ，ロック不良。
・雨樋のはずれ。

（手動集密書架のパネル外れ）

○人的被害はなかった。
○資料は約 10 万冊の図書が落下した。

（転倒した書架）

４　再開までの道のり

３月 11 日：地震発生直後から臨時休館した。地震直後から電気・電話が不通になり，建物への立ち入りが禁止となった。職員は自宅待機となった。
３月 24 日：通電開始した。
３月 28 日：水道が復旧した。
４ 月上旬まで落下した図書を書架に戻し，並べ替える作業を続けた。
４月 11 日：開館時間を８：30～12：00 に制限して開館した。
４月 18 日：開館時間を８：30～17：00 に制限して開館した。
５月９日：夜間，土日も含む通常開館とした。

５　他からの支援

学内の他部署の職員および教員が落下した図書を戻す作業や並べ直し作業を手伝った。

８　所感

震災後，対応は以下のとおり。
○行動マニュアル「図書館にいる時，地震が発生したら」を館内に掲示。
○地震マニュアル「図書館職員の行動」を作成。
○時間外職員を学生２名から社会人１名と学生１名とした。

〇非常用メガホンとヘルメットを常備した。
〇学部内で学生・教職員が避難訓練を３度実施した。
〇一部の書架で連結補強を行った。

茨城大学図書館農学部分館

１　施設の概要

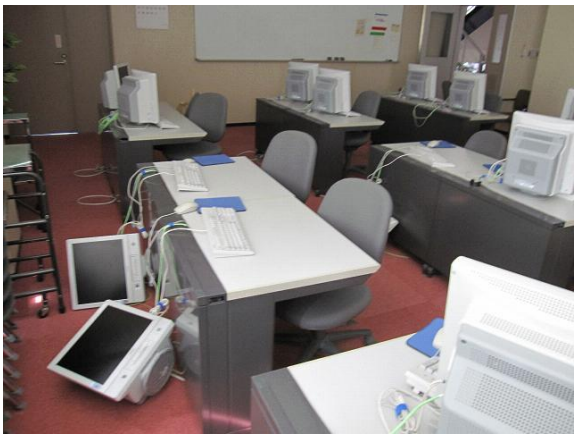
○所在市町村：阿見町
○延床面積：1,160 ㎡
○建築年月：1994 竣工
○建築構造：鉄筋コンクリート　地上２階
○併設施設名：講義棟
○閲覧席数：78
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：92,611
○平成 22 年度開館日数：294
○平成 22 年度入館者数：76 千人
○奉仕人口（2011 年３月末）：637 人

２　地震発生時の様子

春休み期間中のため館内の利用者は少なかった。当時２名の職員がおり，利用者を館外に誘導した。大きな揺れが収まった後に職員が館内全てを見回り利用者が残っていないことを確認した。

３　被害状況

○PC モニター４台が落下した。



（落下した PC モニター）

○人的被害はなかった。
○資料は約６万冊の図書（製本雑誌含む）が落下した。

（床に落下した製本雑誌）

４　再開までの道のり

３月 11 日：地震発生直後から臨時休館した。地震直後から電気・電話が不通になり，建物への立ち入りが禁止となった。職員は自宅待機となった。

数日後：建物への立ち入りが解除され，事務スペースの片づけ，落下した図書の書架へ戻し，並べ直し作業を開始した。（～5 月）

４月４日：8 時 30 分～17 時開館を開始した。

５月９日：夜間，土日開館を開始した。

５　他からの支援

教員，学生が落下した図書を書架へ戻す作業や並べ直し作業を行った。

６　所感

震災後，対応は以下のとおり。

○行動マニュアル「図書館にいる時，地震が発生したら」を館内に掲示。
○書庫内の避難経路を掲示。
○地震マニュアル「図書館職員の行動」を作成。
○時間外職員を学生２名から社会人１名と学生１名とした。
○非常用メガホンとヘルメットを常備した。

茨城女子短期大学図書館

１　施設の概要

〇所在市町村：那珂市
〇延床面積：1,020 ㎡
〇建築年月：1991 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造地上 4 階建の 1 階
〇併設施設名：無し
〇 閲覧席数：123
〇 蔵書（点）数（2011 年 3 月末）：79,981
〇平成 22 年度開館日数：217
〇平成 22 年度入館者数：5.596 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：242 人

２　地震発生時の様子

新入学生オリエンテーション当日の終了時で，ほとんどが学内にいた。図書館には十数名の新入学生と職員 1 名がいた。大きな揺れの中，本が飛ぶように落ちるのが見えた。驚怖で床にしゃがみ込んだままの新入学生もいたが，大きな揺れが引いた後に屋外へ避難誘導した。

３　被害状況

■資料

開架図書は，5 万冊の約半数が落下した。さらにボイラー室の配管の漏水により落下した図書の一部がぬれた。

第 1 書庫（集密書庫）は，2 万冊の 2 割，第 2 書庫（積層 3 階建て）の雑誌等は，半数が落下した。特に 3 階収蔵分は 9 割が落下した。

視聴覚資料は，落下防止バーを付けていたので被害はほとんどなかった。

■施設・設備

ネットワーク等に問題はなかった。

外壁に亀裂が入りタイルが落下した。また，内壁・天井にも亀裂が入り石膏ボードの一部が落下した。

木製書架は，上部転倒防止連結を施していたためボルトが緩んだ程度で転倒や横ずれは免れたが，スチール書架（壁面取り付け）が倒れ傾いた。

（第 2 書庫（積層 3 階建て）3 階の様子）

（スチール書架（壁面取り付け）傾倒）

４　再開までの道のり

震災により休館せざるを得ない状況になった。

落下した開架図書は，3 月末までに書架の周辺にまとめ排架しやすいように整えた。4 月初旬に教職員一同で書架整理等に取り掛かり，始業前の 4 月 19 日に開館することができた。

５　節電の状況

照明の部分点灯，必要のない電気をこまめに消した。さらに，冷暖房の使用を控えて設定温度を抑えた。

６　震災に関連した図書館活動

被災状況と開館に至るまでの記録を写真を中心に展示した。

７　所感

図書館は利用者の安全と資料を保全することが職員の責務だが，落下や転倒さらに割れたもの等危険が多い中で，全員がけがもなく無事であったことがなによりだった。

今後は日常的に職員および利用者の防災意識の啓蒙を図り，定期的に施設・設備の点検整備をしておく必要がある。被災したなかで特に水損は，想定外のことであった。今回の被災状況とその記録をもとに被災を最小限に止め，復旧を迅速に進められる体制にしなければならない。

茨城キリスト教大学図書館

１　施設の概要

○所在市町村：日立市
○延床面積：3,278 ㎡
○建築年月：1991 年 4 月
○建築構造：鉄筋コンクリート地上 2 階地下 1 階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：378
○蔵書冊（点）数　2011 年 3 月末）：259,104
○平成 22 年度開館日数：249
○平成 22 年度入館者数：102 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：2,807 人
※他に別棟になる旧大学図書館（10 号館）の 4 階を閉架書庫としている。

２　地震発生時の様子

茨城キリスト教大学図書館では地震発生時には館内におよそ 10 人の利用者と 8 人の職員がいた。発生後は附属高校のグラウンドに他部署の職員共々避難をした。

３　被害状況

図書，AV 資料が 4 万点程度落下した。中でも別棟の閉架書庫が，建築が古いこともあり被害が大きかった。また，雑誌製本書架が転倒した。

（落下した別棟閉架書庫の図書の様子）

（転倒した雑誌製本書架）

（散乱した製本雑誌）

４　再開までの道のり

3 月 14 日～3 月 19 日までは職員は自宅待機。
3 月 22 日から出勤できるスタッフで 1 階参考図書，

文庫，新書の落下図書整理。および事務室内落下図書整理。学内立ち入り解除を待って，4月21日より開館。ただし，閉架書庫は別棟4階にあるため約4万冊が落下し補修工事も必要なため，工事完了後図書館サポーターズの支援を受けて7月6日に整理完了。

５　節電の状況

書架蛍光灯の間引き消灯。

空調の温度調整。

20時30分から19時45分へ閉館時間を変更。

６　震災に関連した図書館活動

「震災・原発事故を乗り越え前向きに歩く」の特設コーナー企画

７　他からの支援

図書館サポーターズの支援を受け，落下図書の約　4万冊を整理

８　所感

本館は，他館より被害が少なかったが，今後また起こるかもしれない大地震に備え，学内も含め地震に関するマニュアルの作成，転倒書架の補修をした。

常磐大学情報メディアセンター

１　施設の概要

〇所在市町村：水戸市
〇延床面積：4344.76 ㎡
〇建築年月：1995 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造地上５階地下１階
〇併設施設名：大学院生研究室，国際交流語学学習センター及び教育実践研究所
〇閲覧席数：458
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：317,204
〇平成 22 年度開館日数：258
〇平成 22 年度入館者数：257 千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：3,744 人

２　地震発生時の様子

地震発生時には学生 5～6 名，職員 11 名が館内にいた。職員が手分けして各階の状況を確認。

書架の転倒や，照明などの破損がなかったため，学生・職員は一旦館内に待機し，その後，大学本部の指示により屋外に避難した。

全員が避難した後，職員２名が再度館内に残っている利用者がいないかなどを確認した。

大学本部により，学内にいた学生・職員の安否確認がされた後，震災発生から１時間程度で，自力での帰宅が可能な者は帰宅し，当館職員２名を含む帰宅困難な学生・職員は，学内にある合宿所で一晩避難し，翌日，大学で用意したバスでの帰宅が可能な者は帰宅した。

３　被害状況

壁面や柱回りなど細かいひびの入ったところはあったが，窓・天井の破損などはなく，利用に差し支える程の被害はなかった。

エレベータ１機が故障のため，５月中旬まで停止した。

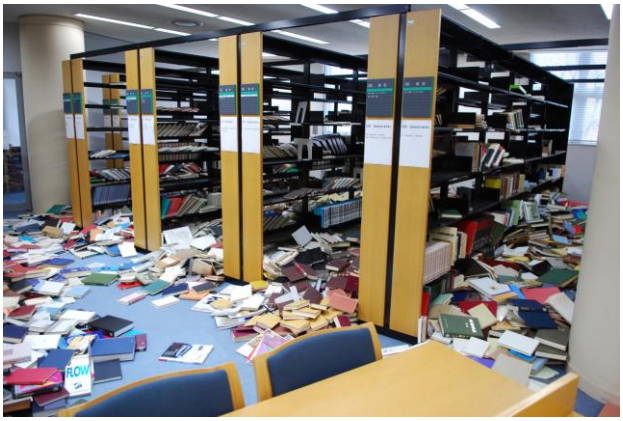
図書の落下により，床板の破損が１ヶ所あった。

（破損した床板の様子）

幸い，学生・職員を含め，人的な被害はなかった。

書架の転倒はなかったが，一部やや傾いたものや，設置位置がずれたもの，書架の天板・側板が破損したものなどがあったが，利用に問題のある程のものはなかった。

図書は，上層階ほど落下が多く，全体では約７割程度が落下した。また，落下の衝撃により破損した図書も多数あり，破損の程度により製本業者へ修理を依頼するものと，職員が補修するものとに分け，それぞれ修理を行った。



（震災後の書架の様子）

図書館システムには障害はなく，３月 14 日に一旦復旧し，動作を確認後，停電などによる障害発生防止のため，再度停止させ，３月 29 日より正式に稼働を再開した。

４　再開までの道のり

地震発生直後より休館。停電などのため，当日は作業を行えなかった。

3 月 14 日復電後，館内の被害状況の確認，図書館システムの状況確認，事務室内の片付けなどを実施した。

3 月 15 日より，書架への図書の復旧作業も開始した。途中，余震により，図書が落下することもあったが，学内の教職員の協力もあり，一日平均 23 名で作業を行い，約 2 週間でほぼ復旧作業が完了した。

（図書の復旧作業中の様子）

その後，当館職員で再度図書の配列の確認・並び替えなどの作業を数日間で実施した。

3 月 29 日には，安全のため停止していた図書館システムを再稼働し，OPAC による蔵書検索などを再開した。

開館に向けて，再度，館内の被災状況や安全の確認作業，フロアのクリーニングなどを行い，3 週間程遅れた大学の授業開始に合わせ，4 月 26 日より開館した。

例年は，学生の授業期間中，21 時までの開館延長をカウンターの業務委託により行っているが，2011 年度は学生の安全面を考慮し，19 時半まで職員のシフト勤務による開館とした。

また，土曜・日曜開館も業務委託により行っていたが，土曜は職員の休日勤務により実施し，日曜開館は見合わせた。

5　節電の状況

館内の照明は，利用に差し支えない程度に減らしている。

開館再開後，館内の利用者数を把握するため，定期的に館内の見回りと人数カウントを実施している。

さらに，7 月 4 日より 9 月 12 日まで，学内の節電対策の実施に従い，不必要な電気の消灯や，エアコンの温度管理のため 1 時間ごとに館内の見回りを実施した。

また，エアコンの温度を高めに設定したことに伴い，密閉できる容器に入った飲み物に限り，持ち込みおよび，館内での水分補給を許可することとした。

6　震災に関連した図書館活動

閉館中は，図書館ポータルサイトで，随時，閉館中の状況や，返却期限変更対応などの情報を掲載し，利用者への通知を行った。図書館システム再稼働後は，OPAC 画面からの通知も併せて行った。

また，開館以降，被災状況の写真や地震発生時の注意点などの掲示をし，学生への注意喚起を行っている。

各カウンターには，懐中電灯・ヘルメットなどを設置し，誘導時に備えている。

また 2011 年度中に，書架からの図書の落下防止対策を実施予定している。

7　所感

この度の震災は，学生の春休み中で，館内の利用者も少なく，また日中に地震が起こったということもあり，すぐに対応ができ，人的被害もなく済んだが，利用者の多い時期や，夜間・土曜日などで職員が少ない時などに発生した場合，素早く適切な対応ができるよう，充分に対策を検討するとともに，職員全員が災害時の行動を認識しておく必要があると痛感している。

また，館内の防災対策の検討，大学本部との連絡体制の整備なども充分に行う必要がある。

水戸短期大学図書館

１　施設の概要

〇所在市町村：水戸市
〇延床面積：112.00 ㎡
〇建築年月：1979 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート 3 階建の 1 教室
〇併設施設名：講義棟
〇閲覧席数：25
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：17,653
〇平成 22 年度開館日数：229
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：67 人

２　地震発生時の様子

震災当日，水戸短期大学では午前中に卒業式が行われていたが，式典の終了した午後（地震発生時）には閉館しており，図書館内には学生・教員等の利用者および図書館職員等の人員は誰も居なかった。

地震発生より約 30 分後，職員が駆け付けたところ，建物外観を目視する限りでの破損等は見受けられなかったが，依然として頻繁に余震が続いていたため，建物内に立ち入っての確認はできなかった。また電気や電話といったインフラも全く役に立たない状況であり，職員が携行していたラジオや車載のテレビにて状況の情報収集にあたった。しかし情報はあっても，そのほとんどが断続的に続いていた余震についての地震速報と，東北 3 県（岩手・宮城・福島）を中心とした被害状況の中継で，茨城県に焦点を合わせた地域情報についての報道はほぼ聞くことはなかった。

関係機関としても学園内の各校も状況は同じであり，連絡方法としては，道路の破損，崩壊した壁や瓦などの散乱，信号機の不良，避難車両の過多により大渋滞が発生していたため，自転車或いは徒歩で直接訪問し，最小限の確認をするのが唯一の手段であった。とは言え，そこで得られる情報も現状報告のみであり，改めて震災の規模が未曾有であることに気付かされただけであった。

結局，事態が落ち着かない状況であるうちは，安全に帰宅する事以外の方針は立てられなかったため，人的被害が無いことを再度確認し，翌日以降については無理のない範囲で出勤することを決め，日没前に解散。

３　被害状況

図書館内の施設としては，一部書架が倒れたのみで特筆すべき破損箇所は見受けられなかった。開架資料は約 3 千冊強が落下，全体の 2 割程度。書架の奥行きに余裕があったことで，落下を免れているものが多くみられた。

（倒れた書架の様子。将棋倒しにはならなかった）

その他，大学敷地内の建物の被害としては天井の換気口が抜けたものが数ヶ所，窓ガラスや壁面のクラックが随所に見られたが，建物として致命的なものは無かった。

ただ，事務室や教員研究室の状況は惨憺たるもので，被害としての詳細も列挙できぬほどの荒れ様であり，まさに足の踏み場もない様子であった。スチールラックの倒れていた近辺には，落ちた書類に混じってガラスや陶片もみられ，一緒くたに片づけることもままならなかった。

人的被害はなし。

４　再開までの道のり

11 日の罹災日より数日間は余震も多く，人員の安全性を考慮すると，館内に立ち入っての建築施設としての状態確認もできなかった。大学を含む周辺地域の電気の復旧は比較的早かったが，大きく揺れる度に状況により避難優先の行動をとっていたために，何かしらの継続的な業務を行うにはほど遠い態勢であった。
よって事務室出入口付近での待機しながらの足場の確保程度の軽作業のみに終始し，午前中で解散した。

地震翌週の 14 日に改めて施設の被害状況を確認した。当館の被害はさほど大きなものはなく，先述の一部書架が倒れたのみで，落下した資料も数千冊程度で済んだ。何より人的被害が皆無であったのは幸いであった。

利用に関しては，罹災日前より学期として春期休業期間に入っており，また罹災後の状況も含め，利用者が来学･来館することができる状態では無かったため，事実上の休館状態であったが，安全性を考慮し，次年度開始の 4 月まで，一応の立ち入り制限をしていた。なお,大学としては 3 月 22 日より概ね通常通りの勤務時間に近い状態で動いていた。

小規模図書館であるため，通常利用ができる程度までの復旧には時間はさほどかからなかったが，大学全体のとしての建物の補修工事・メンテナンスのため実際に利用ができるようになったのは 5 月のゴールデンウィーク明けであった。

５　所感

まずはこの度の災害により被災されました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

今回の震災については，常々我々が想定していた所謂「地震」とは，かけ離れた規模のものであった。

震災当日あの瞬間は，被災した方なら誰も忘れることの出来ない記憶になっていると思う。誰もが同じように「まさか」という状況の下，各自として出来る限りの行動をとっていたはずではあるが，電気は駄目，連絡も取れない,ましてや地震は断続的に続いている。待機以外に出来ることはほとんど無かったのではなかろうか。

まるでそれまでの避難訓練や防災学習をあざ笑うかのような状況は，多くの方々に困難を与えた。しかしながら「安全な場所」へ避難が，肝心の「安全な場所」など何処にも無いというような中で，少なくとも県内各関係機関において大きな人的被害が出たという話は聞こえてこなかったのは幸いなことであった。皆様の日常の心がけの賜であったと思います。

さて今回の出来事は「震災に強い図書館」を考える良い機会になった。古今，資料というものは弱いものであり，手をかけねば自然消滅的に失われるものである。そしてその失われる瞬間というものは，積極的廃棄の場合を除けば，得てして人災・天災等の災害時が多い。3 月 11 日がまさにその時であった。

役割は違うが「宮城県南三陸町の戸籍データ喪失」というニュースは「資料の保存」という点において，他人事とは思えなかった。分散バックアップの重要性をまざまざと見せつけられた。

現在のような高度に情報インフラの整備された状況下でそれらを大いに駆使する環境があれば，建築物などの物理的な復旧には時間がかかったとしても，図書館の役割としての復旧は短期間で済むことになる。単に仮想化,クラウド化することが最善とは思わないが,広域災害時には必要な仕組みであろう。「震災に強い図書館」を考える上での一つの方向性を示しているのではなかろうか。

今回の経験を無駄にすることなく，未来の図書館の役に立てねばならない。

筑波大学附属図書館

１　施設の概要

○所在市町村：つくば市
　※大塚図書館は東京都文京区にある。
○延床面積：29,585 ㎡（2011 年 3 月末）
○建築年月：
　中央図書館：1979 年
　医学図書館：1978 年
　体育・芸術図書館：1974 年
　図書館情報学図書館：1989 年
　大塚図書館：1995 年
○建築構造：
　中央図書館：鉄筋コンクリート造地上 5 階建
　医学図書館：鉄筋コンクリート造地上 3 階建の
　　1・2 階
　体育・芸術図書館：鉄筋コンクリート造地上 4 階
　図書館情報学図書館：鉄筋コンクリート造地上 2 階
　大塚図書館：鉄筋コンクリート造地上 3 階建の 1 階
○併設施設名：無し
○閲覧席数：1,712
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：2,548,405
○平成 22 年度開館日数：313
○平成 22 年度入館者数：998 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：29,621 千人

２　地震発生時の様子

（中央図書館）揺れ始めすぐに，館内の電源が停止し，照明・館内放送設備が使用不可となった。まず，館内の利用者の状況確認とともに館外への避難誘導を行った。（約 400 名の利用者）館内の利用者の退去確認後，職員約 60 名が退去した。

３　被害状況

幸い，利用者・職員ともに人的被害はなかったが，施設や図書の落下の被害は甚大であった。施設については，特に体育・芸術図書館の被害が大きく，内部ガラス壁や内壁ボードの破損・落下，天井の空調吹き出し口の落下，書架の転倒などの為，立ち入り制限が行われた。他の図書館でも，ガラスのたれ壁の破損，天井温水管の破損などあった。また，図書の落下被害が激しく，蔵書全体の 6 割，約 150 万冊が落下した。

※被害状況に関しては別掲「東日本大震災における筑波大学附属図書館の被害および復旧の状況について（平成 23 年 5 月 16 日現在）」にも詳細を記した。

（中央図書館本館 3 階）

（中央図書館新館 1 階貴重書庫）

（体育・芸術図書館　書架倒壊）

（体育・芸術図書館　吹き抜け側窓ガラス）

（体育・芸術図書館　奥に向かって転倒した書架）

（医学図書館　水漏れから資料を守るためにビニールシートを拡げた）

（体育・芸術図書館　完全損壊した閲覧机）

（医学図書館　水濡れした図書）

4　再開までの道のり

3月14日から出勤可能な職員により，被害状況の確認と復旧作業，Twitterによる情報発信を開始。

3月16日に附属図書館ホームページの臨時版を立ち上げ，利用者に被害状況や図書館利用に関する情報等を発信開始。

3月17日から電子ジャーナル，データベースの利用可能になり，他大学図書館（国立大学図書館協会）の被災地大学に対する利用支援状況も紹介した。

3 月29 日に各図書館（体育・芸術図書館を除く）の部分開館を開始。あわせて，附属図書館ホームページを通常に戻す。

5月16日にWebサービスを含む全てのサービスを再開（体育・芸術図書館を除く）。施設として被害が一番大きかった体育・芸術図書館は耐震改修工事が必要となった。サービス開始予定は平成24年5月の見通し。

※再開状況に関しては別掲「東日本大震災における筑波大学附属図書館の被害および復旧の状況について（平成23年5月16日現在）」にも詳細を記した。

5　節電の状況

夏季期間，大学全体で前年度比 25%削減を求められ，それに沿う形で照明等，節電対策を行った。

6　震災に関連した図書館活動

『図書館総合展 2011』のポスター・セッションに職員有志が震災の復旧をテーマのポスターを作製し参加した。今後も震災に関連した展示等を計画予定。

7　他からの支援

国立大学図書館協会会員館の協力により，早い段階での被災学生，教員への利用支援が行えた。また，図書館の復旧作業への学生参加も大きな力となった。

8　所感

地震対策として，避難時対応の検証を行い，それを基に避難マニュアルの作成を行った。大学全体としても毎年，避難訓練を行う事となった。今後はその度に反省点を反映して行くことが重要だと考える。

また震災は，二度と経験したくない出来事であったが，復旧作業における学生や教員の助力や職員同士の協力，学内外からの励ましのお言葉など，図書館は人によって支えられ，また人にサービスしている場であると再認識した。

（震災を機に twitter による情報発信を開始）

（『図書館総合展 2011』にポスター出展）

（学生ボランティアによる復旧作業）

＊詳しい状況については，筑波大学附属図書館 Web サイトも参照されたい。

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/shinsai/re-open.php

また，『大学図書館研究　94 号(2012 年)』に記事が掲載される予定であり，こちらも参照されたい。

平成23年5月16日現在

東日本大震災における筑波大学附属図書館の被害および復旧の状況について

【被害状況】

１．地震直後に、利用者、職員とも被害がないことを確認（人的被害なし）。

２．施設・設備の主な被害状況

中央図書館　：①ガラス製たれ壁の破損、破片の落下。
②電動集密書架の破損等。

体育・芸術図書館　：施設被害が甚大で、立ち入りが危険な状態。3 月 15 日に、災害対策本部により、応急危険度「要注意」の判定。主な被害は以下のとおり。
①内部ガラス壁や内壁ボードの破損と破片の落下、亀裂。
②天井からの空調噴出し口落下、吊下げ蛍光灯の落下、破損。
③書架の転倒、閲覧机の損傷。

医学図書館　：①天井部温水管の破損。
②一部天井の破損・落下等。

図書館情報学図書館と大塚図書館には大きな被害はなし。

３．図書館資料の主な被害状況

蔵書の 6 割、約 150 万冊が書架から落下。各図書館の状況は以下のとおり。

中央図書館　：約 110 万冊が書架から落下。
特に 3 階～5 階の資料は大部分が落下し、動線の確保も困難。

体育・芸術図書館　：約 19 万冊が書架から落下または転倒書架の下敷き。

医学図書館　：約 11 万冊が書架から落下。
天井部温水管の破損で医学基本図書(約 2 千冊)が水漏れ。

図書館情報学図書館　：約 9 万冊が書架から落下。

大塚図書館　：一部の図書が書架から落下。

【復旧までの経緯】

○3 月 14 日に Twitter(@tsukubauniv_lib)を立ち上げるとともに、3 月 16 日に附属図書館のホームページ(http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/)の臨時版を立ち上げ、利用者に被害状況や図書館利用に関する情報等を発信。

○3 月 17 日から電子ジャーナル、データベースの利用可能（一部は学外からのリモートアクセスも利用可能)。他大学図書館（国立大学図書館協会）の被災地大学に対する利用支援状況を紹介。

○3 月 29 日に各図書館（体育・芸術図書館を除く）の部分開館を開始。あわせて、附属図書館ホームページを通常に戻す。

○5 月 9 日に東京－筑波間の学内図書取り寄せサービスを再開。

○5 月 16 日に Web サービスを含む全てのサービスを再開（体育・芸術図書館を除く)。なお、破損等により利用できない資料は、修理または再購入により順次利用可能とする予定。

○各図書館の復旧経緯は以下のとおり。

中央図書館　：・3 月 29 日は 2 階と 1 階の一部スペースのみ開館。
・4 月 4 日（本館 3 階)、20 日（本館 4 階)、22 日（本館 5 階)、5 月 9 日（B 書庫を除く 1 階、中 2 階、新館 3～5 階）と順次開館エリアを拡大し、5 月 12 日に全面開館（本館 4 階ラウンジは天井設備破損のため利用不可)。
・4 月 11 日の余震による資料再落下のため 3 階の利用を一次中断したものの、4 月 13 日に利用再開。
・4 月 5 日から、被災により中断していた、耐震改修工事終了に伴う

本館5階、1階、中2階への資料の戻し作業を再開（28日完了）。

体育・芸術図書館　：・4月4日から危険な個所を避けて図書館資料復旧作業に着手。
・4月18日から、ガラス片の撤去完了を受け、本格的な資料復旧作業に着手（5月13日完了）。
・5月10日に全学計算機PCを学術情報メディアセンターに移設。
・5月16日に事務室内に臨時窓口を設け、平日の9時～17時のみ出納方式による図書貸出サービスを開始。
・比較的被害の少ない2階については、6月から部分開館予定（資料は職員による出納方式でのご利用のみ）。
・大規模な修復工事が必要となるため、施設の完全復旧（利用再開）には年度末までの期間を要する見込み。

医学図書館　：・3月29日から天井落下の一部危険箇所を立入禁止にして開館中。

図書館情報学図書館　：・3月29日は1階の一部部分のみ開館。
・順次開館エリアを拡大し、4月8日に全面開館。

大塚図書館　：・4月1日から通常開館。

【学生ボランティアの協力】

〇資料復旧作業は、学生のボランティア参加を得て、余震による再落下等の影響を受けつつ、予定より早期の復旧が実現できた。

中央図書館　：4月1日～4月21日（平日のみ15日間）。のべ475名。

図書館情報学図書館　：3月28日～4月8日（平日のみ10日間）。のべ64名

鯉淵学園農業栄養専門学校図書館

１　施設の概要

〇所在市町村：水戸市
〇延床面積：616 ㎡
〇建築年月：1995 年
〇建築構造：木造地上 2 階
〇併設施設名：情報処理教室
〇閲覧席数：52
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：43,545
〇平成 22 年度開館日数：265
〇平成 22 年度入館者数：約 5 千人
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：214 人

２　地震発生時の様子

鯉淵学園農業栄養専門学校図書館では地震発生時は春休み中で，利用者はなく職員 1 人だけであった。

建物の中がかなり揺れて，物が落ちて危険なため，外に避難した。

３　被害状況

施設面では，屋根瓦が落ち，外壁にひび割れが多数できた。天井のほとんどの蛍光灯の回りに亀裂が多数できた。壁にも大きな亀裂がいくつもできた。

春休み中であったため，利用者が少ない時期で人的被害はなかった。

ほとんどすべての資料が落下して床に散乱した。一部の本箱が倒れた。システムは 14 日に復旧し，障害はでなかった。

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態になった。14 日には，水道及び電気が使え，床に散乱した資料の整理を始めた。4 月 7 日の始業式から昼間のみ開館し，4 月 18 日から通常開館した。

５　節電の状況

館内の所々の蛍光灯を消して，節電をしている。また，冷暖房の設定温度も気をつけている。

６　所感

夏休みに入るぐらいまで，復旧作業に追われ大変であった。

現在は，建物の復旧工事も済み震災前のように開館できるようになった。

地震で落下して破損した資料の修理がまだ残っているので，少しずつ修復作業をしているところである。

茨城工業高等専門学校図書館

１　施設の概要

○所在市町村：ひたちなか市
○延床面積：668.00 ㎡
○建築年月：1973 年
○建築構造：鉄筋コンクリート 2 階建の 2 階
○併設施設名：スタディルーム
○閲覧席数：86
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：86,992
○平成 22 年度開館日数：267
○平成 22 年度入館者数：70 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：1,331 人

２　地震発生時の様子

地震発生時は職員 1 名と利用者(学生)数名がいた。幸い怪我人はいなかったので揺れがおさまった後，学生を建物の外に避難させた。図書館は停電し，窓ガラスが割れ，天井も落下している状態となったので，立入禁止にした。

３　被害状況

閲覧室の窓ガラスが割れ，2 階から落下した。閲覧室の天井が数か所で剥離・落下した。閲覧室の照明が落下した。閲覧室の空調のダクトが剥落した。閲覧室及び書庫の資料が落下，散乱した。事務室内にひび割れが何か所か出来た。

（閲覧室の様子）

４　再開までの道のり

電気が使えるようになるまで 5 日，水道が使えるようになるまで二週間ほどかかった。復旧工事が必要なため，散乱した資料を段ボール箱に詰め，書架は空にした。図書館の隣のスタディルーム（教室）に書架を配置して学生が授業等で使う参考図書等を配架し，5 月 9 日から仮開館を開始した。

仮開館では夜間の開館時間を1時間短縮して19時閉館とし，試験期間前・試験期間中の日曜開館も中止した。

2012 年 1 月から復旧工事が始まり，4 月再開に向けて準備中である。

５　節電の状況

夜間の開館時間を 1 時間短縮して 19 時閉館とした。試験期間前・試験期間中の日曜開館を中止した。空調が使えないため，夏は扇風機，冬は灯油ストーブで対応した。

６　所感

茨城高専図書館は原稿執筆時点（2012 年 1 月）では復旧工事中である。4 月の新学期には再開し，学生の学習環境を整えたいと考えている。

筑波学院大学附属図書館

１　施設の概要

○所在市町村：つくば市
○延床面積：1,396 ㎡
○建築年月：1997 年
○建築構造：鉄骨鉄筋コンクリート地上２階
○併設施設名：無
○閲覧席数：238
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：73.291
○平成 22 年度開館日数：261
○平成 22 年度入館者数：18 千人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：658 人

２　地震発生時の様子

地震発生時は休業中のため，3 人の職員が勤務し 2 階閲覧室には 2 人の利用者がいた。地震発生とともに職員が利用者を書架近辺から閲覧机の下への移動，揺れが小康状態になってからは非常口外階段から館外へと誘導した。本学校地中庭で校舎内からの避難者と合流し，その後は本学総務課の指示の下，行動をともにした。関係各所への連絡等も総務課で行った。

避難者の安全確保，人数確認，ラジオによる情報収集をしながら，同地にて 17 時ごろまで留まった。地震発生後 1 時間ほどで停電は解消されていた。水道及び近辺の道路状況等にも混乱はなかったため，帰宅の安全が確保された学生から，氏名等を申告して帰宅させた。

職員が図書館に 17 時ごろ戻った際には，落下した図書に 2 階天井から水が落下していた。拾い上げ作業を他課職員とともに試みたが，余震が続いたため全員帰宅の方向で事務室待機の後，帰宅した。

３　被害状況

人的被害はまったくなかった。地震のため配架図書資料のうち約 4 割(推定 35,000 冊)が落下し，また 2 階天井の空調配管より水が漏れ，同日夜には再び水漏れが生じ，2 階の書架部分と，1 階参考図書低書架部分が浸水した。2 階の書架部分のほぼ全面と，1 階参考図書の低書架の一部及び事務室内の床に水があふれ，天井からの漏水で濡れたり，カーペットの水分で図書資料は水を含んだりして，黴が発生した。

（水を含み膨張して解体した図書）

（黴が発生した図書）

さらに，漏水した天井近辺の書架に配架されていた図書資料は，落下せずとも濡れてしまった。その他設備に不具合が生じ，空調設備には補修工事が必要となったが，図書館システム・LAN は直後より正常に稼動した。

書架の棚板数枚と，落下防止機（ブックキーパー）数台，天井吊り下げスピーカー1 台が落下により破損したほかは，図書館資料以外の備品等への被害はなかった。落下資料約 35,000 冊のうち，約 5,000 冊は水損の被害はあったものの，再配架して利用に供しているが，約 8,000 冊は黴発生等により廃棄せざるを得なかった。

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館し，翌日からは他課職員と図書館正職員で露出部分カーペットの吸水，落下資料の拾い上げ等の作業に入った。

3 月下旬からは本学学生･教職員がボランティアとして作業に加わった。4 月上旬には，資料の広上げ作業が終了し，全教員による書架清掃と資料の配架を実施した。同時に図書館職員による廃棄資料と復旧資料の仕分けや水損資料の乾燥作業をし，4 月末には館外へ運び出した廃棄資料（約 8,000 冊）を，古紙回収業者へ引渡した。

4 月 11 日の余震では，再度 1,000 冊前後の図書が落下したが，大過なく復旧できた。

上記作業を進めた結果，6 月 1～26 日には平日 9 時～17 時と開館時間の短縮と，土日は閉館など一部サービスの制限はしたが，学内向けに部分開館を実施した。6 月 27 日～7 月 10 日は臨時閉館をして，天井配管･天井･床･壁等の補修工事を行った。7 月 11～24 日の上記同様の学内向け部分開館を経て，7 月 25 日以降は平常開館とし，学外者への一般開放も再開した。7 月 25 日～8 月 6 日は，定期試験期間の延長開館を実施するなど，完全復旧を果した。

５　節電の状況

学内総務課の指示の下，館内の電灯本数・点灯部分の削減，冷暖房の 2℃の高下，利用者用 PC は利用時に通電させるなどの方策を継続している。

６　震災に関連した図書館活動

図書館閉館中は，新聞を学生ラウンジに配架して利用に供した。

７　他からの支援

資料に関する復旧作業には，学内から教員･学生がボランティアとして 900 時間以上参加し，他課職員も作業に参加した。

国立国会図書館の HP などのほか，東京文化財研究所保存修復科学センター保存部門への電話による相談などで資料の処置に関して専門的アドバイスを得た。また茨城県図書館協会の図書修理研修会開催時期の早期化が，水損資料修理への効果的援助となった。

市内の筑波大学附属図書館が本学学生･教職員に対して被災地大学へのサービスを適用し，図書館の利用（閲覧及び資料の貸出）を提供してくれた。

学内教職員及び関係団体からは，200 冊超の資料が寄贈されている。また，文部科学省からの補助金により，水損による廃棄資料の一部約 1,700 冊を補充している。

８　所感

火災を想定して作成してあった図書館職員の対応マニュアル（仮）を震災後に見直したが，学内の他部署との連携をさらに充実させる必要がある。

従前より地震の際には，図書館職員が閲覧室内の書架周辺にいる利用者に書架から離れるよう指導している。今回の震災時も揺れが本格的になる前に利用者を誘導できたが，利用者は一般的に書架上の図書が地震の際には危険であるという認識がないということをさらに痛感した。

茨城県立医療大学附属図書館

１　施設の概要

○所在市町村：阿見町
○延床面積：2,117.07 ㎡
○建築年月：1995 年 4 月（大学開学に併せ開館）
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上 2 階
○併設施設名：無
○閲覧席数：206
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：120,837
○平成 22 年度開館日数：326
○平成 22 年度入館者数：130 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：1,206 人

２　震災発生時の様子

附属図書館には震災発生時には館内にはおよそ 50 人の利用者と 10 人の職員がいた。

発生時，1 階にいた利用者には大声で，1 階出入り口から外への避難指示を出し，2 階の利用者には机の下にもぐるように指示し，揺れが収まった時を見計らい外に避難させた。

地震発生と同時に 2 階天井から大量の水が噴き出してきた。(エアコン用配管が損傷を受けたのが原因)

職員は一旦外に避難をしたが，余震の合間を見て館内に戻り，水がかかっている書架にビーニールシートやゴミ袋をかける，書架から本を移動させるなどの対応をした。その内，配管の元栓が締まり水漏れは収まった。

３　被害の状況

館内には 50 名前後の学生がいたが，書架が倒れることもなく，幸いにも人的被害はなかった。

しかしながら，2 階のエアコン用配管が損傷を受け大量の水が天井から溢れ出し，配管の元栓を閉めるまでの間，落下した図書にかかってしまい，約 1 千冊が濡れてしまった。

この他，配架してあった図書のほとんどが落下したことにより一部の図書は損傷を受けた。

図書検索コーナーや AV コーナー等に設置してあったパソコン類も大きな損傷もなく，1 週間後の開館時には復旧した。

(2 階の様子)

（1 階書架の様子）

（1 階辞書コーナーの様子）

（1階電動書架の様子）

（2階書架の様子）

（2階エアコン用配管からの水漏跡の様子）

4　再開までの道のり

3月11日の地震発生直後から休館状態に入った。

地震直後からの余震とライフラインが止まってしまったことなどから，安全性の確保を最優先にとりあえず水漏れの原因となったエアコンの配管の元栓を閉めることに全力を注いだ。

翌日以降，職員のほか教員や学生によるボランティア（毎日約40名）を動員し，散乱した図書の片づけや整理・配架を行うとともに，濡れてしまった図書を閲覧席に並べて自然乾燥を行った。特に損傷のひどいものは修理を行うとともに，水濡れの激しい図書についてはプレス機による製本を行い，ほぼすべての図書を元通りにすることができた。

以上の作業をするために1週間の閉館をすることになってしまったが，比較的早期に復旧することができた。

5　節電の状況

夏の電力不足に対応するため大学と一体となった節電対策のため学習に支障のない範囲での照明器具の取外しを行った。また，学生の学習環境の確保を優先して修理を遅らせたエアコンの修理については，図書館の閉館日である7月中旬にまでずれ込んでしまった。

結果として電力不足による節電対策に一役買うことになり，学生には団扇を配ったり窓を開放したりして協力を呼びかけた。

6　所感

今回の震災に関し，図書類の被害はあったが人的被害は無かったことは幸いであった。また，教育機関ということもあり学生ボランティア等の方々がすぐに対応していただいたことにより早期に開館することができたことは非常に喜ばしいことである。

今後，いつ大規模な地震などの災害が発生するか分からないが，発生時の対応や避難誘導など，普段から訓練を行うことにより被害者を出さないようにして，より良い学習環境の確保に努めていきたい。

つくば国際大学図書館

１　施設の概要

○所在市町村：土浦市
○延床面積：737 ㎡
○建築年月：1994 年
○建築構造：鉄筋・鉄骨コンクリート
○併設施設名：講義・図書館棟
○閲覧席数：104
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：65,917
○平成 22 年度開館日数：223
○平成 22 年度入館者数：28 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：1,282 人

２　地震発生時の様子

休業期間中のため，来館者の少ない時期であった。地震発生時は職員 2 名を除いて利用者はいなかった。

揺れの始めの頃は事務室内に留まっていたが，尋常でないものを感じ，そのまま館外へ逃れた。中庭で揺れの弱まるまで待ち，隙を見て一旦戻り，閉館した。

その後，さらに安全な場所へ避難し指示を待った。1 時間半後，解散となった。

３　被害状況

図書等の落下が全体の 30%程度みられた。書架設置の向きにもよるが，閲覧室中央付近の書架からの落下が目立った。それ以外の設備の被害やシステムの障害はなかった。また，閉館中に業者の建物被害調査を受けたが，館内は特に該当がなかった。

地震直後の写真（教員撮影）。

書架設置の向きにもよるが，閲覧室中央付近の書架からの落下が目立った。

４　再開までの道のり

翌週月曜日から出勤可能な職員で作業に取りかかった。図書館職員 2 名は翌火曜日から作業に加わった。

作業にあたっては，乱雑に散らかった図書を NDC 順に排列することに時間を要した。週末までの 5 日間で落下した資料を書架に戻し，3 月 22 日から通常開館した。

５　節電の状況

学内全体の取り組みの一環として，閲覧室の照明灯を 25%削減した。視聴覚資料室や自習室は，使用時以外を消灯とした。また，冷房の設定温度は 28 度とした。当初，実施期間を昨年 9 月 30 日までとしたが，照明の節電は現在も継続している。節電のための協力依頼は館内各所へ掲示による案内をした。

６　震災に関連した図書館活動

図書の選定にあたって，震災関連の書籍を購入した。特に，福島第一原発事故を受けて，多角的な見解をもつ書籍の選定をおこなった。また，全学的な活動として，緊急地震速報訓練を実施した。加えて，館内書庫に食糧（乾パン，水）を備蓄した。

７　所感

当館は小規模館であることから，地震発生時の利用者在館状況を直ちに把握し，早い段階で避難行動を開始することができた。また，図書の落下以外に設備の損壊やシステムの障害もなかった。復旧にあたっては，人的な支援が有要であった。

未曾有の揺れのなかでは，冷静を保つ根拠となる経験や知識が切要だと感じた。今後の定期的な訓練において，利用者の誘導，避難経路の確保，長時間にわたる停電時の対応等，起こりうる想定をもとに知識を習得し，緊急時に備えたい。

筑波技術大学附属図書館

１　施設の概要

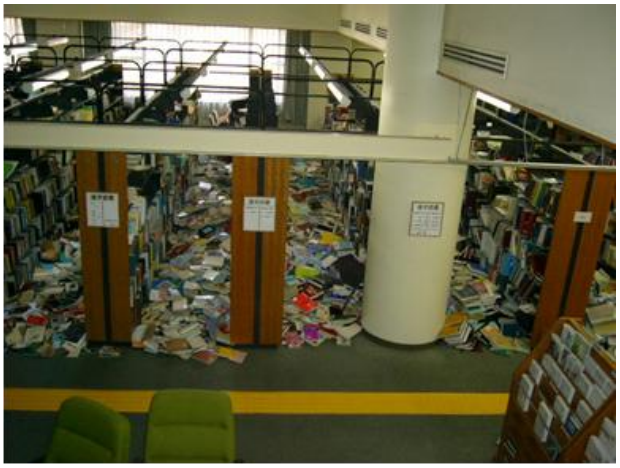
○所在市町村：つくば市
○延床面積：537 ㎡（聴覚），833 ㎡（視覚）
○建築年月：1990 年（聴覚），1991 年（視覚）
○建築構造：鉄筋コンクリート造
　　地上５階の 1～2 階部分（聴覚）
　　地上２階の１階部分（視覚）
○併設施設名：障害者高等教育研究支援センター
○閲覧席数：35（聴覚），49（視覚）
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：88,530
○平成 22 年度開館日数：261（聴覚），264（視覚）
○平成 22 年度入館者数
　：26 千人（聴覚）,45 千人（視覚）
○奉仕人口（2011 年４月１日）：656 人

２　地震発生時の様子

春季休業中のため，館内の利用者は少なかった。とくに混乱もなく，職員とともに避難した。

３　被害状況

資料が落下（聴覚障害系図書館約 3,000 冊，視覚障害系図書館約 10,000 冊）したが，建物に大きな被害はなかった。聴覚障害系図書館においては，書架更新作業に伴い，約 5,000 冊の図書が箱詰めにされていたため落下を免れた。



（視覚障害系図書館閲覧室の様子）

４　再開までの道のり

3 月 14 日（月）～18 日（金）の１週間臨時休館し，復旧作業を行った。

3 月 22 日（火）から平常どおり開館した。

５　節電の状況

大学全体でデマンド監視装置を稼働し，節電に努めている。聴覚障害系図書館においては，照明の間引きを行うとともに書架のセンサーライト化を行っている。

視覚障害系図書館では，天井に 20 個設置されたメタルハライドランプ(1 個 250W)を 8 個減灯，書架のセンサーライト化，個別空調の温度調節盤を塞いで利用者が設定を変えられないようにした。

６　他からの支援

学内関係者数名が，ボランティアとして落下した図書の配架作業に参加した。

流通経済大学図書館

１　施設の概要

○所在市町村：龍ヶ崎市
○延床面積：4,333.00 ㎡
○建築年月：1990 年
○建築構造：鉄筋・鉄骨コンクリート造　地上 6 階
○併設施設名：
○閲覧席数：600
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：313,098
○平成 22 年度開館日数：261
○平成 22 年度入館者数：61 千人
○奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：6,278 人

２　地震発生時の様子

地震発生時は春季休業期間中であり，利用者 4 人，職員 7 人がいた。地震発生直後各階の利用者の安全確保・確認を行ない学内放送による避難指示により，避難場所へ誘導・退避した。

３　被害状況

施設面では壁の一部に剥離・破損があったが図書館システム等中枢機能には問題なかった。ただし，6 階建ての各階の書架から資料が落下し，上階ほど落下が激しく，耐震補強はしていたものの，10 万冊を超える資料が落下した。また，500 冊以上の破損修理を要した。

（5 階書架の様子）

４　再開までの道のり

3 月 11 日の地震発生直後から休館状態に入った。3 月 14 日に建物の安全検査確認を行ない落下した資料の整理に入り，2011 年度の授業開始が 4 月 25 日に決定したので，それにあわせて 4 階（6 階建ての内）までの一部開館とした。全館開館は，2012 年 1 月 18 日であったが，別棟の集密書庫の資料は未整理の状態である。

５　節電の状況

各フロアは通路以外は消灯し書架，閲覧席は利用者がいる場合のみ点灯（利用者点灯）し，エレベーターは安全面を考慮し全館開館までは使用禁止とした。

６　震災に関連した図書館活動

館内に地震時の避難誘導に関する張り紙をして注意喚起をおこなった。

７　他からの支援

教授・学生をはじめ他部門の職員からの応援を頂き図書館の早期開館にこぎつけた。

８　所感

今回の地震の大きさ，所蔵資料の多さに改めて驚きを感じ，復旧への膨大な時間と労力を費やした。図書館として貴重な資料の落下防止等被害を最小限に食い止める方法等の課題を与えられた。

笠間稲荷図書館

１　施設の概要

○所在市町村：笠間市
○延床面積：67.80 ㎡
○建築年月：鉄筋造棟　1979 年
　　木造造棟　1915 年
○建築構造：鉄筋造 3 階建の 2 階
　　木造造 2 階建の 2 階
○併設施設名：笠間稲荷神社
○閲覧席数：20
○蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：16,351
○平成 22 年度開館日数：365
○平成 22 年度入館者数：－
○奉仕人口（2011 年 3 月末）：－
※他に社務所内に資料保管室がある。

２　地震発生時の様子

地震発生時には図書室・資料室等には利用者がいなかったため，物損のみにとどまった。

３　被害状況

鉄筋造棟では，側壁の亀裂が大きかった。移動書架から蔵書が落下した。

木造造棟では，屋根瓦が落下破損。木製書架の転倒により蔵書が落下散乱した。

資料保管室（牧野家資料・和本等保管）では，天井・側壁・棚・建具等が損壊した。資料については被害は無かった。

４　再開までの道のり

鉄筋造棟では，落下した資料は 4 月中には棚に戻した。，また，側壁の修復は 2012 年に社務所内部修復工事と平行して行う予定である。

木造造棟では8月20日より修復工事を開始し，　9 月 5 日に完了した。倒れた書架も復旧完了し，現在は蔵書（図録・雑誌等）の整理中。

資料保管室は，天井・側壁・棚・建具等修復工事のため 8 月 12 日に室内資料を移動して，8 月 20 日より工事を行い，9 月 12 日に完了した。10 月末に移動した資料を室内に戻した。

５　節電の状況

震災以降，11 月まで 30%の節電をした。

常陽史料館史料ライブラリー

１　施設の概要

〇所在市町村：水戸市
〇延床面積：2,017.392 ㎡
〇建築年月：1995 年
〇建築構造：鉄筋コンクリート造
　　地上２階　地下２階
〇併設施設名：貨幣ギャラリー
　　アートスポット(企画展示室)
〇閲覧席数：14
〇蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：30,314
〇平成 22 年度開館日数：286
〇平成 22 年度入館者数：21 千人
〇奉仕人口（2011 年４月１日）：－

２　地震発生時の様子

館内には職員のほか警備員，清掃員が勤務していたが，来館者数名を誘導して全員が館外に避難した。人的被害はなかった。

地震発生後の停電のため，電話，メールによる連絡や，テレビ，ラジオからの情報収集は不可能だった。

３　被害状況

「史料ライブラリー」では，自動ドアが破損，木製書架が転倒した。閉架書架の破損はなかったが，揺れにより一部の書籍が移動，落下した。システムについては，電気復旧後に問題がないことを確認できた。

「貨幣ギャラリー」では，展示ケース上部のガラスが落下損傷。展示装置も故障した。

また，水道管亀裂による館長室天井からの水漏れが発生したほか，館内外の壁に亀裂，剥落がみられた。

４　再開までの道のり

地震発生直後から休館し，館内外の点検・復旧を行った。「史料ライブラリー」では，書籍の破損状況の確認と書架への現状復帰を速やかに終了させた。

安全を確認した上,5 月 10 日から「貨幣ギャラリー」,「史料ライブラリー」を再開。5 月 31 日からは「アートスポット」も再開した。

５　節電の状況

・クールビズの実施。
・冷房温度を 28 度に設定。
・照明点灯数の削減，消灯。

６　所感

震災の被害と復旧の記録をまとめ，問題点や反省点を洗い出しておくことは，今後の危機管理に大きく役立つと思われる。

また，定期的な館内点検，防災訓練により，常時から職員の防災意識を高めておくことも必要である。

茨城県教育図書館・情報センター

１　施設の概要

〇所在市町村：水戸市
〇延床面積：69.32 ㎡
〇建築年月：1995 年
〇建築構造：鉄筋
〇併設施設名：茨城教育会館
〇閲覧席数：4
〇蔵書冊（点）数（2011 年 3 月末）：6,329
〇平成 22 年度開館日数：202
〇平成 22 年度入館者数：－
〇奉仕人口（2011 年 4 月 1 日）：－

２　地震発生時の様子

職員がデーター入力等の作業中であったが，屋外に避難した。

３　被害状況

4 割の本が書架から落ちた。図書館内の設備に被害はなかった。

４　再開までの道のり

3 月 15 日（火）から通常通り開館した。

５　節電の状況

利用者不在時の書架スペースは，その都度電灯を消灯した。

６　所感

当館は小・中学校の教職員向けの教育実践資料を収集している専門図書館のため，資料の検索依頼や送付依頼は電話・メールが主であり地震発生時来館者がなかったことが幸いした。

茨城県立点字図書館

１　施設の概要

○所在市町村：水戸市
○延床面積：501.70 ㎡
○建築年月：1973 年
○建築構造：鉄筋コンクリート造　地上２階
○併設施設名：茨城県立視覚障害者福祉センター
○閲覧席数：40
○蔵書冊（点）数（2011 年３月末）：60,621
○平成 22 年度開館日数：241
○平成 22 年度入館者数（千人）：700 人
○奉仕人口（2011 年４月１日）：1,465 人

２　地震発生時の様子

茨城県立点字図書館では地震発生時には館内に８名の職員がいた。幸い利用者やボランティアなど外部の人間はいなかった。

３　被害状況

施設面では，天井板の崩落や蛍光灯の落下はあったが躯体そのものへの影響はほとんどなく，窓ガラスの破損もなかった。

（天井板の崩落）

設備については，点字図書を収めた手動式書架は転倒することもなく，図書の落下もそれほど多くはなかった。

（点字図書書庫の様子）

カセットテープを収めた引き出し式のキャビネットは床等への固定をしていなかったことから転倒し，中のカセットテープが床面に散乱した。一部のカセットテープは落下したキャビネットやその引き出しの下敷きになって破損しており，これらは除籍処分とせざるをえなかった。

（テープ収蔵キャビネット転倒の様子）

CD も保存棚ごと落下したが，郵送用のケースに収めていたためディスクそのものに破損はなく，除籍等の必要はなかった。

(CD 落下の様子)

機器類については，パソコン等の落下はあったもののデータに障害はなく，電源復帰後はネットワークも回復したため実務にはほとんど被害がなかった。

(事務スペースの被害状況)

人的被害はなかったが，交通網の途絶やガソリンの入手困難から通勤が困難となった職員が発生した。

４　再開までの道のり

地震当日の 3 月 11 日は,余震等に備えて保護すべきデータの記録装置等を搬出した上で閉館した。12 日と 13 日はもともと定期休館日であり,14 日には電源が復旧したことから通常業務を再開できたため，開館日数への影響はなかった。

当館は資料貸出のほとんどを郵便により行っている都合上，郵便事情の混乱による資料提供の混乱はあったが，それ以外の面については資料の片付けを並行しながらできる限り提供を続けた。

５　節電の状況

設置主体かつ指定管理委託元である茨城県からの節電要請に従う形で実施した。具体的には照明の間引きや空調の停止，不使用機器の電源断等である。

幸い，当館は閲覧者が恒常的に来館する施設ではないため，照明や空調の制限による利用者への影響はそれほどなかった。

６　所感

今回の震災の教訓を踏まえ，防災マニュアルの作成や什器，備品の耐震対策について早急に検討していきたい。

Ⅳ　記録掲載館一覧

（2012.3　現在）

No.	館　　名	所　　在　　地	電　　話
公共図書館　（行政順）			
1	茨城県立図書館	水戸市三の丸1-5-38	029-221-5569
2	水戸市立中央図書館	水戸市大町3-3-20	029-226-3951
3	水戸市立東部図書館	水戸市元吉田町1973-27	029-248-4051
4	水戸市立西部図書館	水戸市堀町2311-1	029-255-5651
5	水戸市立見和図書館	水戸市見和2-500-2	029-350-2051
6	水戸市立常澄図書館	水戸市大串町2134	029-269-1751
7	水戸市立内原図書館	水戸市内原町1497-16	029-291-6451
8	日立市立記念図書館	日立市幸町1-21-1	0294-24-7714
9	日立市立多賀図書館	日立市末広町1-1-4	0294-33-2655
10	日立市立十王図書館	日立市十王町友部202-1	0294-20-2345
11	土浦市立図書館	土浦市文京町9-2	029-823-4646
12	古河市古河図書館	古河市東3-7-19	0280-32-5299
13	古河市三和図書館	古河市仁連2042-1	0280-75-1511
14	石岡市立中央図書館	石岡市若宮1-6-31	0299-24-1507
15	ゆうき図書館	結城市国府町1-1-1	0296-34-0150
16	龍ケ崎市立中央図書館	龍ケ崎市馴馬町2630	0297-64-2202
17	下妻市立図書館	下妻市砂沼新田35-1	0296-43-8811
18	常総市立図書館	常総市水海道天満町1606	0297-23-5556
19	常陸太田市立図書館	常陸太田市中城町3282	0294-72-5555
20	高萩市立図書館	高萩市高萩8-1	0293-23-7174
21	北茨城市立図書館	北茨城市磯原町本町1-4-2	0293-42-1451
22	笠間市立笠間図書館	笠間市石井2023-1	0296-72-5046
23	笠間市立友部図書館	笠間市平町2084	0296-78-1200
24	笠間市立岩間図書館	笠間市下郷5140	0299-45-2082
25	取手市立取手図書館	取手市取手1-12-16	0297-74-8361
26	取手市立ふじしろ図書館	取手市藤代415	0297-70-8181
27	牛久市立中央図書館	牛久市柏田町3304-1	029-871-1400
28	つくば市立中央図書館	つくば市吾妻2-8	029-856-4311
29	ひたちなか市立中央図書館	ひたちなか市元町5-3	029-273-2247
30	ひたちなか市立那珂湊図書館	ひたちなか市鍛冶屋窪3566	029-263-5499
31	ひたちなか市立佐野図書館	ひたちなか市高場1362-1	029-270-3811
32	鹿嶋市立中央図書館	鹿嶋市宮中2398-1	0299-83-2510
33	潮来市立図書館	潮来市牛堀289	0299-80-3311
34	守谷中央図書館	守谷市大柏937-2	0297-45-1000
35	常陸大宮市立図書情報館	常陸大宮市中富町3135-6	0295-53-7300
36	那珂市立図書館	那珂市菅谷2995-1	029-352-1177
37	筑西市立中央図書館	筑西市下岡崎1-11-1	0296-24-3530
38	筑西市立明野図書館	筑西市海老ケ島2120-7	0296-52-2466
39	坂東市立岩井図書館	坂東市岩井5082	0297-36-1300
40	坂東市立猿島図書館	坂東市山2726	0280-88-8700 0297-44-0055
41	稲敷市立図書館	稲敷市八千石18-1	0299-79-3111
42	かすみがうら市立図書館	かすみがうら市深谷3719-1	029-897-0647
43	神栖市立中央図書館	神栖市大野原4-8-1	0299-92-3746
44	神栖市立うずも図書館	神栖市知手中央7-1-6	0299-90-5302
45	行方市立図書館	行方市玉造乙1175	0299-55-1495
46	鉾田市立図書館	鉾田市鉾田1444-1	0291-33-2020
47	つくばみらい市立図書館	つくばみらい市福田623	0297-58-3710
48	小美玉市小川図書館	小美玉市小川1664-2	0299-58-5828
49	小美玉市玉里図書館	小美玉市高崎291-3	0299-26-9111
50	茨城町立図書館	東茨城郡茨城町小堤1037-1	029-240-7131
51	城里町立桂図書館	東茨城郡城里町阿波山173-2	029-289-4946
52	東海村立図書館	那珂郡東海村船場768	029-282-3435
53	阿見町立図書館	稲敷郡阿見町若栗1838-24	029-887-6331
54	八千代町立図書館	結城郡八千代町菅谷561-1	0296-48-4646
55	利根町図書館	北相馬郡利根町下曽根278-1	0297-68-8868

No.	館　　名	所　　在　　地	電　　話
公民館			
1	大洗町中央公民館	東茨城郡大洗町磯浜町6881-88	029-267-0230
2	大子町立中央公民館 別館図書館プチソフィア	久慈郡大子町池田2716-2	0295-72-6123
3	美浦村中央公民館	稲敷郡美浦村受領1460-1	029-885-8442
4	河内町中央公民館	稲敷郡河内町長竿3689-1	0297-84-2843
5	常総市地域交流センター	常総市新石下2010	0297-42-0169
6	桜川市岩瀬中央公民館	桜川市東桜川1-21-1	0296-75-0344
7	真壁伝承館	桜川市真壁町真壁198	0296-23-8521
8	桜川市大和中央公民館	桜川市羽田1028-1	0296-58-7117
9	五霞町中央公民館	猿島郡五霞町小福田148-1	0280-84-1460
10	境町中央公民館	猿島郡境町395-1	0280-81-1340
大学図書館			
1	茨城大学図書館本館		029-228-8073
2	茨城大学図書館工学部分館	日立市中成沢４－１２－１	0294-38-5012
3	茨城大学図書館農学部分館	稲敷郡阿見町中央３－２１－１	029-888-8531
4	茨城女子短期大学図書館	那珂市東木倉960-2	029-298-0596
5	茨城キリスト教大学図書館	日立市大みか町6-11-1	0294-52-3215
6	常磐大学情報メディアセンター	水戸市見和1-430-1	029-232-2571
7	水戸短期大学図書館※2012年3月閉校	水戸市見川町2582	―
8	筑波大学附属図書館	つくば市天王台1-1-1	029-853-2347
9	鯉淵学園農業栄養専門学校図書館	水戸市鯉淵町5965	029-259-2811
10	茨城工業高等専門学校図書館	ひたちなか市中根866	029-271-2832
11	筑波学院大学附属図書館	つくば市吾妻3-1	029-858-4820
12	茨城県立医療大学附属図書館	稲敷郡阿見町阿見4669-2	029-840-2105
13	つくば国際大学図書館	土浦市真鍋6-20-1	029-826-6000
14	筑波技術大学附属図書館	（聴覚）つくば市天久保4-3-15 （視覚）つくば市春日4-12-7	029-858-9330 029-858-9510
15	流通経済大学図書館	龍ヶ崎市120	0297-60-1160
私立図書館			
1	笠間稲荷図書館	笠間市笠間39	0296-73-0001
その他の機関・施設			
1	常陽史料館史料ライブラリー	水戸市備前町6-71	029-228-1781
2	茨城県教育図書館・情報センター	水戸市笠原町978-46 茨城教育会館1階	029-301-9165
3	茨城県立点字図書館	水戸市袴塚1-4-64	029-221-0098

あとがき～刊行にあたって～

平成２３年３月１１日（金）１４時４６分１８秒，宮城県牡鹿半島の東南東沖１３０km の海底を震源として発生した地震は，日本における観測史上最大の規模，マグニチュード ９．０を記録し，最大震度は７で，震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約５００km，東西約２００km の広範囲に及びました。東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらし，のちに政府により「東日本大震災」と名称を発表されたこの地震によって，茨城県内のほぼすべての図書館が被害を受け，休館に追い込まれました。

震災直後，茨城県図書館協会では，県内図書館の被災状況を情報収集して一覧にまとめ，茨城県立図書館ホームページに随時公開し，県民や図書館関係者等に情報提供してきました。このたび，その情報収集・提供活動の一環として，この「東日本大震災」による図書館の被害状況と復興までの過程を記録して一冊の資料集としてまとめ，後世への参考にすることが重要であるとの思いから，ここに「東日本大震災茨城県内図書館被災記録集」として，刊行することといたしました。茨城県の被害状況については，東北地方に比べて，情報が少ない傾向にあったと言えます。実際には，地震の揺れ自体はかなり激しく，図書館建物への被害は甚大なものがありました。本書によって，被害の実態が初めて明らかにされる部分も多いのではないでしょうか。本書にまとめられた詳細な記録が，図書館の危機管理を検討する資料として，広くご活用いただけることを願っております。

最後に，復興に向けて労苦を惜しまず活動し，また，再開後の忙しい業務の中，本書の趣旨に賛同して記録執筆及び被災写真の提供にご協力いただきました会員館の皆様方に，この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

平成２４年６月

茨城県図書館協会相互協力委員会

東日本大震災茨城県内図書館被災記録集

発　　行　平成２４年６月
編集・発行者　茨城県図書館協会
〒310-0011　水戸市三の丸１－５－３８
茨城県立図書館内
電話 029-228-3622　FAX 029-228-3583
E-mail　ila@lib.pref.ibaraki.jp
URL　http://www.lib.pref.ibaraki.jp/home/ila/index.htm